

阪大 一地域に生き世界に伸びる一

NOW

80th 原点へ
ANNIVERSARY
未来へ
2011
OSAKA UNIVERSITY



8

OSAKA UNIVERSITY 2011/No.126



トピックス

平野俊夫新総長就任

新総長インタビュー

「夢を持ち続けてほしい」

クローズアップ

大阪大学の産学連携の取り組み

2011 8月号
No. 126

平野俊夫第17代総長

目次

トピックス	2
新総長インタビュー	10
クローズアップ	12
役員室だより	16
80周年	32
ナウスペシャル	38
キャンパスニュース	40
表彰等	67
人事	72
訃報	76
インフォメーション	80
職員インタビュー	87
海外拠点だより	88
交流協定大学・編集後記	90
クラブ&サークル	91
トピックス	92



大阪大学は、今年、創立 80 周年という記念すべき年を迎えました。「大阪にも帝国大学を」という地元大阪府民の熱意と、当時の大阪府立医科大学長の楠本長三郎（大阪帝国大学第 2 代総長）や大阪府知事の柴田善三郎ら関係者の努力により、1931 年、医学部と理学部の 2 学部からなる「大阪帝国大学」が、長岡半太郎初代総長の下、我が国第 6 番目の帝国大学として誕生しました。

江戸時代末期、緒方洪庵が「新知識をもって世の中の人を救う」ことを目的に私塾として設立した「適塾」の自由な学問的気風と先見性は、大阪府立医科大学を経て、医学部と理学部へと繋がります。翌々年には大阪工業大学が工学部として加わりました。戦後、新たに法文学部が加わった際に、江戸時代後期、大坂町人が町人のために漢学と国学などを伝習した「懐徳堂」の蔵書類が懐徳堂文庫として本学に寄贈され、大坂の町に息づいた独創的な学問と思想も受け継ぐに至りました。新制大学としてスタートの際には、法文学部を文学部と法経学部に改組し、現在の総合大学としての骨格が整いました。

大阪外国語大学出身の司馬遼太郎が小説「花神」の冒頭で、適塾を大阪大学の「前身」、緒方洪庵を「校祖」と表現しています。このように、「適塾」を原点として、「懐徳堂」の精神を受け継ぎ、大阪市民の熱意に支えられた



銀杏会館（吹田キャンパス）

表紙写真：「虎狼痢治準（ころりちじゅん）」、「扶氏医戒之略（ふしいかいのりやく）」

双方とも緒方洪庵が著したもので、「虎狼痢治準」（手前）は、1858 年のコレラ（当時は虎狼痢と呼ばれ死亡率が高く恐れられていた）流行に際して治療手引き書として出版され、医師に配布されるなど日本医学の近代化に貢献しました。また、「扶氏医戒之略」（奥）は、「人のために生活し、自分のために生活を送らないことを本業とせよ」など、医師が守るべき戒めを 12 箇条にまとめ門人に教えたもので、現代においても学ぶべきものが多く記されています。

銀杏会館 1 階の「医学史料展示室」にて、上記の史料をはじめ、緒方洪庵が創設した適塾からの、医学部の歩みをたどることができます。

表紙デザイン：ウェブデザインユニット

就任挨拶

本学は、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、大学院の重点化、2004年の国立大学法人化、2007年の大阪外国語大学との統合を経ながら、我が国を代表する総合大学として世界に向かって、たゆみなく発展を遂げて参りました。そして幾多の優れた研究者、教育者、文化人、そして政財界など各界の指導者や卓越した人材を世に輩出してきました。

大阪大学は、創立80周年を機に「原点へ・未来へ」をタイトルに掲げ、大学の現在の姿をその原点に見出し、その現在に立ち未来へ飛躍しようとしています。しかし、今日我が国は戦後最大の危機に直面しています。大学もまたきわめて厳しい状況にあります。このような時代において、魔法のような素晴らしい解決法はありません。困難な時ほど、基本に立ち戻る必要があります。すなわち、大学は「学問と教育の府である」という基本に今一度、立ち戻らなければなりません。

我が国が存続していくためには、学術や技術開発の振興が不可欠です。学術の振興なくして革新的な技術開発や、心豊かで平和な社会の発展はありません。社会が大学に求めているところは、知的創造活動としての基礎的学術研究の推進であります。大学がどれほど基礎的学術研究に力を注いでいるかは、その大学の底力に反映されると思います。流行に流されることなく、永続性を有し、かつ卓越した「学問の府」であり続ける基盤を確立する努力をしていかなければなりません。

「国家100年の計は教育にあり」と言われておりますように、我が国の将来は、ひとえに人材育成にあります。大学は、将来各方面で指導的立場に立ち、人類の福祉と繁栄に寄与できる国際性豊かな優秀な人材を育て、世に送り出すという使命

を担っています。

大学でしかできない基礎的学術研究や、大学でしかできない学問に基づいた教育を推進していかなければなりません。国や社会に対して、学術や教育のあり方を積極的に提言していくことが大学の務めでもあります。そのためには、大学の個々の構成員が、澁刺と自由に活動できること、多様性を有するすべての教育研究組織が独自性を発揮できることが大学発展の根本であります。

蘭学や西洋医学を我が国に導入した適塾で学んだ福沢諭吉や大村益次郎などの多くの人々が明治初期に我が国の近代化のために活躍しました。大阪大学は、この原点に立ち、21世紀に生きる適塾として、日本はもとより世界から優秀な人材を集め、国際社会に送り出していかなければなりません。「世界をリードする学問と教育の世界的拠点となる」という高い志をもって、22世紀においても輝き続ける大阪大学の基盤を、大阪大学構成員の全ての皆様の英知と力をあわせて築いていきたいと思えます。

伝統ある大阪大学の歴史を背に、共に、輝ける未来に向かう一歩を踏み出しましょう。

大阪大学総長 平野俊夫

新総長就任の所感は4～5ページ、インタビューは10～11ページをご覧ください。

【略歴】

- | | | | |
|-------|-------------------------------------|-------|------------------------------|
| 昭47.3 | 大阪大学医学部卒業 | 13.4 | 大阪大学大学院医学系研究科教授 |
| 47.4 | 大阪大学医学部副手 | 14.4 | 大阪大学大学院生命機能研究科教授 |
| 52.6 | 医員（大阪大学医学部附属病院） | 15.4 | 大阪大学評議員（H16.3まで） |
| 53.10 | 大阪府立羽曳野病院 | 15.11 | 大阪大学医学部附属動物実験施設長（H16.3まで） |
| 54.1 | 医学博士（大阪大学） | 16.4 | 大阪大学大学院生命機能研究科長（H18.3まで） |
| 55.5 | 熊本大学助教授医学部附属免疫医学研究施設 | 17.4 | 国立大学法人大阪大学経営協議会委員（H18.3まで） |
| 59.1 | 大阪大学助教授細胞工学センター | 19.4 | 国立大学法人大阪大学教育研究評議員（H20.3まで） |
| 平成.11 | 大阪大学教授医学部附属バイオメディカル教育研究センター | 20.4 | 大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長（H23.3まで） |
| 9.10 | 大阪大学医学部附属バイオメディカル教育研究センター長（H11.3まで） | 22.4 | 国立大学法人大阪大学経営協議会委員（H23.3まで） |
| | 大阪大学評議員（H11.10まで） | 23.8 | 国立大学法人大阪大学総長 |

22世紀にも輝きつづける基盤を創る

1) 基本的な考え方

- ・ 創立 80 周年の標語として掲げられた「原点へ・未来へ」を旨とし、また「継承的創業」の精神に立って、いま一度大阪大学創立の原点に立ち返り、22 世紀においても輝き続ける大阪大学の基盤を構築する。
- ・ 「大学は学問と教育の府である」という理念のもと、「地域に生き世界に伸びる」をモットーに、「大阪大学を学問の世界の拠点とするとともに、世界をリードする高い倫理観を有した優れた人材を育成する」という揺るぎない志をもってことに当たる。またわが国の教育や学術のあるべき姿を、積極的に国や社会に提言し、人類の発展と福祉に貢献する。
- ・ 大学は学生・教職員・事務職員など、一人一人の構成員が基本である。個々の構成員が各教育研究組織を形成し、そうした研究組織が大学を構成する。大阪大学が澁刺と活動し、さらなる発展を遂げるために、文系、理系を問わず、各構成員やその教育研究組織が、それぞれの独自性を最大限に発揮できる環境を整えることが最も重要である。また優秀な人材が国内外から大阪大学に結集するための環境を整備する。
- ・ 各構成員や教育研究組織の意見を尊重するとともに、情報の共有によって透明性の高い運営を基本とする。

2) 教育・研究

- ・ 「国家 100 年の計は教育にあり」と言われるとおり、わが国の将来は一にかかって人材育成にある。またわが国が存続して行くためには、科学・技術の振興が不可欠であることは言を俟たない。大学は、将来各方面で指導的立場に立ち、人類の福祉と繁栄に寄与できる次代の優秀な人材を育て、彼らを世に送り出すという使命を担う。大阪大学は引き続きこの高等教育機関としての使命を推進していかなばならない。また、学術の振興なくして革新的な技術開発や、心豊かで平和な社会の発展はありえず、その社会が大学に求めているところは、知的創造活動としての学術研究や大学にあってのみ為し得る長期的視野に立った技術開発の推進である。今まで以上に大阪大学は人文科学から自然科学に亙るこれらの学術研究や革新的技術開発の推進に力を注がねばならない。また、大学でしか出来ない基礎的学術研究、学問的香りのある教育を推進していく。応用的研究や産学連携は、その上でこそより高い次元で実りあるものとなる。
- ・ 大阪大学を世界最高水準の大学にする。そのために多様性を有する各研究組織の独自性を重んずるとともに、大阪大学の特色をさらに推進する。また工学、医・歯・薬学、経済学、法学はじめとする応用的学問から、文学、哲学、言語研究等の人文科学や、数学、物理学、化学、生物学をはじめとする自然科学といった基礎的学問のそれぞれの特性を重んじ、文系、理系ともに幅広く、その発展を推進して行く。大学がどれほど基礎的学術研究を行なっているかは、大学の底力に反映されると考えている。以上のような考え方で、大阪大学が、流行に流されることなく永続性を有し、かつ卓越した“学問の府”であり続ける基盤を確立する。研究組織がそれぞれの独自性を発揮し、各分野で世界トップをめざすことが基本である。本当に意味のある異分野融合による新しい研究分野の創造はそのことによって可能となる。
- ・ 大阪大学は世界の国々の文化を理解し、世界をリードできる高い倫理観を有した国際人（研究者、技術者、教育者、高度専門職業人、文化人）の育つ場とする。教員や学生を外国から積極的に受け入れ、大学のキャンパスの真の国際化を

はかる。英語のみならず、多様な言語学習環境の整備充実に加え、留学生の日本語教育の学習環境の整備、各種制度の見直しを行う。

- ・わが国の教育や学術・文化振興に関する方針を単に受け入れるだけでなく、大学は“学問と教育の府である”という自覚に立ち、国や社会に、学術や教育のあるべき姿を主張するとともに、その振興策をこれまで以上に責任をもって積極的に発信していく。

3) 大学運営

- ・大学の活動性はそれを構成する人にある。いかなる組織においても、構成員が優秀でなければ、組織の発展は望めない。また総合大学としての活動は、それを構成する各教育研究組織に依存する。人が教育研究組織を構成し、教育研究組織が大学を構成する。この考えに立ち、一人でも多くの優秀な人材を国内外から大阪大学に集める努力と、そのための環境整備や制度の改革を進める。大学留保ポストも大学の理念実現のために最も効果的な配分にする。
- ・大学執行部と教育研究組織の連携強化：大学としての理念実現のため、企画力、実行力の強化をめざし、執行部体制の再構築をおこなう。執行部は将来的な方向性や大学全体の共通の問題に責任を持って取り組み、各教育研究組織は組織の独自性を最大限発揮できるような体制を確立する。そのためには情報の共有がきわめて重要であり、何事にも透明性の高い運営を旨とする。また常に個々の構成員や教育研究組織の意見を徴して大局的な観点からの運営をめざす。
- ・大学の理念実現に向けての財務基盤の構築：財務基盤を点検し、今後予想されるであろう、国からの交付金の削減に耐えることのできる持続性のある財務基盤を確立する。そのため、比較的安定的な収入が見込まれる運営費交付金などの安定的財源を基盤とした健全な運営の可能な体制の構築をめざす。その上で流動性の高い財源は、主として大学の理念実現につながる施策に配分する。また、外部資金を獲得するためいっそうの努力を行なうとともに、それを支援するためのより効率的な体制を整える。
- ・大学の理念実現を強力に支援する事務機構の確立：事務機構の任務は上に述べた大学の理念を実現することにある。このためには事務機構のより望ましい形あり方を再度検討し、大学の理念実現をいっそう強力に支援できる事務機構の確立をめざす。事務職員と教職員が一体となり大学の理念の追求を可能とする事務機構を確立する。

まとめ

大学の本来の使命を果たすことが重要であり、大学でしか出来ない基礎的学術研究や学問的香りのある教育を推進して行くことが重要である。このことにより大学は社会に貢献することができる。受け身ではなく、国や社会に対して、学術や教育のあり方を積極的に提言して行くことが大学の務めである。また大学の個々の構成員が、澁刺と自由に活動できること、同様に多様性を有するすべての教育研究組織が独自性を発揮出来ることが大学発展の根本である。大学の使命を果たすために、執行部、事務機構、教育研究組織、それぞれの構成員全員の英知と力を合わせて取り組んで行かなければならない。そして大阪大学が世界トップクラスの大学として21世紀はもちろん、22世紀においても輝き続ける基盤を構成員全員で確立して行く必要がある。

理事・副学長からの挨拶



恵比須 繁之

えびす しげゆき

総合計画・評価担当

総合計画室の運営に当たっては、大阪大学の教職員の方々が「学問と教育の府」である大学で本来の仕事に傾注できるような環境作りには貢献したいと思っております。

もうひとつ担当します評価室では、大学が社会に対する説明責任を果たすとともに、大学の継続的な質的向上を促進するために導入された評価制度の簡素化を図りつつ、しっかりとした根拠に基づく評価文化を発展させていきたいと思っております。

国立大学が法人化されて7年半過ぎた経験から、計画（企画）と評価の中で、それぞれの連携できる部分を包括的に担当することで、効率的・機動的な大学運営が促進されるだろうという平野総長の構想から、総合計画と評価の両室を担当することになりました。ご支援の程よろしくお願いたします。

- 【略歴】昭47. 3 大阪大学歯学部歯学科卒業
51. 3 大阪大学大学院歯学研究科歯科臨床系修了
51. 3 歯学博士（大阪大学）
51. 4 ミシガン大学医学部ポスドクトラルフェロー
53. 4 大阪大学助手歯学部
56. 6 大阪大学講師歯学部附属病院
58.12 大阪大学助教授歯学部
平 2. 2 徳島大学教授歯学部
8. 1 大阪大学教授歯学部

- 平12. 4 大阪大学教授大学院歯学研究科
16. 4 大阪大学歯学部附属病院病院長（～18.3まで）
17. 4 国立大学法人大阪大学経営協議会委員（～18.3まで）
23. 4 国立大学法人大阪大学教育研究評議員（～23.8まで）
23. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長



東 島 清

ひがしじま きよし

教育担当

平野俊夫総長のもと教育担当の理事・副学長をつとめることになりました。

地球が小さくなり少子化がすすむ日本、その未来を支える若者の成長を助け世に送り出すのが大学教育のつとめだと思います。大阪大学に学ぶ皆さんは、一旦社会に出ると望むと望まざるとに拘わらず、国際社会におけるリーダーとしての役割を求められます。知を愛する人が集まる大学は、知の最前線を切り開き、未来を拓く夢を大きく膨らませる所です。教員の持てるものを吸収するだけでなく、先生を乗り越え、新たな地平を開拓するのが若者のつとめです。学生が夢を叶えるお手伝いをするのは教職員の役割です。皆さんのご意見を聞きながら、未来に輝き続ける大阪大学の教育システムと環境を整えてゆきたいと考えています。

- 【略歴】昭45. 3 京都大学理学部物理学科卒業
47. 3 京都大学大学院理学研究科修士課程（物理学第二専攻）修了
49. 9 京都大学大学院理学研究科博士課程（物理学第二専攻）退学
49.10 東京大学助手理学部物理学科
51. 3 理学博士（京都大学）
52. 3 Purdue 大学物理学科 Research Associate（～54.8まで）

- 昭58. 3 Minnesota 大学 Visiting Assistant Professor（～58.6まで）
62. 4 高エネルギー物理学研究所助教授物理研究系
平 5. 3 大阪大学教授教養部
6. 4 大阪大学教授理学部
8. 4 大阪大学教授大学院理学研究科
20. 4 大阪大学大学院理学研究科長・理学部長（～23.8まで）
20. 8 大阪大学総長補佐（平23.8まで）
23. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長



馬場章夫

ばば あきお

応用研究・産学連携担当

このたび、産官学連携や関連するプロジェクトなど、大学研究の応用展開を主たる役割として理事・副学長に就任いたしました。大阪大学の強みであるといわれている産学連携分野のいっそうの強化・支援が役割と考えています。

研究力と人材育成力を高めていくことが、大阪大学が世界に貢献し、プレゼンスを高めることのすべてであり、同時に学生を育てることで社会に貢献することが最優先事項と心得ています。産学連携やプロジェクトの推進では、その活動や成果が、基盤研究力の向上にフィードバックされて新研究課題の発掘につながり、学生のレベルアップにもつながるべきであるということです。

大阪大学では、今春テクノアライアンス棟を建設いたしました。ここでの協働研究所、共同研究講座は新スタイルの共同研究を目指しての実験を始めます。つねに新しい事象に立ち向かうことが、研究力の強化につながると信じて挑戦したいと考えています。

- 【略歴】昭46. 3 大阪大学工学部応用化学学科卒業
 48. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻
 修士課程修了
 51. 3 大阪大学大学院工学研究科石油化学専攻
 博士課程修了
 51. 3 工学博士（大阪大学）
 51. 4 三菱化成工業(株)総合研究所勤務（～56.7まで）
 56. 8 大阪大学助手工学部精密化学科
 62. 5 大阪大学助教授工学部
 平 7. 1 大阪大学教授工学部

- 平10. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
 16. 4 国立大学法人大阪大学教育研究評議員（～18.3まで）
 19. 4 大阪大学先端科学イノベーションセンター長（～21.3まで）
 20. 4 大阪大学大学院工学研究科長・工学部長（～23.8まで）
 20. 4 大阪大学総長補佐（～23.8まで）
 20. 4 大阪大学サステイナビリティ・デザイン・センター長
 （～22.9まで）
 22. 4 国立大学法人大阪大学経営協議会委員（～23.8まで）
 22.10 大阪大学環境イノベーションデザインセンター長（～23.8まで）
 23. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長



相本三郎

あいもと さぶろう

基盤研究・リスク管理担当

このたび、基盤研究ならびにリスク管理担当の理事・副学長を拝命いたしました。平野俊夫総長の「大学の原点に立ち帰ろう」というメッセージの実現に向けて、学生、院生、ならびに常勤、非常勤を問わず全ての教職員が夢と情熱をもって、学び、考え、研究に没頭できる環境作りに努力したいと考えております。

大阪大学は社会と多様かつ密接な関わりをもちつつ、日々発展を続けております。そのような中において、「すべての分野において基礎的・理論的な研究を重視し、世界水準の研究を自らの課題として、次世代においても研究のリーダーであることを標榜する」という大阪大学憲章の推進のために全力を尽くしたいと考えております。皆様の一層の奮起を期待しますとともに、ご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

また、現在社会は様々なリスクに曝されており、大学も例外ではありません。リスク管理担当者として、日常的に啓発活動を実施するとともに、緊急時の対応マニュアルの高度化を図り、良好なる教育・研究環境の維持に努めたいと思います。

- 【略歴】昭45. 3 大阪大学理学部化学学科卒業
 47. 3 大阪大学大学院理学研究科修士課程
 （有機化学専攻）修了
 47. 8 大阪大学大学院理学研究科博士課程
 （有機化学専攻）退学
 47. 9 大阪大学助手たんぱく質研究所
 52.10 理学博士（大阪大学）
 53.12 米国Roswell Park記念研究所博士研究員

- 昭54.11 米国Yale大学分子生物物理・生化学科博士研究員
 （～55.10まで）
 62.12 大阪大学助教授たんぱく質研究所
 平 6. 1 大阪大学教授たんぱく質研究所
 16. 4 大阪大学教授蛋白質研究所
 20. 4 大阪大学蛋白質研究所所長（～22.3まで）
 20. 4 国立大学法人大阪大学経営協議会委員（～22.3まで）
 23. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長

理事・副学長からの挨拶



阿部 顕三

あべ けんぞう

財務・組織改革担当

このたび、平野俊夫新総長のもとで財務・組織改革担当の理事・副学長を拝命し、門田守人前室長から財務室長を引き継ぎました。

財務室では、大学の使命である教育・研究活動を財政面で支えるべく、目標達成に向けた適切な予算の配分・執行や資金管理・運用等を行うことが求められています。ただ、「中期財政フレーム」に基づく政策的経費の削減に加えて、震災復興等に当てる財源の必要性から、国からの運営費交付金の獲得はますます厳しい状況になると予想されています。中・長期的な視野に立った計画を実施していくためには安定的な財政基盤を確立することが大変重要であると考えます。そのためにも競争的資金、自己収入および寄付金の獲得に向けた継続的な努力を行う必要があります。また、限られた財源を有効に活用するような配分計画を立案することも重要な課題であると考えます。

大阪大学のすべての構成員の皆さんのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

- 【略歴】
- | | | | |
|--------|---------------------------------|--------|------------------------------------|
| 昭55. 3 | 慶應義塾大学法学部政治学科卒業 | 平 4. 4 | 大阪市立大学助教授経済学部 |
| 57. 3 | 神戸商科大学大学院経済学研究科博士
前期課程修了 | 7.10 | 大阪大学助教授経済学部 |
| 60. 3 | 神戸商科大学大学院経済学研究科博士
後期課程単位修得退学 | 10. 4 | 大阪大学助教授大学院経済学研究科 |
| 60. 4 | 名古屋市立大学経済学部助手 | 11. 5 | 大阪大学教授大学院経済学研究科 |
| 61. 4 | 立命館大学経済学部助教授 | 14.11 | ブリティッシュ・コロンビア大学商学・経営学部
HSBC客員教授 |
| 平 2. 2 | 経済学博士（神戸商科大学） | 18. 4 | 大阪大学財務・会計室員（～20.3まで） |
| 3. 7 | 国際通貨基金（IMF）調査部客員研究員 | 20. 4 | 大阪大学財務室員（～22.3まで） |
| 3.10 | 大阪市立大学講師経済学部 | 22. 6 | 大阪大学大学院経済学研究科長・経済学部長（～23.8まで） |
| | | 23. 8 | 国立大学法人大阪大学理事・副学長 |



尾山 眞之助

おやま しんのすけ

人事労務担当

再び理事・副学長を務めることになりました。新執行部では、引き続き人事・労務を担当するほか、安全衛生管理などに取り組むこととなります。

もとより大学の発展を担うのは人材です。優秀な人材を確保するための人事システムを整えること、大学が異なった経験や知識、感性を有する多様なメンバーに支えられるようにすること、大学の構成員が安心してその能力を存分に発揮できる職場環境を整えることは、大学の重要な基盤を築くものであると認識いたしております。

「21世紀はもちろん22世紀においても輝き続ける大阪大学の基盤を築く」という平野総長の方針の下、誠心誠意努力してまいりますので、引き続き皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

- 【略歴】
- | | | | |
|--------|-------------------------------|--------|------------------|
| 昭53. 4 | 文部省入省 | 平17. 4 | 国立教育政策研究所次長 |
| 平 7. 7 | 文部省初等中等教育局企画官 | 18. 7 | 文部科学省大臣官房審議官 |
| 8. 7 | 文部省生涯学習局青少年教育課長 | 19. 1 | 文化庁文化部長 |
| 10. 7 | 文部省教育助成局教職員課長 | 20. 7 | (独)日本学生支援機構理事 |
| 12. 6 | 文化庁芸術文化課長 | 22. 4 | 国立大学法人大阪大学理事・副学長 |
| 14. 4 | 文部科学省科学技術・学術政策局政策課長 | | |
| 15. 7 | 文化庁長官官房政策課長 | | |
| 16. 7 | 文部科学省スポーツ・青少年局
スポーツ・青少年統括官 | | |



江口 太郎

えぐち たろう

広報・社会学連携担当

このたび高杉英一前理事・副学長の後任として広報・社会学連携担当の理事・副学長に就任しました。同時に、中之島センター長、21世紀徳徳堂学主、適塾記念センター長なども兼務いたします。大阪大学の社会に開かれた窓口業務の多くを担当することになりますが、何とぞよろしくお願いいたします。これまでは総合学術博物館長として教育・研究そして企画展・特別展開催などの社会学連携事業に努力して参りました。今後はより広く長期的な視点、全学的立場から、大阪大学の社会学連携事業のみならず広報の推進に携わっていくこととなります。前執行部がこれまでに取り組んできた様々な阪大活性化の試みを尊重しつつ、平野新総長がしばしば口にする「大学は学問と教育の府である」という当然の原則を大切にす

る広報・社会学連携室を目指していきたいと存じます。
市民が創った大阪大学の伝統を守るとともに、自由闊達で多様なキャンパス文化の地域社会への発信を、未来に向けて進展させたいと考えています。ゲーテの言葉「急がず休まず」を肝に銘じて、最近の社会や大学を取り巻く環境の中で、「当たり前のこと」を当たり前に行うことがいかに難しいかを痛感しておりますが、全学の皆様のご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。

- | | |
|---|-----------------------------|
| 【略歴】昭45. 3 大阪大学理学部化学科卒業 | 平 6. 4 大阪大学助教授理学部 |
| 45. 4 大阪大学理学部化学科研究生 | 8. 4 大阪大学助教授大学院理学研究科 |
| 48. 3 大阪大学大学院理学研究科修士課程
(無機及び物理化学専攻) 修了 | 14. 3 大阪大学教授大学院理学研究科 |
| 51. 3 大阪大学大学院理学研究科博士課程
(無機及び物理化学専攻) 単位修得退学 | 14. 4 大阪大学教授総合学術博物館 |
| 51. 4 大阪大学助手教養部 | 17. 4 大阪大学総合学術博物館長(～23.8まで) |
| 52. 6 理学博士(大阪大学) | 23. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長 |
| 平元. 3 大阪大学助教授教養部 | |



高橋 明

たかはし あきら

国際交流担当

辻 毅一郎前理事・副学長の後任として、理事・副学長に就任いたしました高橋 明です。これまで、一研究者として、また世界言語研究センター長として大学の国際交流、国際化の取り組みを肌で感じてまいりました。今後は国際化拠点整備事業(「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」)により開設した各コースの充実や他大学との連携に基づく国際化促進事業を展開しつつ、海外からの優秀な留学生をこれまで以上に積極的に受け入れるために、サポートオフィスの継続運営と短期学生受入・派遣プログラムの充実化ならびに各海外教育研究センターの新たな可能性を視野に入れつつ、大学のさらなる国際化に向けて様々な企画に取り組むとともに諸課題の解決にあたっていきたいと考えております。
辻 前理事・副学長同様、皆様方のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

- | | |
|---|--------------------------------|
| 【略歴】昭54. 3 大阪外国語大学外国語学部インド・パキスタン
語学科卒業 | 平11. 2 インド国立デリー大学 Ph.D |
| 57. 6 インド国デリー大学大学院ヒンディー語文学科
修士課程修了 | 14. 1 大阪外国語大学教授外国語学部 |
| 58. 3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科西アジア
語学専攻修士課程修了 | 18. 4 大阪外国語大学学長特任補佐(～19.9まで) |
| 58. 4 大阪外国語大学非常勤講師 | 19.10 大阪大学教授世界言語研究センター |
| 62.10 大阪外国語大学講師外国語学部 | 19.10 大阪大学世界言語研究センター長(～23.8まで) |
| 平 3. 1 大阪外国語大学助教授外国語学部 | 23. 8 国立大学法人大阪大学理事・副学長 |

平野俊夫新総長インタビュー「夢を持ち続けてほしい」

8月26日、鷺田清一前総長からバトンを引き継ぎ、第17代総長に就任した平野先生に、大阪大学との出会い、学生時代、大学のあり方などについてお話を伺いました。

(聞き手：巽広報・社学連携事務室長)

総長就任が決まり、生活の中で変わられたと感じることはありますか

まだ、実感はありませんがとても忙しくなりそうですね(笑)。

ご家族の反応はいかがでしたか

家族からは、まず体の心配をされました。健康を気遣ったことですが、私の知らない間に予約をとられ、初めて胃カメラの検査も受けましたよ。

ご趣味は

これはというものはありませんが、クラシック音楽やオペラは好きですね。作曲家ではブルックナー、ワグナー、ヴェルディなどが好きです。NIH(National Institutes of Health、国立衛生研究所)があるボルチモアに留学していた頃、週末は車を片道3時間ほど走らせてニューヨークでオペラを昼の部、夜の部と二本立てで鑑賞し、明け方帰ってくるといこともこなしましたね。今は趣味に割ける時間がなく、ゆっくりと劇場鑑賞を楽しむことは難しいですが。

大阪大学との出会いについて

実家が大阪で、父親が開業医であったことや、また私が幼い頃に病気がちだったことも影響して、自然な流れで医学部という選択になりました。あとは当時の入試制度も若干影響しているんです。大阪大学と東京大学は受験科目が一緒なので、同じ勉強をしていれば特別な対策は要らなかったのですが、京都大学は科目が多かったんですね。東京大学との迷いもありましたが、わざわざ東京へ行くこともないかということで大阪大学を選びました。

また、大阪大学医学部のルーツである適塾の存在ですね。日本の医学の源流ともいえる伝統に後押しされました。

医学部の選択にあたっては、多様性を特徴とするところも魅力でした。医学部を出て、当然医療に携わる人が多いのですが、小説家や漫画家になる人や政治家になる人もいて、人間というものを対象にする学問だからこそ、多



様性というところが魅力でした。文系、理系両方の発想が必要なんです。これは、相手が人間ゆえに柔軟で幅広い発想が必要とされるからでしょう。

どのような学生時代を過ごされ、今のご専門に進まれるようになったのですか

トライ&エラーの気持ちでクラブ活動は色々やっていました。その中でも、山歩きは特にのめりこみました。富士山以外の3000m級の山はすべて登りました。

講義も割とまじめでしたよ。英語、ドイツ語に加え、今となっては忘れましたが、第3外国語のロシア語も取りました。

当時の私は、骨の名称など、必要ではあるが、暗記物多い医学部の講義に退屈を感じていたんですが、その中で放射線基礎医学の近藤宗平先生の講義を聞いて感動しました。京大で物理学を修められた先生の、非常に理論的な講義が新鮮で講義の後、直接先生を訪ね、見よう見まねで実験もさせてもらうようになり、研究の面白さと出会いました。

現在に続く免疫学との出会いは、山村雄一先生(第11代総長)の免疫学の真髄を説く熱い講義と出会ったことがきっかけです。卒業を目前にした時期、「免疫学をするならアメリカで。」との近藤先生のアドバイスもあり、アメリカに留学することにしました。ただ、さすがに国家試験を受けてからということで、試験後、第3内科(山村研)へ入局し、1年して近藤先生から紹介してもらったボルチモアにあるNIHの研究所へ留学しました。

ボルチモアには第3内科の先輩がいるということで事前に第3内科の先生が、その先輩に連絡をしておいてくださいました。そして、ボルチモア空港で迎えてくださったのが、なんと後に第14代総長になられた岸本忠三先生です。それが、岸本先生との出会いです。

岸本先生とは、先生が帰国されるまでの1年間ポルチモアで交流を深めました。

偉大な恩師との出会いがあったんですね。

「夢見て行い、考えて祈る」などの言葉を残された山村先生からは、研究者は大きな夢をもって、その夢のもとに研究を実行するべきだという精神的な教えをいただきました。また、世界と渡り合うための志や研究の厳しさを岸本先生から学んだと言えるでしょう。第5代総長の今村荒男先生を含めて「第3内科」から総長が4人も輩出されたことにも人の繋がりの重みを感じますね。

平野先生のお考えになる「大学」とは

大学は、学問体系に基づいた教育が行われ、学究的精神を育む場所と考えています。

大学は大学でしかできないことをやるべきです。それは、基礎的・学術的研究や学問にもとづいた教育です。基礎的な研究の先に応用研究があります。今日の人類の進歩は、長い学術研究が積み重ねられ、その上での応用研究の成果というべきでしょう。今、基礎をおろそかにすると、基礎の成果の上に建つ応用を積み重ねることができなくなってしまいます。高層ビルの基礎工事を思い浮かべて下さい。高いビルを建てるにはその大きさに耐えうる深く強固な基礎が必要です。同じように応用研究が高い次元で開花するためには深い基礎研究が必要です。深い基礎研究に大学の底力が現れると思います。短期的な成果を求めるときではありません。

大学の役割はどのようにお考えでしょうか

人は危機的な事態（戦争や災害）のときを除くと衣食住足りるだけでは幸福感を持って生活を送ることはできません。幸せな生活とは、豊かな心で生きる生活です。その心の豊かさ・夢や理想、ロマンを育むのが大学だと思います。そのために、大学は理想に根ざしてあるべきで、その理想に近づくために努力を積み重ねるのです。知的好奇心を刺激しながら社会で活躍できる人材を育成することが大学の本来の社会貢献であると思います。

取り組んでみたいことについて教えてください

アジアの優秀な高校生に大阪大学へ入学してもらえようになりたいと思っています。学部入学定員に占める留学生の割合を1割ぐらいにできたらと思っています。そして、日本について深く知ってもらうために、日本語のみならず、日本の文化をしっかりとマスターしてもらいたいです。また



それらの留学生には、日本人学生と1対1の比率の寮で過ごしてもらって仕組みができたらと思っています。つまり、国際交流や国際化といっても最終的には人と人のつながりが基本だと考えるからです。

構成員に向けてメッセージをお願いします

学生をはじめ、若い方には夢を持ってほしいですね。若い方とお話するときに「あなたにあって私にないものは？それは未来という無限の可能性です」と話します。夢は遥かなあたにあって、容易に実現できないものだから夢なのですが、その夢に近づく努力を続けることが大切です。夢を失うと人は精神的に歳を取ります。私自身も夢を持ち続けてずっと青年でありたいと思っています。

とにかく、皆さんに夢や理想を持ち続けてほしいですね。そして、その夢に近づくために一つ一つ目の前のことをがんばってほしいです。

皆さんが使命感を持ってがんばってくだされば、大学は自ずとよくなるのではないのでしょうか。皆さん一人ひとりが生き生きとがんばる環境を整えることが私（総長）の仕事だろうと思っています。縁の下の力持ちになりたいですね。

<インタビューを終えて>

夢や理想を持ち続けることの大切さをご自身の経験を踏まえて、語っていただきました。皆が志を高く持つことができる大阪大学のために、たくさんイメージを描いておられるようでした。

ひらの・としお

プロフィール

昭和22年4月17日生まれ。昭和47年大阪大学医学部卒業。大阪府立羽曳野病院内科を経て、熊本大学助教授、大阪大学助教授、同教授、生命機能研究科長等を歴任。平成20年から平成23年3月まで同大学院医学系研究科長・医学部長。平成23年8月26日 第17代大阪大学総長に就任。（任期：平成27年8月25日まで）。持田記念学術賞、サンド免疫学賞、藤原賞、クラフォード賞、日本国際賞などを受賞。平成18年紫綬褒章受章。

大阪大学の産学連携の取り組み

産学連携推進本部は平成 20 年 4 月にスタートし、先端科学イノベーションセンターとともに本学の産学連携活動推進の両輪として機能してきましたが、平成 23 年 4 月、両組織を整理・統合し、産学連携活動の窓口の一元化を図り、さらに強固な産学連携活動を推進するために「産学連携本部」を設置しました。さらに、「イノベーションを創出し、若手人材を育成する」ことを目指す新たな産学連携拠点として「大阪大学テクノアライアンス棟」が竣工し、6月28日に竣工披露式典が取り行われました(詳細は54ページ参照)。本稿では、『テクノアライアンス棟』と、同棟を中心に展開する産学連携本部における、概要、役割、取り組みについて説明いたします。



○テクノアライアンス棟

テクノアライアンス棟は、平成 21 年度補正予算に基づき、国立大学法人等の施設の先端研究施設の整備の一環として事業化され、9 階建て（総面積約 12,000 平方メートル）で、吹田キャンパス西門を入った左手の場所に建設されました。壁面は、地上から屋上にかけて茶系から青系へグラデーションを施したタイルと、「TechnoAlliance」の文字が印象的です。

1 階は交流エリアで、アライアンスホールから交流サロンにかけて、一部吹き抜けのオープンなスペースとなっており、成果発表等の展示からシンポジウム、交流会等に開放的な雰囲気です。10 名前後のミーティングルームも 3 部屋あります。2 階はオフィス・会議エリアで、産学連携本部と研究推進部産学連携課が入居し、他に会議室、セミナー室、技術移転室（本学の技術移転機関であるリクルート社が使用）があります。1、2 階には、創立 80 周年記念事業委員会産学官連携イベント実行委員会にて企画した「産業界との連携のあゆみ」が展示されています。これは、歴代の本学関係者が貢献し実際に我々の社会生活を豊かにすることに貢献した技術・製品・サービスを 80 枚のパネルにまとめたものです。

3 階から 9 階は、研究・実験エリアとなっており、A ブロックと B ブロックの 2 つのユニットにより構成されたエリアは、それぞれ研究室 129 ～ 135 平方メートル、実験室 252 平方メートル、廊下等 117 ～ 121 平方メートルの、合計 502 ～ 504 平方メートルのまとまった研究・実験エリアが確保されています（9 階は研究室 21 ～ 24 平方メートル、実験室 61 ～ 65 平方メートルずつにあらかじめ分割）。また各フロアのブロック間にはオープンスペースとして交流ロビーがあります。

テクノアライアンス棟は、大阪大学の特徴的な産学連携スタイルである「共同研究講座」をはじめとし、新たな仕組みである「協働研究所」、「協働ユニット」といった多様な産学連携手法にてご活用いただける施設です。これは、大阪大学が産学連携のモットーとして掲げている「Industry on Campus」を実現するものです。「共同研究講座」は企業から提供された資金で大阪大学内に設置する、共同研究に専念する研究組織です。大阪大学と出資企業とが協議しながら研究を行い、双方の研究者が共通の課題について研究を行うことにより、柔軟かつ迅速に研究活動を運営します。「協働研究所」は企業の研究組織を大阪大学内に誘致し、多面的な産学協働活動を展開する拠点です。企業と大阪大学が共通の場で相互に研究の情報・



技術・人材・設備等を利用して、研究成果の産業への活用促進、研究の高度化、双方の高度人材育成を目指します。「協働ユニット」は、特定の分野の学内および産業界の研究者を集めた研究グループで、企業ニーズに応じた研究活動を行います。単独では困難な高度な共通課題の検討、コストや時間のかかる研究活動、先進的機器の協働利用などを複数企業からの資金を集めて行い、産業界に成果を還元します。

○産学連携本部

平成 23 年 4 月に一つの組織として統合された産学連携本部は、「総合企画推進部」、「知的財産部」、「イノベーション部」からなります。産業界との共同研究・受託研究の企画・推進、起業化支援、知的財産の創出・管理・活用の戦略策定や契約業務、特許技術移転活動、イノベーション創出のための段階的なインキュベーション、イノベーション人材の養成・アン



アライアンスホール



交流サロン

テクノアライアンス棟の3つの連携方式

共同研究講座

企業から提供された資金で大阪大学内に設置する、共同研究に専念する研究組織です。大阪大学と出資企業が協議しながら研究を行い、双方の研究者が共通の課題について研究を行うことにより、柔軟かつ迅速に研究活動を運営します。

- 2年から10年の設置
- 共同研究に専念
- 知的財産の活用を重視した取決め
- 出資企業と大学が協議して運営

協働研究所

企業の研究組織を大阪大学内に誘致し、多面的な産学協働活動を展開する拠点です。企業と大阪大学が共通の場で相互に研究の情報・技術・人材・設備等を利用して、研究成果の産業への活用促進、研究高度化、双方の高度人材育成を目指します。

- 3年間以上の設置
- 基礎から実用化まで一貫して行う研究組織
- 企業の自主研究も可能
- 出資企業と大学が多面的な連携

協働ユニット

特定の分野の学内および産業界の研究者を集めた研究グループで、企業ニーズに応じた研究活動を行います。単独では困難な高度な共通課題の検討、コストや時間のかかる研究活動、先進的機器の協働利用などを複数企業からの資金を集めて行い、産業界に成果を還元します。

- 3年間以上の設置
- 社会の共通課題に対して共同で研究を進める拠点



トレプレナーシップ教育、テクノアライアンス棟の管理・運営を担当しています。

「産学連携」は、教育、研究、社会貢献の多岐にわたって進められていますが、「技術移転における産学連携」も多様化してきています。「総合企画推進部」では、いわゆる「ギャップファンド（開発資金）」の運用を開始しました。大学の研究成果と、企業が共同研究や知的財産のライセンスに関心を示す段階とはギャップがある、といわれています。このギャップを埋めるための開発研究（いわゆる概念実証：Proof of Concept）を行い、企業が求めるシーズに育成する挑戦を開始します。さらに、現在はバイオベンチャー支援が中心ですが、起業により事業化を目指すべきテーマについては、さらなる支援体制を検討しています。また、様々な応用製品に活用できる可能性を秘めているシーズについては、広く産業界に知っていただくための活動を費用対効果にも留意しながら海外も含め積極的に推進します。また、ハイスループットスクリーニング等の創薬研究機器を導入し、創薬シーズにおけるギャップを埋める活動体制も検討を進めております。

(<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/JST/> 参照)

「知的財産部」では、年間 400 件近い発明届の承継判定・特許出願とその維持・管理、ならびに、年間約 800 件近い受託・共同研究契約書と研究成果有体物契約書の変更協議の対応の他に、特許、マテリアル等の移転活動をリクルート社（平成 22 年 9 月より業務委託）とともに推進しています。企業との共同発明については、出願前からの有償譲渡も含め、積極的に共同研究先企業への移転を進めています。また、本学単独発明については、権利化の可能性を見極めて出願前から直接企業へ活用の見込みをヒアリングするなど、より活用を重視した特許出願・維持を進めています。これらの実施料等収入は、平成 21 年度、22 年度には 1 億円を超え、1 件で数千万円の収入となる案件も今年度になり出てきました。体制としては、知的財産部の事務を産学連携課知的財産事務グループに集約し、より効率的な体制を構築しつつあります。近い将来、本学の知的財産を活用した製品が世の中に利用され、ランニングロイヤリティ（継続的な実施料収入）の形での成功例が増加することを期待しています。

「イノベーション部」では、文部科学省イノベーション創出若手研究人材養成プログラム「協働育成型イノベーション創出リーダー養成（通称 CLIC）」を推進しています。CLIC は、博士人材がアカデミアのみならず広く社会のリーダーとして

活躍する第一歩を踏み出すためのサポートです。例えば、長期インターンシップでは、大阪大学の特任研究員という立場で 3 ヶ月間企業にて研鑽を積みます。テーマは、受入企業から提案されるもの（課題解決型）と、逆に参加者自らが提案するもの（課題提案型）の 2 種類があります。いずれも受入企業の指導者のもと、企業での研究・開発とはどのようなのか、自身の活躍の場を得るために身に付けなければならないのは何かを、日々考えながら臨むこととなります。大切なことは、インターンシップとは言え「学生意識」ではなく「社会人意識」を持って参加することです。CLIC がサポートするインターンシップは、まさに経験・能力向上を通じて自分の活躍の場を広げ、またそれを勝ち取るためのステップです。

○最後に

テクノアライアンス棟は、外部機関としては、当初、日東電工、カネカ、アジレント・テクノロジー、日立造船、西日本高速道路、光科学関係の企業が協働研究所等の制度を活用して入居します。キャンパス内に常に数十人の産業界の人材が常駐することになります。同棟 2 階には、本学の産学連携機能を担う、産学連携本部と研究推進部産学連携課も集結しました。

テクノアライアンス棟を活用して、大学内に企業の風を吹き込ませ、そこで、産業界と大学とが連携して研究することにより、より良い成果をスピーディーに挙げて社会の発展に貢献するイノベーション創出を目指します。また、大学院生及び博士研究員（ポスドク）、入居する企業若手研究開発者には、大学に蓄積した教育・研究と企業の研究開発の場で、大学と企業が相互浸透した若手人材育成を実施します。日常的に産業界のニーズ、競争的環境にふれることで、未来の科学技術を担う人材育成が可能となり、科学技術によるイノベーションを産み、新たな産業ニーズ、社会ニーズに応える次世代技術と人材育成のための基盤となることを期待しています。

ご質問、お問い合わせ、ご相談は下記までご連絡下さい。

大阪大学産学連携本部

〒565-0871 吹田市山田丘 2-8

TEL : 06-6879-4206 FAX : 06-6879-4208

E-mail : contact@uic.osaka-u.ac.jp

<http://www.uic.osaka-u.ac.jp/>

役員室だより

2011.8 Vol.43

大学の動き

平成24年度概算要求事項

平成24年度新規概算要求については、薬学研究科博士後期課程及び博士課程（4年制）の設置を始めとした学部・大学院組織等の整備、教育研究活動のさらなる充実・発展のための特別経費等を、7月6日に文部科学省に提出いたしました。要求事項の一覧は16～18ページに掲載しています。

なお、平成20年度以前に採択された事業のうち、全学の教育研究の改善・改革に資する取組として、3件の一般経費組替希望調査を併せて提出いたしました。

また、特別経費「教育関係共同実施分」として、

今年度より、文部科学省から教育関係共同利用拠点として認定を受けた、「日本語・日本文化教育研修共同利用拠点」に係る事業費を新たに要求しています。「全国共同利用・共同実施分」については、平成23年度に引き続き、文部科学省が認定する共同利用・共同研究拠点等における各種プロジェクト等を支援する経費を、「基盤的設備等整備分」については、各法人が策定する「設備マスタープラン」に基づき、基盤的設備の計画的整備等を支援する経費として要求しています。

平成24年度概算要求事項（大阪大学 文部科学省）

部局等名	事項名	備考
【学部・大学院組織等整備】		
経済学研究科	博士前期課程専攻の改組(3専攻を2専攻へ、入学定員の増減なし)	
歯学研究科	博士課程専攻の改組(2専攻を1専攻へ、入学定員の増減なし)	
薬学研究科	博士後期課程及び博士課程(4年制)の設置(博士後期:20名・博士(4年制):10名)	旧課程: 32名
薬学研究科	博士前期課程入学定員の増(15名増)	
言語文化研究科	博士前期・後期課程専攻の改組(2専攻を3専攻へ、入学定員の増減なし)	
連合小児発達学研究所	博士後期課程入学定員の増(5名増)	3大学連合を5大学連合へ

【特別経費】 (事項名称における太斜字は継続分を示す。)		
プロジェクト分		
国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
グローバルコラボレーションセンター	国際協力・共生社会のための実践的教育改革事業-グローバルコラボレーションセンター-(9-6)	一般経費組替申請
サイバーメディアセンター	大学教育のグローバル化に対応したFD支援事業(4-4)	
基礎工学研究科	量子機能融合による未来型材料創出事業-スピントロニクス、オプトロニクス、モレクトロニクス、クオントロニクスの融合による未来型機能材料創出事業-(4-3)	
歯学研究科・歯学部附属病院	「口の難病」から挑むライフ・イノベーション(6-2)	
産業科学研究所	先端テクノサイエンス融合領域研究者育成のためのニューマスター構想-附置研究所を拠点とする研究密着型のグローバル・産学連携人材育成-(5-1)	新規
環境イノベーションデザインセンター	想創技術社会実現のための「環境イノベーションデザイン」教育研究拠点形成事業(4-1)	新規
教育・情報室	教育学習支援機能の組織化による質保証の全学展開(6-1)	新規
高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
コミュニケーションデザインセンター	コミュニケーションデザイン教育事業の推進-コミュニケーションデザイン・センター-(11-8)	一般経費組替申請
学際融合教育研究センター	学際融合教育事業の推進-学際融合教育研究センターの構築-(4-3)	
ナノサイエンスデザイン教育研究センター	ナノサイエンス総合デザイン力育成事業の推進-多層ネットワーク型産学・国際連携人材育成-(3-3)	
医学部附属病院	医療安全能力向上のための効果的教育・トレーニングプログラムの開発-医療安全学の構築と人材育成-(4-3)	
知的財産センター	総合的知的財産教育事業の推進-知財センター(IPrism)の設置-(6-3)	
薬学研究科	先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンス教育プログラムの共同開発(6-3)	

部局等名	事 項 名	備 考
情報科学研究科 金融・保険教育研究センター	ソフトウェアイノベーション先導のための研究教育プログラムの開発(4-2)	
大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実		
科学教育機器リノベーションセンター	革新的研究教育基盤機器開発整備事業(5-5)	一般経費組替申請
産業科学研究所	附属研究所間アライアンスによるナノとマクロをつなぐ物質・デバイス・システム創製戦略プロジェクト(6-3)	
接合科学研究所	特異構造金属・無機融合高機能材料開発共同研究プロジェクト(6-3)	
蛋白質研究所	生命分子素子から生命システムの全体像を解き明かす多次元国際研究(6-3)	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー相対論核科学の開拓(6-3)	
核物理研究センター	サブアトム科学研究推進事業(4-3)	
超高压電子顕微鏡センター	超高压電子顕微鏡連携ステーション(第 期)(6-3)	
医学系研究科(保健学専攻)・社会経済研究所・薬学研究科・人間科学研究科・歯学研究科・基礎工学研究科	高齢双生児レジストリーに基づく双生児研究基盤の構築 - 心豊かで健やかな超長寿社会を目指して-(4-2)	
工学研究科 レーザーエネルギー学研究センター	パワーレーザー科学連携研究拠点事業(4-1)	新規
生命機能研究科	生命動態イメージングによる最先端生命科学の推進～生命をシステム科学する～(5-1)	新規
産学連携機能の充実		
臨床医工学融合研究教育センター	医・工・情報連携によるハイブリッド医工学産学連携拠点整備事業 - 医情報連携センター構築にむけて-(4-2)	
薬学研究科・医学系研究科	くすりの町大阪 阪大・道修町プロジェクト～産学連携創薬教育研究プログラム～(5-1)	新規
文学研究科	アーツリンクス・プログラム～芸術×先端知による芸術・科学・市民融合型教育研究プラットフォーム～(5-1)	新規
全国共同利用・共同実施分		
産業科学研究所	物質・デバイス領域共同研究拠点によるネットワーク型共同研究事業(6-3)	
社会経済研究所	行動経済学公募共同研究プロジェクト(6-3)	
微生物病研究所	微生物病共同研究拠点事業(6-3)	
接合科学研究所	接合科学共同利用・共同研究拠点事業(6-3)	
蛋白質研究所	蛋白質研究共同利用・共同研究拠点事業(6-3)	
核物理研究センター	サブアトム科学研究拠点事業(6-3)	
レーザーエネルギー学研究センター	超高強度レーザーが拓く高エネルギー密度科学の戦略的研究拠点事業(6-3)	
教育関係共同実施分		
日本語日本文化教育センター	日本語・日本文化教育研修共同利用拠点(5-2)	新規
基盤的設備等整備		
理学研究科	フーリエ変換質量分析システム	
理学研究科	超高周波電子スピン共鳴(ESR)年代測定装置	
薬学研究科	500MHz核磁気共鳴装置	
基礎工学研究科	高分解能角度分解光電子分光システム	
核物理研究センター	サイクロトロンカスケード装置	
核物理研究センター	陽子・重陽子偏極標的冷凍システム	
レーザーエネルギー学研究センター	レーザー駆動高強度テラヘルツ波分析装置	
レーザーエネルギー学研究センター	激光エクサレーザー装置	
レーザーエネルギー学研究センター	クライオターゲット装置	
産業科学研究所	超精密微細高精度ナノ加工機	
産業科学研究所	強力超短時間パルス放射線発生装置	
蛋白質研究所	無染色細胞・組織三次元イメージング装置	
蛋白質研究所	生体超分子複合体高精度X線解析装置	
蛋白質研究所	生体超分子構造解析装置	
接合科学研究所	走査型電子顕微鏡(3次元EBSD解析システム)	
医学部附属病院	手術用水処理装置	
歯学部附属病院	オーラルヘルスユニット(38台)	
【病院特別医療機械設備(長期借入金対象)】		
医学部附属病院	磁気共鳴断層撮影装置	
医学部附属病院	脳神経外科顕微鏡手術システム	

部局等名	事 項 名	備 考
【施設整備事業】		
国際的に卓越した教育研究拠点機能の充実		
医学系研究科(医学系)	(医)動物実験施設	
薬学研究科	(吹田)薬学1号館改修	
薬学研究科	(薬)創薬推進教育研究棟	
情報科学研究科	(吹田)情報系総合研究棟	
核物理研究センター	(吹田)核物理研AVFサイクロトロン棟改修	
サイバーメディアセンター	(吹田)サイバーメディアセンターITコア棟・本館改修	
本部事務機構(生命機能研究科)	(吹田)生命動態システム科学研究棟	
国際化の推進機能の充実		
人間科学研究科	(吹田)大阪大学国際プラザ棟	
豊 中 地 区	(豊中)インターナショナル・イノベーション棟(期)	
高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実		
医学系研究科(保健学科)	(医保)健康長寿総合研究棟	
大学等の特性を生かした多様な教育研究機能の充実		
本部事務機構	(豊中)学生交流棟施設整備事業(PFI事業13-8)	PFI事業
工学研究科	(吹田)研究棟改修(工学部)施設整備等事業(PFI事業13-7)	PFI事業
人間科学研究科	(吹田)人間科学本館改修	
外国語学部	(箕面)研究講義棟A棟改修(2-2)	
理学研究科	(理)理学E棟改修	
歯学研究科	(歯)歯学部本館改修	
工学研究科	(工)工学S4・M1棟改築等	
学生支援や地域貢献など大学等の戦略を踏まえ必要な機能の充実		
総合学術博物館	(豊中)総合学術博物館	
国際交流室	(新稲)留学生会館	
教育・情報室	(豊中)豊中福利会館改修	
教育・情報室	(宮山1)清明寮耐震改修	
教育・情報室	(豊中)留学生会館	
附属病院機能の充実		
医学部附属病院	(医病)ライフライン再生(自動制御設備等改修)	長期借入金対象
医学部附属病院	(医病)オンコロジーセンター棟	長期借入金対象
安全、安心の確保等		
総合計画室	(吹田)ライフライン再生(屋外ガス設備等改修)	
総合計画室	(吹田)ライフライン再生(配電設備等改修)	
総合計画室	(豊中)ライフライン再生	
総合計画室	(箕面)ライフライン再生	

情報基盤本部におけるキャンパスクラウドの検討状況について

情報基盤本部では、大学運営の効率化及び情報基盤整備に係る全学的な維持管理経費の削減を行うため、各部局等において独自に運用している Web サーバ、メールサーバについて、サーバ仮想化技術を用いて、ICHO が利用している共通プラットフォームに集約するキャンパスクラウドの検討を行ってきました。

これにより、各部局等がハードウェアを個々に調達し構築する手間をなくすとともに、個々に調達・運用していたものを集約化することにより、維持管理経費の削減を図ることが可能となります。

現在、キャンパスクラウドのサービスのひとつとして「大阪大学キャンパスメールシステム」のサー

ビスを開始し、すでに人間科学研究科及び保健センターが利用をされているほか、言語文化研究科、基礎工学研究科数理教室、総合学術博物館及びデータ管理分析室が今年度中の利用を予定しています。

また、「大阪大学キャンパスメールシステム」の導入を検討するための「トライアルアカウントサービス」も用意しており、実際に「大阪大学キャンパスメールシステム」の機能を試すことも可能となっています。

情報基盤本部としては、今年度中に、5000 アカウントの導入を目指していますので、導入希望の部局等がありましたら、利用の申請をお願いします。

経営協議会を開催

今年度第1回経営協議会を6月15日(水)に、中之島センターで開催しました。学外委員10名、学内委員13名が出席し、約2時間にわたり審議、意見交換が行われました。

意見交換では、学外委員から、大学からの情報発

信の必要性、短期的成果を求めない基礎研究の重要性、教員の意識が前向きに変わることができるような教員評価の在り方、不正防止の取り組みなど大学の活動全般に対する様々な意見が出されました。

各室の検討状況

総合計画室

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、6月及び7月の役員会で次の事項が承認されました。

歯学研究科附属口腔科学フロンティアセンターの設置(平成23年7月1日)

理学研究科附属教育研究施設の再編

- ・原子核実験施設の廃止(平成23年9月30日)
- ・基礎理学プロジェクト研究センターの設置(平成23年10月1日)

核物理研究センターの改組(平成23年10月1日)

- ・理学研究科附属原子核実験施設との統合

大学留保ポストの活用による若手教員・女性教員等の支援について

3月の役員会で承認された大学留保ポストを活用した若手教員・女性教員等の支援について、申請書、審査方法等の詳細について検討し、6月23日に各部局長あて照会を行いました。

【支援内容】

特に優秀な若手教員の教授昇任の支援について

- ・本学の特に優秀な若手教員を任期なしの教授に昇任させる場合に、昇任前のポストとの差額分の大学留保人件費を配分する。
- ・支援する人数は、当面年間3名程度とする。

学外からの教授招聘に係る大学留保ポストの活用について

- ・学外から本学の将来を担う人材を任期なしの教授に招聘する場合に、大学留保ポストを配分する。
- ・支援するポスト数は、当面年間1~2程度とする。

女性教員の採用・昇任(教授・准教授)に係る大学留保ポストの活用について

- ・女性の教授又は准教授を採用する場合に、大学留保ポストを配分する。また、女性教員を教授又は准教授に昇任させる場合に、昇任前のポストとの差額分の大学留保人件費を配分する。
- ・支援する人数は、採用及び昇任について、当面年間各1名程度とする。

【支援期間】

原則、平成24年4月1日から最長3年間

【今後のスケジュール】

10月末	各部局からの申請書提出期限
11月~12月	第1次審査及び第2次審査
12月末	配分部局を決定



維持保全マニュアルの改訂

学生・教職員の安全や学校運営に支障をきたす建物のトラブルを未然に防ぐとともに、修繕に必要な経費を最小限に抑えるため、建物の日常巡視点検項目をとりまとめた「維持保全マニュアル」を各部署の施設管理者がより使いやすくなるよう改訂しました。

平成24年度からの営繕要求の評価の際には、本マニュアルに基づく維持保全の実施状況が評価基準の1つとなります。施設管理者におかれては、日常巡視点検に本マニュアルを活用いただき、建物の適切な維持保全に努めて頂きますようお願いいたします。

日常巡視点検表（抜粋）

■屋根・屋上（1回/年）

関連項目	不良箇所参考写真	点検項目	対応方法	点検日	部署対応結果記入欄
A1 老朽化		屋根や排水口（屋上の雨水排水口）周りに水が溜まっている場所はありませんか。	勾配が原因の場合は、施設部に相談して下さい。 排水口にゴミ等が詰まっている場合は除去して下さい。	1回/年 月 日点検	
A2 老朽化		屋根の仕上げ（防水材）、フラット（屋根外周部の立ち上がり壁）及びアップライト（天窗）にひび割れ、めくれ、ふくれ及び変形等はありませんか。	ひび割れやめくれは漏水の原因になります。早急に補修して下さい。	1回/年 月 日点検	

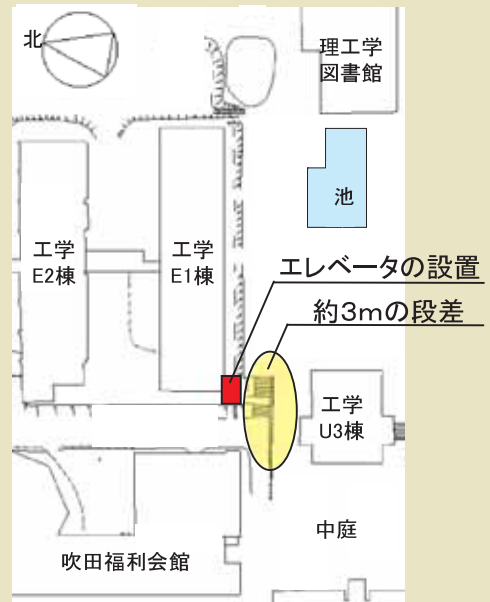
※ 屋上防水工事は一定期間保証期間があります。施工後数年程度で漏水が見受けられた場合は、施工業者に連絡するか施設部へご相談ください。

バリアフリー対策の実施

工学E1棟のエレベーター設置

工学E1棟のエレベーター設置工事が完了しました。これにより車椅子の方でも、2階の講義室へアクセスすることができるようになりました。

また、本エレベーターは吹田福利会館の敷地レベルからも乗降でき、吹田福利会館から理工学図書館方面へのアクセスのバリアとなっていた約3mの段差の問題も解消いたしました。

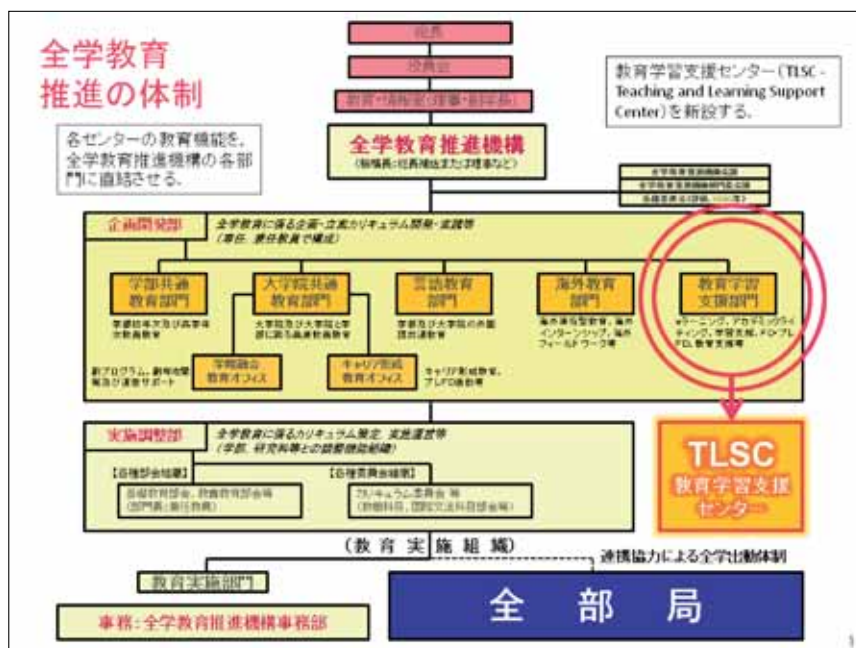


教育・情報室

全学教育推進機構（仮称）の設置準備

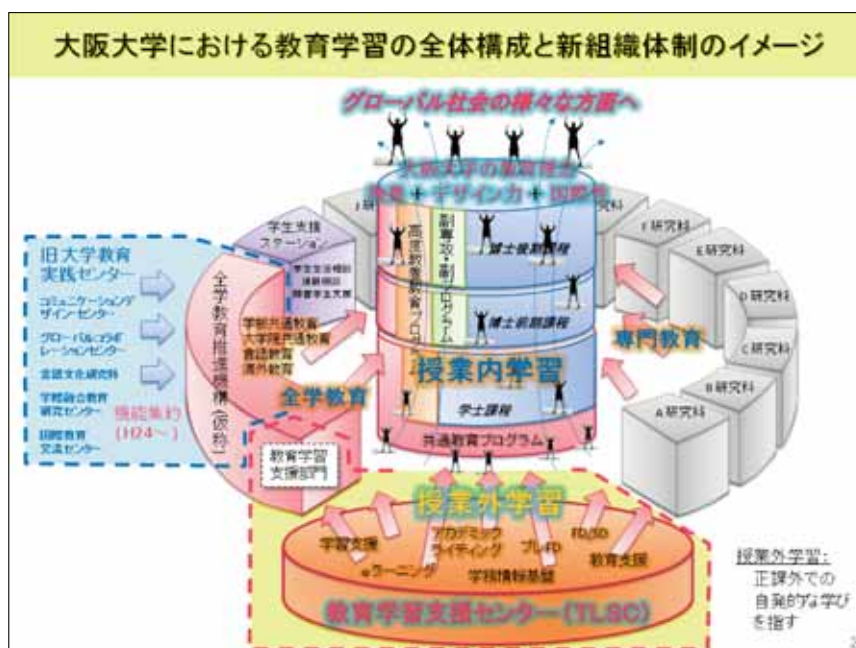
本誌の4月号（No.124 p.18）と6月号（No.125 p.13）でお知らせしたように、本学の言語教育と全学教育の抜本的な改革のため、教育・情報室の下に「全学教育推進機構（仮称）設置準備ワーキング」を置き、平成24年4月の新機構設置に向けて検討と準備を進

めています。機構全体の概要は、5月の部局長会議に提出した以下の資料のとおりです。また、教育学習支援による教育の質保証の全学展開を目的として、特別経費の概算要求を行っています。



全体の概念は以下のとおりです。全学教育を担っている既存のセンター等の教育機能を中央に集約して体系的な全学教育の支援を可能とし、各研究科に

よる専門教育の一層の充実と発展を可能とする計画です。



博士課程教育リーディングプログラム

「リーディング大学院」あるいは博士課程教育リーディングプログラムの募集が開始しました (<http://www.jsps.go.jp/j-hakasekatei/gaiyou.html>)。この事業は、次のような目的をもつとされています。

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院の形成を推進する。

これは中央教育審議会答申「グローバル社会の大学院教育 世界の多様な分野で大学院修了者が活躍するために」(平成23年1月31日)に基づいて、

現在の日本の大学院教育における重要な課題に正面から対応しようとするものです。事業期間は最大7年間で、タイプ1の「オールラウンド型」、タイプ2の「複合領域型」、タイプ3の「オンリーワン型」という3つの類型で公募が行われています。全国での採択予定件数は、オールラウンド型が2件程度、複合領域型が「環境」「生命健康」「安全安心」及びこれらを含む「横断的テーマ」を公募対象として合計10件程度、オンリーワン型が5件程度とされています。9月～10月頃にヒアリングが行われる予定です。

本学からは、オールラウンド型1件、複合領域型3件を申請しました。教育・情報室で検討してきたオールラウンド型「超域イノベーション博士課程プログラム」は、さまざまな専門領域、国境、既成観念などの「境域」を超えて、社会システムの変革を導くイノベーションを牽引するグローバルリーダーを養成しようとするプログラムです。

海外研修の単位化

海外研修プログラムを授業科目として単位化するに際し、留意すべき事項について、以下のとおりまとめました。今後、海外研修を単位化する場合は、各部署等において本ガイドラインにそって検討いた

だくようお願いします。

また、海外研修の運用にあたっては、危機管理に十分留意して実施するようお願いします。

海外研修単位化ガイドライン

本ガイドラインは、いわゆる海外研修のうち、下記の形態で実施される海外研修の単位化に係る要件等について定める。実施期間が数週間程度で、主として夏季等の休業期間中に行われるものであり、実施場所（派遣先機関）が確定しているもの

1. 担当教員・実施部署

海外研修の単位化にあたり、担当教員は、授業科目のシラバス作成や運営に携わり、成績評価についても責任をもつこと。併せて、原則として事務担当部署についても確定しておくこと。また、同授業科目は、実施部署においてその開講が所定の手続きによって承認されたものであること。なお、複数部局持ち回りで海外研修を行う場合は、年度毎に開講主体となる部局、担当教員及び事務担当部署を確定すること。

2. シラバス

下記3から8の内容について明確に記載したシラバスを作成すること。

3. 目的

達成すべき教育目標を明示すること。

4. 実施時期・実施場所（派遣先機関）

海外研修の実施時期、実施場所（派遣先機関）及び研修内容について十分な調整を行ったうえ、実施体制を整備しておくこと。

5. 学修時間の確保

海外研修の事前・事後における学修、及び現地での語学研修や実習時間が、1単位当たり45時間以上を確保していることを、教授内容等も含めて明示すること。その場合、事前・事後学修、現地での研修・実習、自主学修等の項目ごとに学修の内容及びその時間数の内訳を明示することが望ましい。また、派遣先機関の教員とカリキュラム内容、教授内容、教授方法、使用テキ

スト、課題等について事前に調整すること。

なお、成績評価には、現地研修での学修成績や評価が不可欠なため、成績評点を発行することについて、派遣先機関の教員から事前に了解を得ておくこと。

6. 事前・事後学修

事前・事後の学修を行うこと。事前学修では、現地での海外研修の準備として、語学その他の学修を行い、同時に現地の生活情報等を提供するものとする。事後学修では、学生に成果報告を行わせるとともに、現地での研修成果を総括し、課題レポート作成に向けた学修などを行う。同時に、今後の各自の学修継続方法などを指導するものとする。

7. 課題・レポート

履修学生には、研修での課題等について、帰国後のレポート提出を課すこと。また、アンケートを実施することが望ましい。

8. 成績評価

成績評価は、事前・事後学修での学修評価、派遣先機関での研修評価、課題やレポートの提出等を総合し、シラバスに明示した成績評価基準に照らして行う。なお成績評価は、学生へのインセンティブ付与のため、素点での評価とする。

9. フィードバック

原則として、派遣先機関の担当者や教員からの聞き取り、学生アンケート結果などから次年度以降の実施に関してフィードバックを行うこと。

大阪大学におけるTA制度の現状とあり方についての報告書

教育・情報室では、平成22年5月に「TA・RAのあり方検討ワーキング」を設置し、他大学の動向調査、学内アンケートの実施、シンポジウムの開催などを通じて、現状の制度の見直しについて検討を重ねてきました。この結果の一部をまとめて、本学のTA制度の現状とあり方についての報告書を作成しました。

同報告書は、8月中に各研究科と関係の研究所・センターに配付予定です。また以下のウェブページにも同報告書を掲載しています。今後の教育開発の重要な参考資料ですので、活用していただくようお願いします。

【URL】

<http://ir.library.osaka-u.ac.jp/meta-bin/mt-pdetail.cgi?smode=1&edm=0&tlang=1&cd=00041510>



ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修

本誌の前号でもお知らせしたとおり、9月13日(火)午後には豊中キャンパスの総合学館、9月16日(金)午後には吹田キャンパスのコンベンションセンターで、平成23年度の全学FD研修を開催します。特任教員

を含むすべての教授、准教授、講師、助教が対象で、研究員も受講可能です。本学の教育力開発の第一歩として、積極的な参加をお願いします。

大阪大学の概要説明シナリオの完成

大阪大学の将来を担う優秀な学生が、できる限り多く大阪大学を志願することはきわめて重要です。このため教育・情報室では、高校向けの大学説明会や入試広報活動をとくに重視してきました。

こうした説明会などで利用するプレゼンテーション資料の、2011年度版を作成しました(パワーポイントのスライド約90枚)。またこれを短縮して、大阪大学の概要と特徴をスライド画像と台本により10分程度で説明できるよう、「概要説明シナリオ」を作成しました。教職員の方々が母校で講演される際や、高校・中学などを訪問する際に活用し、大阪大学に

ついての理解を広めていただきたいと思います。ご利用いただける場合は学生部入試課(内線7096)にご連絡ください。



高校の進路指導教員への説明会

8月20日(土)に、中之島の大阪国際会議場(グランキューブ大阪)で、「関西地区高等学校進路指導教諭対象 大阪大学説明会」を開催しました。大阪大学に学生人材を提供する高校で進路指導を担当しておられる教員の方々に、大阪大学についての理解を

深めていただくことが目的です。総長および理事・副学長(教育担当)による講演のほか、大阪大学の全学部についてそれぞれの学部から説明するとともに、個別の質問に直接答えるための十分な時間をとりました。

アドミッション・ポリシーの検討

『阪大NOW』6月号(No.125 p.15)でお知らせしたように、6月30日の入試委員会で、アドミッション・ポリシーの検討と作成を全部局に依頼しました。秋に回答を集約して教育・情報室等で審議した後、部局にフィードバックし、平成24年2月に正式決定す

る予定です。各部局のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーに基づき、人材育成や入試改革について根本からご検討いただきたいと思います。

本学学生の就職状況

2011年5月1日現在の本学の就職状況は、下表のとおりです。

平成22年度学部卒業生の就職状況(平成23年4月1日現在)

	卒業生	就職希望者	就職希望率	就職者	就職率
	人	人	%	人	%
全体	3,230	1,379	42.7(2.0)	1,322	95.9(0.7)
男子	1,980	594	30.0(2.5)	557	93.8(▲1.8)
女子	1,250	785	62.8(0.2)	765	97.5(2.6)

(注)医学部医学科、歯学部及び外国語学部夜間主を除く。なお、()内は前年度同調査からの増減量(▲は減少)

平成21年度学部卒業生の就職状況(平成22年4月1日現在)

	卒業生	就職希望者	就職希望率	就職者	就職率
	人	人	%	人	%
全体	3,149	1,281	40.7(▲5.2)	1,219	95.2(▲0.3)
男子	1,968	542	27.5(▲4.3)	518	95.6(▲0.5)
女子	1,181	739	62.6(▲7.8)	701	94.9(▲0.1)

(注)医学部医学科、歯学部及び外国語学部夜間主を除く。なお、()内は前年度同調査からの増減量(▲は減少)

<参考>文部科学省・厚生労働省調査

平成22年度全国の大学卒業生の就職状況(平成23年4月1日現在)

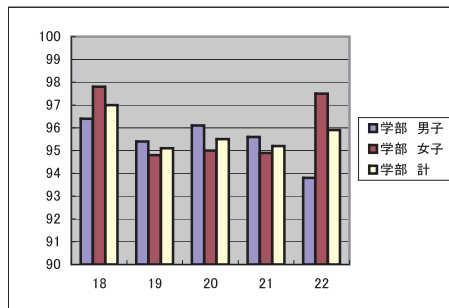
	就職希望率	就職率
	%	%
全国の大学平均	66.4 (▲0.4)	91.1 (▲0.7)
国公立大学	50.9 (▲1.9)	93.4 (▲1.1)
男子	44.0 (0.4)	92.3 (▲1.8)
女子	61.8 (▲5.5)	94.7 (▲0.2)
私立大学	74.0 (0.3)	90.4 (▲0.4)
男子	68.8 (▲1.0)	90.6 (▲0.8)
女子	80.9 (2.0)	90.1 (▲0.1)

(注)大学の調査校は62校である。なお、就職率とは、就職希望者に占める就職者の割合である。また、()内は前年度同調査からの増減量(▲は減少)

学部卒業生の就職率(就職希望者のうち就職した者の割合)は約96%で、昨年と比較してあまり変動はありませんでした。また、博士の就職率は昨年に比べ改善しています。しかし全体の数値より、一人ひとりの学生が、本人の最も希望するキャリアに進むことができるか否かが何より重要です。

なお、各部局の学生の卒業後・修了後の進路については、部局により全数を把握していない例が見られます。学生が大学を出た後、どのような社会的役割を果たしているかは最も重要な基礎データですので、十分な調査が全部局で行われるよう、よろしくご協力をお願いします。

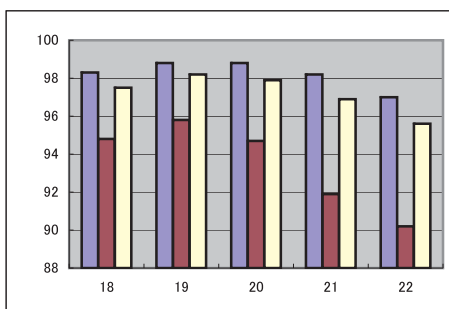
(図1) 本学の就職率の推移(学部)



	学部 男子	学部 女子	学部 計
18	96.4	97.8	97.0
19	95.4	94.8	95.1
20	96.1	95.0	95.5
21	95.6	94.9	95.2
22	93.8	97.5	95.9

(注)医学部医学科、歯学部及び外国語学部夜間主を除く

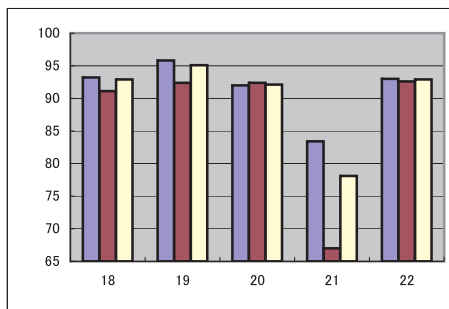
(図2) 本学の就職率の推移(大学院・前期)



	前期 男子	前期 女子	前期 計
18	98.3	94.8	97.5
19	98.8	95.8	98.2
20	98.8	94.7	97.9
21	98.2	91.9	96.9
22	97.0	90.2	95.6

(注)医学系研究科を除く

(図3) 本学の就職率の推移(大学院・後期)



	後期 男子	後期 女子	後期 計
18	93.2	91.1	92.9
19	95.8	92.4	95.1
20	92.0	92.4	92.1
21	83.4	67.0	78.1
22	93.0	92.6	92.9

(注)医学系研究科及び歯学研究科及び高等司法研究科を除く

キャリア形成教育検討ワーキング

キャリア形成教育検討WG（主査：三原健一言語文化研究科教授）では、8月までに計6回の会議を開き、大阪大学におけるキャリア形成教育の現状を

把握するとともに、とくに大学院のレベルでのキャリア教育を重視し検討を進めています。また今年度12月には、ワークショップの開催を計画しています。

学生支援ステーション

大学において、学生支援の重要性が増大しています。教育・情報室では、2010年1月に学生支援ステーション（統括リーダー・宮崎純一医学系研究科教授）を設け、「学生生活相談ユニット」「障害学生支援ユニット」「進路相談ユニット」の3ユニットが連携して、学生の人間形成を総合的に支えるための活動を

行っています。太刀掛俊之准教授（サブリーダー・学生生活相談担当、松原崇助教（障害学生支援担当）に加えて、今年5月から近藤久美子准教授を進路相談ユニットに迎え、専任教員3名と担当職員の支援体制となりました。詳しくは本誌の84ページをご覧ください。

新学務情報システム（KOAN）の稼働

現在のKOANを更新する新しい学務情報システムが、平成23年11月7日(月)に稼働します。これは平成21年6月以来、教育・情報室が中心となり、学生部と情報推進部、また教員と職員が合同で組織した「次期学務情報システム導入プロジェクト」で検討を続けてきたものです。

新学務情報システムでは、情報提供機能が強化さ

れ利便性が向上しており、個人ポータル画面では一人ひとりの学生や教員に対して個別に重要な情報が表示されます。またKOANからの各種通知メールが、確実に学生宛に届くよう改善されています。

新学務情報システムの詳細については、本誌の81ページの記事をご覧ください。

学年暦の標準化

新しい学務情報システムを開発するために全学の調査を進める中で、学年暦が学部や研究科ごとに大きく異なっていることが明らかになりました。こうした差異はやむを得ない理由によることもありますが、単に統一が図られてこなかったために、さまざまな非効率もたらされているところもあります。とくに、

全学共通の教育や部局を横断する教育を発展させていくためには、学年暦を一定程度標準化していくことが必須です。現在、全部局に対して調査結果を伝えるとともに、標準化の可能性について検討しているところです。

研究・産学連携室

科学研究費補助金獲得支援方策（相談員制度）の実施

本学では、科学研究費補助金の応募支援の一環として、特に初めて科学研究費補助金に応募する若手研究者や大型の研究種目にチャレンジする中堅研究者が、研究計画調書の作成や審査のポイント等を相談できる相談員制度を、平成21年度から実施しています。

今年度からは本学名誉教授にも相談員となっただけ、希望者には相談員が研究計画調書に対するコメントを作成するなど、新たな仕組みを取り入れることとしておりますので、ぜひご活用下さい。

[担当：研究推進部研究推進課学術研究推進係（内線3144）]

平成23年度科学研究費補助金の採択状況（速報値）

本年度における科学研究費補助金の採択件数・配分額は、2,380件：114億6千万円で今年も全国3位となっています。

なお、上位7大学の状況については以下のとおりです。

（金額単位：千円）

機関名	採択件数	直接経費	間接経費	合計
東京大学	3,406件	18,619,187	5,531,216	24,150,403
京都大学	2,669件	10,573,690	3,043,257	13,616,947
大阪大学	2,380件	8,879,123	2,583,157	11,462,280
東北大学	2,307件	8,453,194	2,484,088	10,937,282
九州大学	1,720件	5,220,840	1,519,392	6,740,232
北海道大学	1,615件	4,900,946	1,438,933	6,339,879
名古屋大学	1,494件	4,885,443	1,382,953	6,268,396

平成23年度（新規採択＋継続分）における採択件数・配分額

大阪大学テクノアライアンス棟竣工披露式典の開催について

吹田キャンパスにおいて、6月28日（火）にテクノアライアンス棟竣工披露式典が開催されました。詳細は、本号クローズアップ（12ページ）及びキャンパスニュース（54ページ）をご覧ください。

脳情報通信融合研究センターの発足式等の開催について

吹田キャンパスにおいて、6月29日（水）に脳情報通信融合研究センターの発足式及び実験棟の着工式が開催されました。また、脳情報通信分野の融合研究を協力を推進するため、独立行政法人情報通信研

究機構等と協定書を締結しました。

詳細は、本号ナウススペシャル（38ページ）及びキャンパスニュース（55ページ）をご覧ください。

平成23年度戦略的創造研究推進事業先端的低炭素化技術開発(ALCA)募集説明会の開催について

独立行政法人科学技術振興機構(JST)による「平成23年度戦略的創造研究推進事業 先端的低炭素化技術開発(ALCA)」の公募についての大阪地区募集説明会が、大型教育研究プロジェクト支援室・支援事務室の企画・運営にて、6月17日(金)コンベンションセンターで開催されました。

説明会では、JSTの高尾正敏事業統括(PD)とALCA担当佐藤雅裕調査役から、ALCAの事業運営方針や、提案募集の特徴・提案書の記入要領等について詳細な説明がありました。

当日は、大阪大学教員約40名、他大学等関係者約20名の参加者があり、活発な質疑応答がなされました。



高尾事業統括からの説明



説明会風景

評価室

平成22年度業務実績報告書の提出

第2期中期目標期間の初年度である平成22年度の年度計画に係る業務実績報告書について、6月末に文部科学省国立大学法人評価委員会に提出し、8月1日に同委員会評価チームによるヒアリングが実施されました。

今後、評価結果については、10月下旬に公表予定となっています。

なお、同報告書については、ホームページで公表しています(HPアドレス http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/files_hyouka/gyoumu-jisseki-h22.pdf)

また、同報告書における業務運営等に関する自己評価は、次のとおりです。

項 目	年度 計画数	進捗状況(自己評定)				
		2	12	0	0	
(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標	14	2	12	0	0	
1 組織運営の改善に関する目標	年度計画：17-1-1～18-3-1	11	1	10	0	0
2 事務等の効率化・合理化に関する目標	年度計画：19-1-1～19-2-2	3	1	2	0	0
(2) 財務内容の改善に関する目標	9	0	9	0	0	
1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標	年度計画：20-1-1～20-2-1	3	0	3	0	0
2 経費の抑制に関する目標	年度計画：21-1-1～22-1-3	4	0	4	0	0
3 資金の運用管理の改善に関する目標	年度計画：23-1-1～23-2-1	2	0	2	0	0
(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標	5	1	4	0	0	
1 自己点検・評価に関する目標	年度計画：24-1-1～24-2-1	3	1	2	0	0
2 広報に関する目標	年度計画：25-1-1～25-1-2	2	0	2	0	0
(4) その他業務運営に関する重要目標	19	0	19	0	0	
1 キャンパス整備に関する目標	年度計画：26-1-1～26-4-2	7	0	7	0	0
2 リスク管理に関する目標	年度計画：27-1-1～27-4-2	6	0	6	0	0
3 法令遵守に関する目標	年度計画：28-1-1～28-2-1	2	0	2	0	0
4 情報基盤の整備・活用に関する目標	年度計画：29-1-1～29-2-2	4	0	4	0	0
合 計	47	3	44	0	0	
【自己評定】	年度計画を上回って実施している 年度計画を十分に実施できていない	年度計画を順調に実施している 年度計画を実施していない				

財務室

平成23年度の財務面からの検証について

財務室では、平成21年度に策定しました「学内予算の在り方等に関する基本方針」に基づき、本学の教育研究等活動の更なる向上にむけて、昨年度から、効果・効率的な予算配分となっているかなどの検証に取り組んでいます。

平成23年度は以下のものについて、引き続き検証

を行うこととしています。

1. 戦略的経費等で措置をした単年度事業（設備導入事業）
2. 大学基盤推進経費で措置をした継続事業
3. 全学維持経費で措置をした事業

平成22年度決算について

平成22年度の決算について、役員会及び経営協議会の審議を経て、文部科学省へ財務諸表等を提出しました。

提出した財務諸表等は、国立大学法人評価委員会

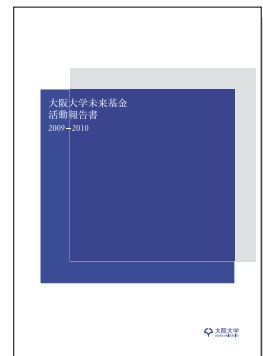
の意見を聴いたうえで、文部科学大臣が承認を行うこととされており、その承認を受けた後、本学のホームページで公表する予定です。

大阪大学未来基金活動報告

基金室では、「大阪大学未来基金 活動報告書 2009-2010」を作成しました。

この活動報告書には、未来基金創設（平成21年5月）から平成22年度までの収支報告、未来基金を活用した事業、及び未来基金奨学金からの支援を受けた学生の声などを記載し、これまで未来基金へ寄付をしていただいた3千数百名の方々に送付しました。

「大阪大学未来基金活動報告書 2009-2010」は、大阪大学未来基金のHP (<http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>) に掲載しています。



人事労務室

特任教員（常勤）等の雇用促進に向けての諸制度見直しについて

このたび、特任教員及び特任研究員の常勤ポストでの雇用を促進し、より優秀な人材の確保及び育成、大学の教育研究活動の発展、並びに教職員の教育研究活動の向上を推進するため、定時教育研究等職員制度（一部を除く。以下同じ。）を次のとおり見直しました。

定時教育研究等職員制度は、平成28年3月31日をもって廃止します。

ただし、平成28年3月31日までは、経過措置として、特任教員（常勤）、特任研究員（常勤）と定時教育研究等職員の並存を同一経費内であっ

ても可能としております。

加えて、雇用経費についてもより柔軟に取り扱うこととし、科学研究費補助金を主たる経費とした自主業務区分制度（エフォート管理）の適用により、特任研究員（常勤）を雇用する場合、従たる経費として運営費交付金を使用することができる（その他、「間接経費」又は「奨学寄附金」など用途に制限のない経費も使用可能）こととしました。

大学といたしましては、今後とも、教育研究活動の推進、向上に資するよう、よりよい制度設計に取り組んでまいりたいと考えています。

特例技術職員（医療）制度について

附属病院では、診療活動の活性化及び医療の質向上のため、薬剤師及び臨床検査技師等（以下「技術職員（医療）」という。）の充実による医療技術体制の強化が求められております。

このたび、これに対応するため、既に導入している特例職員制度（退職時に退職手当を支給せず、毎

年の賞与の支給時期に特別賞与を支給する任期の定めのない常勤職員の制度）を拡充し、その対象に技術職員（医療）を加えることとしました。

今後、必要に応じて、その導入を進め、医療体制のより一層の充実を図っていく予定です。

平成23年度大阪大学新任教員（研究員）研修を実施

平成23年度大阪大学新任教員（研究員）研修を、去る6月3日（金）にコンベンションセンターにおいて行いました。

本研修は、新規採用された者、及び新たに教授に就任した者を対象とし、本学教員（研究員）としての自覚と意識の確立を図り、新任教員（研究員）として大学に課せられたコンプライアンス等、必要な基礎的知識を身につけ、職場への適応力を養い、教員（研究員）の資質の向上を図ることを目的としています。全学統一の研修としては今回が初めての開催であり、102名もの受講者が出席しました。

研修は、鷲田総長による開講式挨拶の後、高杉理事による「大阪大学について」、小泉理事による「大阪大学の教育理念について」、笹川研究推進部長による「研究支援・外部資金及び研究費の不正防止について」、中村総務企画部長による「服務規律について」及び大和谷ハラスメント相談室長による「ハ

ラスメントの防止等について」の各講義により進められました。各講義は、いずれも具体的な事例を取り入れた内容であり、受講者からは「理解しやすかった」と好評でした。

大学としては、来年度以降の開催に向け、引き続きその内容について精査し、より充実した内容としていく所存です。



大阪大学功績賞受賞者の決定及び表彰式について

既にお知らせしているとおり（2010年10月号参照）、大阪大学功績賞は、教育、研究、社会・国際貢献及び管理運営上の功績が特に顕著であると認められた本学教員を顕彰し、大学における教育、研究、社会・国際貢献及び管理運営の一層の発展を期することを目的として実施するものです。

その記念すべき第1回目にあたる今年度は67名に授与し、その表彰式を8月1日（月）にコンベンションセンターにおいて執り行いました。（詳細は71ページをご覧ください。）



広報・社会学連携室

大学情報コーナーについて

近鉄上本町駅に、大学情報コーナーとして大阪大学ほか複数の大学に関する情報を発信できるコーナーが設けられました。

大阪の主要ターミナルに設置された情報ターミナルに参加することにより大阪大学のアイデンティティを発信します。



広報ネットワークについて

大阪大学から発出する研究成果やイベントに関するプレスリリースについて、広報に関する基本的な知識をお伝えし、より掲載率が向上するよう、担当者が傾向やポイントをまとめ、ネットワーク責任者に対して月1回程度情報提供しています。

より、効果的でわかりやすい情報発信を目指して、現在広報・社会学連携室では部局と本部の連携をより緊密にし、かつ明確なワークフローの作成に取り組んでいます。

阪大NOWアンケートのお礼

阪大NOW6月号(2011/No.125)において、学内広報誌の見直しを行い、より効果的な媒体や方法について検討を行う目的で、読者の皆様のご意見、ご要望、ご感想をお寄せいただくためにアンケートを実施しました。現在、集計と分析を行っており、今後の阪大NOW作成に活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

アウトリーチ活動のサポートについて

21世紀懐徳堂では、本学の研究者の研究のプロセスや成果についてその公開活動(イベント、HP等のアウトリーチ活動)の情報を集め、広く学内外に発信するポータルサイトの作成を進めています。

研究者が個々に発信していたアウトリーチ活動の情報を集約することで学内の様々なサイトの回遊性を高め、また、研究者に対してはアウトリーチ活動の支援情報を発信しアウトリーチ活動の促進につなげることをめざします。



国際交流室

大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業における4大学の連携事業について

組み立て直し後の国際化拠点整備事業を積極的に推進するため、本学は従来からお付き合いの深い神戸大学、関西大学および関西学院大学と国際化に向けた連携を図ることとなりました。連携協定書の調印式は平成23年7月27日(水)に大阪大学会館で4大学の学長が出席して執り行われました。また、その後7月30日(土)にはタイ・バンコクにおいてこの4大学合同の留学フェアが開催され、また、4大学の国際交流に携わっている教職員のワークショップが8月3日(水)に開催されました。さらに、4大学の留学生が参加するグローバル・コンピテンス・ワーク

ショップも11月に予定されています。これらのイベントを通して、4大学の国際化がさらに進展するよう、各大学相互の理解を深め、それに基づいて連携事業を計画してゆくことが求められています。

神戸大学はすでに紹介したとおりブリュッセルに海外拠点を設置しました。関西大学はベルギーのカソリックルーヴァン大学および中国上海の復旦大学にオフィスを設置していますし、関西学院大学はEUIJ関西において積極的に活動しているなど、いずれも国際化に大変熱心な大学です。今後の連携活動に期待しているところです。

海外に設置する教育研究関連施設に関する基本方針の制定

本学はサンフランシスコ、オランダ・グローニンゲン、バンコク、上海の4か所に、基本的に本学の教職員が常駐する海外教育研究センターを設置してきました。また微生物病研究所や生物工学国際交流センターは、独自の予算に基づいて研究拠点を設置しています。しかし、以上述べたような拠点ばかりではなく、設置先の大学・機関からスペースや什器などの提供を受け、基本的に先方のボランティアによって運営されるもの、研究プロジェクトにより設置して運営されるもの、部局が積極的に設置して運営されるものなど、様々な形態が考えられます。また、これまで国際交流室が学内のこうした海外活動を十分把握しているとはいえない状況でした。

国際交流室では、部局の自由裁量によって海外に何らかの拠点を設置する場合にも、その存在について本部として認識すべきであると考え、標記の基本方針を制定しました。詳しくは国際交流課にお問い合わせください。とくに設置の要件として以下の4項目を考えています。

1. 設置目的及び業務内容が、本学の国際交流を推進し、教育・研究等の発展に寄与するものであること。
2. 管理及び運営体制が明確に構築されていること。特に、海外拠点の管理責任者には、本学の役員、部局等の長、外部資金による研究プロジェクトの代表者等のいずれかが指定されていること。
3. 設置後の管理及び運営に必要な経費が確保されていること。
4. 業務を遂行するために必要なスペースが確保されていること。

基本的には部局の裁量により拠点を設置する場合でも、国際交流室に届け出をお願いすることになります。また、業務内容に学生交流の推進を含む場合には、国際交流室の審議を必要とすることとしました。その理由は、学生交流の推進には入試情報の提供や、面談などが行われることが予測されますので、正確性の確保やハラスメント防止などの面から、国際交流室の方針に従って慎重に活動を行っていただくことが必要と考えられるためです。

大阪大学フィリピンサテライトオフィスの設置について

上記の基本方針に沿った形の具体的な案件として、工学研究科の承認のもと笠井秀明教授の研究室が、従来から交流の深いフィリピンのデ・ラ・サル大学内に「大阪大学フィリピンサテライトオフィス」を設置したい旨の申請があり、7月1日の国際交流室会議にて承認されました。8月中旬から活動が開始いたします。

このオフィスは、本学工学研究科笠井研究室が主体となり関係部局と連携し、フィリピンの大学と本学との国際交流（研究者および学生の相互交流）を全学レベルで推進することにより、フィリピンにおける本学の認知度を高め、相互交流を通して教育研

究水準の一層の向上を図ることを目的としています。具体的には、フィリピンの主要大学を対象とした大阪大学留学説明会等の現地支援、学術研究成果の発信・移転・普及のためのセミナー・ワークショップ・講習会等開催の現地支援、さらにはフィリピンにおける大阪大学同窓会活動の支援を行うこととしています。オフィスのスペースはデ・ラ・サル大学から無償で提供され、また、本学卒業生がボランティアとして、同拠点の運営に携わることになっています。

今後、このようなサテライトオフィスが各地に設置され、本学との交流ネットワークがさらに広範囲に形成されることを期待しています。

欧州同窓会の結成

これまで懸案となっていた欧州における大阪大学の同窓会について、6月18日(土)にベルリンにて第1回目の欧州同窓会が開催され、池辺公智氏(工・1977卒業、現在三菱重工業勤務：オランダ北部でガスタービンプラントの建設統括者として活躍中)が総会の議長を務め、会則を採択して、欧州同窓会(事務局はグローニンゲン教育研究センター内)が発足しました。弘津禎彦同センター長の精力的な活動により、130名ほどの名簿が作成され、家族の参加も

含めて70名以上がこの第1回目の同窓会に出席し盛況でした。神余駐独大使と鷲田総長が特別講演を行い、さらに鷲田総長からはウェブデザインユニット編集の最新ビデオにより大阪大学キャンパスの紹介も行われ、参加者には大変好評でした。今後欧州各地での同窓会活動が盛んになり、本学卒業生がそうしたネットワークの恩恵に浴するようになることを願っています。

関連記事は48ページをご覧ください。



創立 80 周年記念事業



原点へ 未来へ

大阪大学は 2011 年に創立 80 周年を迎えます



創立 80 周年課外研究奨励費研究成果発表を開催

本学の学部学生が自主的に行う、独創的かつ意欲的な研究を奨励することを目的として毎年公募している「課外研究奨励費」に、平成 22 年度は「創立 80 周年課外研究奨励費」として特別枠を設けました。これは「原点へ・未来へ」をキーワードとする研究内容や、「大阪大学」をテーマにした研究内容、「大阪大学」ならではの独自性などがある研究内容など、創立 80 周年記念事業の趣旨にふさわしい課題を募集し、特別枠 4 件（応募 14 件）、通常枠 7 件（応募 15 件）を採択しました。

採択された研究課題は平成 22 年 6 月から平成 23 年 3 月までの間実施され、平成 23 年 5 月 2 日のいちょう祭において、プレゼンテーション及びパネル展示による成果発表会を行いました。プレゼンテーシ



ョンによる成果発表会は、鷲田総長をはじめ、小泉理事・副学長、宮崎学生生活委員会委員長など関係の先生方の出席の下、11 のテーマについて学生から発表が行われ、盛況のうちに終了しました。

採択テーマ

【テーマ A】

- ・車両性能と投資コストを評価関数としたレーシングカー高効率開発プロセスの研究及びそれに基づく学生フォーミュラ車両の開発
- ・人的資本形成にかかわる大阪大学の可能性～有意義な学生生活をめざして
- ・世界初、無尾翼人力機の実現を目指して
- ・大阪大学の中国戦略と国際ブランド力の研究

【テーマ B】

- ・トルコ映画「蜂蜜」(10 年ベルリン国際映画祭金熊賞受賞)の翻訳を通じた文化研究～世界は今 トルコの森から～
- ・テルミンを基にした近接センサーの応用について
- ・子どもたちの町中の居場所のデザイン・製作に関する実践的研究 - 地域交流室「おひさまルーム」の活用の検討を通して -
- ・NHK 大学ロボコン優勝を目指して
- ・独創的な菌体マイクロマシンの設計および機能解析
- ・国際法模擬裁判大会への取り組みを通じた国際法の研究
- ・自律航行ヨットの開発～びわ湖クルーズ・ソーラーポート大会を目指して～

(学生部学生・キャリア支援課)

学生による高校生のための大学紹介を開催しました

5 月 3 日(火・祝)に、竣工したばかりの大阪大学会館(豊中キャンパス)において「学生による高校生のための大学紹介」を開催しました。

会場は開場直後から、阪大生の生の声を聞きたいという多くの高校生や保護者の方々にぎわいました。参加者の中には、このイベントに参加するためにわざわざ東京方面から来られたという方もあり、受験勉強の方法や学生生活について熱心に質問をされていました。相談者のなかには 1 時間を超えるほど、学生と話し込まれる方もおられました。

また、障害学生支援ユニットの協力のもと、障害

や慢性疾患を有する方を対象とした大学紹介、進学相談を実施いたしました。

当日は 70 名を超える方に参加いただき、たいへん盛況なイベントとなりました。多数ご参加いただき、ありがとうございました。



(学生部学生・キャリア支援課)

創立80周年課外活動奨励費による学生イベント『中之島×阪大文化祭』を開催しました

5月5日(木)に、大阪市中央公会(大阪市北区中之島)において、「中之島×阪大文化祭」を開催しました。

このイベントは、本学の文化系サークルの統括的組織である大阪大学文化会の主催により、企画から当日の運営まで本学の文化系サークルが合同で行う学生イベントです。活動内容の異なるサークルが合同で一つのイベントを作り上げることで新たなサークル間の繋がりを形成することを目指し、初の取組として今年実施されました。

イベントは大集会室と中集会室の2つの会場で開催され、大集会室では、本学外国語学部4年の矢内達也君らによって翻訳されたトルコ映画「蜂蜜」の上映に始まり、「劇団ちやうかちやわん」による演劇、混声合唱団による合唱コンサート、「軽音ROCK」及び「軽音SWING」によるライブが繰り広げられ、中集会室では、「『舞』で巡る三カ国ツアー～フィリピン・トルコ・スペイン～」と題し、「フィリピニアナOGF」によるフィリピン舞踊、「ハラールート」によるベリーダンス、「アルコンパス」によるフラメンコが、華やかな衣装を身に纏い披露されました。

また、すべての公演が終了した後、イベントに参加した学生が大集会室に集結し、フィナーレとして「証(あかし)」という楽曲の合唱を披露しました。



フィナーレの合唱

当日は、天候にも恵まれ、また、大阪市中央公会堂のある中之島公園一帯で「第40回中之島まつり」が開催されていたこともあって、会場周辺はたくさんの市民で賑わっており、本イベントにも600名を超える方々にご来場いただきました。

また、イベント開催中には、東日本大震災復興支援に係る義援金募金を実施し、16,223円の募金をいただきました。この募金については、6月10日(金)に大阪大学文化会から日本赤十字社に送金されましたことをご報告申し上げます。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

(学生部学生・キャリア支援課)

創立80周年課外活動奨励費による学生イベント『応援団演舞・展示』を実施しました

5月5日(木)に、大阪大学応援団による演舞及び展示が、同日に大阪市中央公会堂(大阪市北区中之島)で開催された『中之島×阪大文化祭』と合同で実施されました。

演舞は17時20分から40分間、同日に中之島公園一帯で開催された「第40回中之島まつり」のご厚意により、同まつりが大阪市中央公会堂前の広場に設置したステージを用いて実施させていただきました。

演舞は、創立80周年記念事業のタイトルである「原点へ・未来へ」をテーマに、本学の前身である大阪

高等学校の全寮歌、浪速高等学校の寮歌「浪速の友に」を“原点”として盛り込み、また、中之島と本学にまつわるエピソードの紹介なども行いながら、数々の応援歌やマーチを披露し、多くの来場者を楽しませてくれました。

最後に、中之島と本学の“未来”への発展と活性化を祈念してエールが送られ、演舞は終了しました。

また、当日大阪市中央公会堂内のロビーでは、応援団の歴史を振り返る展示が実施されました。

この展示は、今年で創団50周年を迎える本学応援

団の歴史を38枚のパネル写真で振り返るもので、来場者が応援団の説明に聞き入る様子が印象的でした。

(学生部学生・キャリア支援課)



The 4th Symposium on Cognitive Neuroscience Robotics を開催

5月13日(金)、大阪大学グローバルCOE「認知脳理解に基づく未来工学創成」主催による The 4th Symposium on Cognitive Neuroscience Robotics が大阪大学銀杏会館にて開催されました。

本シンポジウムでは当拠点が取り組む認知脳システム学研究の最新の研究成果と、それをサポートする



教育活動や海外との学術交流が報告され、招待講演者であるイタリア科学技術研究所の Giulio Sandini 教授とピーレ

フェルト大学の Gerhard Sagerer 総長からは、ヨーロッパの認知脳システム開発の現状について紹介がありました。また、パネルディスカッションでは、各分野の第一線で活躍する研究者と会場の若手研究者の間で白熱した議論が交わされました。



12件の講演と30件のポスター発表を行った本シンポジウムは、計120名の参加者を集めました。

<http://www.gcoe-cnr.osaka-u.ac.jp/4th-symposium/>
(GCOE「認知脳理解に基づく未来工学創成」事務局)

創立80周年記念国際シンポジウム・シリーズBioinspired Materials and Functionalities開催

本学創立80周年記念事業イベントの一つとして国際シンポジウム Bioinspired Materials and Functionalities が、オランダのグローニンゲン・ホテルハンプシャープラザにて6月21日、22日の2日間にわたり開催されました。本学からは、産業科学研究所、大学院理学研究科、情報科学研究科、同医学系研究科、蛋白質研究所の教員17名の参加があり、東京大学大学院工学系研究科から飯野亮太講師、オックスフォード大学 Sonia Contera 講師(本学博士後期課程修了)にもご参加いただきました。またグローニンゲン大学からは27名の参加がありました。

前日の6月20日には、同ホテルにて主に本学からの参加者に対する Welcome Incoming として簡単な夕食会が行われました。21日には、本学辻毅一郎理事・副学長およびグローニンゲン大学数理学部 J. Knoester 教授の開会の挨拶に始まり、Advances in chemical & synthetic biology、および Bioinspired polymers & hybrid systems の2つのセッションのもとで、グローニンゲン大学側・大阪大学側より講演

発表が行われました。翌22日には、Single particle and molecule approaches、Biomembrane and membrane protein based systems の2つのセッションでの講演があり、2日間で22件の講演と14件のポスター発表が行われました。このシンポジウムは、「生体機能に学ぶ新しい材料科学」を標榜したもので、この分野の最新・最先端の情報交換のシンポジウムとして実りあるものでした。

最終発表の後、会場をグローニンゲン大学本部 Academy Building に移し、レセプションおよび夕食会が開かれました。辻理事・副学長の挨拶で、両校のこれまでの協力関係と、グローニンゲンへの本センター設置に至った経緯などが時系列で説明され、その後、ほとんど同様の内容をグローニンゲン大学 S. Poppema 学長が挨拶の中でフォローされるといった両校の息の合った関係を示す象徴的なハプニングもありました。来年は本学で、別テーマでの両大学間サイエンスシンポジウムを開催する予定です。



(グローニンゲン教育研究センター)

創立80周年記念大学祭シリーズ“大阪大学 夏まつり”開催

7月9日(土)に、箕面キャンパスにおいて、大学祭シリーズ第2弾となる“大阪大学夏まつり”が開催されました。

“夏まつり”は旧大阪外国語大学から続く「地域との連携」「キャンパスの活性化」を推進することを目的としたイベントであり、32回目の開催となる今年は「夏まなう。つなげ3つの“C”～Campus Community Country～」をテーマに、学内・地域・国際交流の場となることを目標に実施され、約5,300名の方々にご来場いただきました。

当日は天候にも恵まれ、鷲田総長からの挨拶に始まった夏まつりは、フラメンコ、ベリーダンス、アフリカ舞踊といった国際色豊かな企画がステージを彩りました。浴衣や世界各国の民族衣装に身を包んだ学生がキャンパス内を遊歩する中、参加者多数の盆踊りには倉田哲郎箕面市長にもご来訪いただき、盛大なフィナーレを迎えました。

また、東日本大震災の復興支援を目的に、大学祭シリーズ合同企画によるチャリティーに加え、箕面



市立彩都の丘学園の方々と共にメッセージボードの作成を実施しました。

チャリティー企画として実施した義援金募金については、大阪大学夏まつり実行委員会から日本赤十字社を通じて被災地へ送金いたします。

ご来場、ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。今後、大学祭シリーズは11月の“まちかね祭”、“中之島祭”へと続きます。皆様のご来場をお待ちしております。

(学生部学生・キャリア支援課)

創立80周年課外活動奨励費による学生イベント『喫茶大阪大学』を実施しました

5月4日(水)に、京阪電車中之島線なにわ橋駅の構内にある「アートエリアB1」において、「喫茶大阪大学」が開催されました。

「喫茶大阪大学」は、大阪大学公認学生団体Scientthrough(サイエンスルー)によるイベントで、本をきっかけに人々の交流を促し、また交流をきっかけに本との新たな出会いを提供することを目的としたものです。

このイベントは、各地で広がりを見せている新しいスタイルの書評会「ビブリオバトル」、各分野で活躍する大阪大学の教授たちの本棚の写真を原寸大に引き伸ばして展示した「教授の本棚」、一編の短



編小説をばらばらのピースにして数人の参加者に配り、お互いにピースを見せず会話だけでピースの順番を当てるゲーム「小説パズル」の3つのコンテンツで構成されており、ビブリオバトルでは阪大生4名、社会人1名、そして金水敏文学研究科教授が「大阪」をテーマに一冊ずつ本を紹介し、聴衆の方からの鋭い質問も飛び交う白熱した雰囲気の中、金水教授が流石の話術を發揮し、聴衆のみならず投票により同教授が紹介した『大阪ことば学(著:尾上圭介)』がもっとも読みたくなった本に選ばれました。

また、大きな写真を前に様々な感想が聞かれた教授の本棚、キャンパス外での開催ならではの幅広い年齢層の方々と密な会話を楽しめた小説パズルもご好評をいただき、盛況の内に終了しました。

当日は50名を超える方にご参加いただきました。多数ご参加いただき、ありがとうございました。

詳細はScientthrough(サイエンスルー)のWebサイトをご参照下さい。

問い合わせ: info@scientthrough.qee.jp

(学生部学生・キャリア支援課)

コトバと国家の1世紀

大阪大学創立80周年記念事業国際シンポジウム・シリーズの一つとして、世界言語研究センターが主催する『コトバと国家の1世紀』と題するシンポジウムが、5月2日(月)に大阪国際会議場で行われました。

第一部ではスーニー教授(米国ミシガン大学教授、米国スラブ学会元会長)による基調講演が行われ、ナイジェリア、イスラエル、スロベニア等からの海外ゲストよりコメントを頂いた後、世界言語研究センターの外国人研究者や国内滞在中の多数の外国人研究協力者も加わって活発な議論が行われました。

第二部ではサブテーマ「地域知と言語教育 - 新1世紀への提言」に即して、松原正毅氏(坂の上の雲ミュージアム館長)より問題提起があり、深刻な紛争を経験した旧ユーゴ地域の研究者から「民族紛争



を克服するためには地域知の共有と理解のための教育や寛容の姿勢が必要である」との説得力ある指摘がなされるなど、非常に実りある議論となりました。

(世界言語研究センター)

「あしたへの夢～小中高生の未来予想のコンテスト～」授賞式を開催

創立80周年記念事業委員会産学官連携イベント実行委員会は「あしたへの夢～小中高生の未来予想のコンテスト～」と題して、大阪大学が創立100周年を迎える20年後の2031年に世界はどんな未来になっているかというテーマで、小中高生のみなさんを対象にアイデアを募集しました。

協賛企業7社からテーマを出していただき、全国に公募、北海道から九州まで255作品の応募があり、審査の結果、協賛企業賞・大阪大学賞あわせて10点が選定され、7月21日(火)に大阪大学会館アセンブリホールで授賞式が行われました。

授賞式に先立ち、協賛企業と総長ならびに西尾理事・事・副学長をはじめとする実行委員会との懇談があり、「夢」の作品を選ぶ際のエピソードなどの披露などがありました。

授賞式では、協賛企業と本学から表彰状、盾、副賞が授与され、小中高生のみなさんは緊張した面持ちで講評に耳を傾けていました。



鷲田総長(右)から表彰状を授与される鈴木 絵(すずき かい)さん(左)大阪大学賞(小学生)・北海道上富良野町立上富良野西小学校6年生)

その後、総長・実行委員との間で、作品を作るきっかけや大阪大学のイメージなどについて、なごやかな雰囲気での懇談が行われ、総長のファンという高校生がサインを求める場面もありました。

受賞者は、あらかじめ希望していた豊中キャンパスの研究室を見学し、大阪大学を堪能されました。総長の挨拶にもありましたように、何年後かに受賞者の皆さんが大阪大学の学生となられ、再会できるのを、関係者一同楽しみにしています。

(創立80周年記念事業委員会
産学官連携イベント実行委員会)



天神祭に今年も参加しました

7月25日(月)に行われる天神祭船渡御に出船する「阪大船」の安全航行を祈願するため、奉告祭として7月16日(土)に大阪天満宮を参拝し、本学喜多流能楽研究会6名による能奉告を行いました。



7月25日(月)、本年で7回目となる阪大船は、本学が今年創立80周年を迎えることから、80周年記念事業タイトル「原点へ・未来へ」を旗印に掲げ、また、3月11日に発生した東北地方大震災の復興支援メッセージとして、船渡御参加者の統一メッセージである「がんばろう！日本」と大阪大学復興支援メッセージである「ささえよう日本 関西からできること」をのぼりに掲げ、無事出船しました。

本年も天候に恵まれ、心地よい大川の水面の涼風にあたりながらの船出となりました。

阪大船には、熊谷信昭元総長や岸本忠三元総長をはじめ、鷲田清一総長、卒業生、現教職員、留学生等総勢152名が乗船しました。



喜多流能楽研究会代表等が本殿で玉串奉納の後、厳かな雰囲気の中、船の安全航行を考え、「国栖(くず)、羽衣(うい)キリ、猩々(しょうじょう)」のおめでたい舞3曲を選び奉告しました。



出港時に飛翔橋から大きな80周年記念バナーが下ろされ、その下を阪大船が航行するというハプニングイベントも用意されました。

船上では、落語家の林家花丸さんによる軽妙な司会進行と御伽衆の笠井敏光さん(大学院言語文化研究家)による天神祭の歴史や行き交う船についてわかりやすい説明で、乗船客を楽しませてくれました。

また、恒例となった本学応援団による演舞と軽音楽サークル「SWING」のジャズの調べに乗船客からは暖かい拍手が送られました。

乗船客全員が行き交う船と大阪締めを打ち交わし、大阪大学ファミリーの団結力が一層強まった充実した航行となりました。



(広報・社会学連携オフィス広報・社会学連携事務室)

「脳情報通信融合研究センター」発足

産学連携本部 副本部長・教授 金谷 学

大阪大学は、今後の新たな研究領域として重要となる脳情報通信分野に関する融合研究を推進するため、平成23年6月、学内に「脳情報通信融合研究センター」を設置しました。

当センターは、(独)情報通信研究機構(NICT)及び(株)国際電気通信基礎技術研究所(ATR)等関係機関と密接に連携協力しつつ、脳情報通信という大きな可能性に挑もうとするものです。国立大学法人と独立行政法人等との本格的な融合研究の実施は、我が国で初めての試みと言えます。

(注) NICT : National Institute of Information and Communications Technology

ATR : Advanced Telecommunications Research Institute International

脳情報通信融合研究の背景

情報通信技術の発展はとどまることを知らず、次々に高性能製品や新サービスを生み出し、日々の生活及び社会経済活動のために大きな役割を果たしています。

しかしながら、インターネット利用による情報の生産、流通の拡大等により、世界の情報は年1.6倍もの速度で増大していると言われています。現代社会は高度に情報化しており、大量情報を扱う情報通信ネットワークが社会基盤として益々重要となっていますが、情報量の激増によるシステムの不安定性、さらには消費電力の増大などの問題が指摘されており、社会の持続的発展のためにはこれらの課題解決に早急に取り組んでいくことが必要となっています。

一方、脳や細胞など生体における情報処理ネットワークシステムの研究においては、人工の情報通信ネットワークでは実現されていない環境適応性、自律性、耐障害性、低消費電力性などが注目されているところであり、従来型の情報通信技術の限界を打開できる可能性が指摘されています。

このため、大阪大学では、NICT及びATR等の脳や情報通信分野において優れた業績をあげている機関と連携協力し、脳など生体情報処理の研究と情報通信の研究を融合させることにより、新たなパラダイムの展開を図る取り組みを推進することとしたものです。

脳情報通信融合研究センターの発足

このような背景のなか、本学では平成23年6月1日に「脳情報通信融合研究センター」(センター長：柳田敏雄生命

機能研究科特任教授)を設置しました。(センター発足式典は6月29日に実施)

脳情報通信融合研究センターの英語名は、Center for Information and Neural Networks であり、略してCiNet(シーネット)としています。ロゴは、人間の頭の部分をモチーフにしており、脳のまわりを4つの輪が囲んでいます。脳の「しわ」がはっきりと見えるようデザインされており、生体を対象とする研究が行われることを示唆しています。

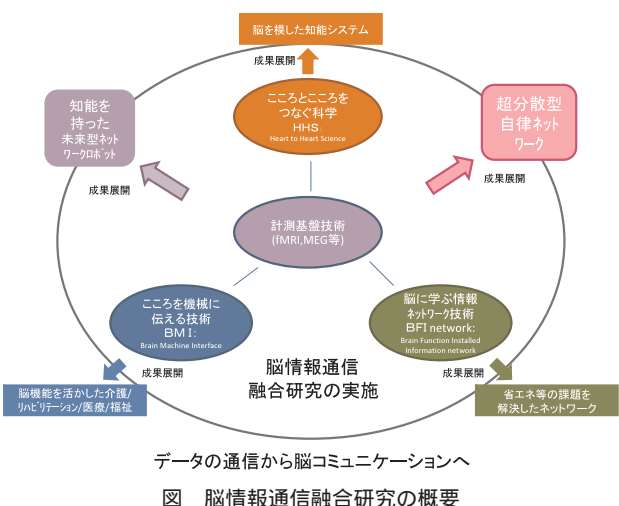


脳情報通信融合研究センターロゴ

この4つの輪は、脳情報通信融合研究において取り組む研究分野を象徴しています。具体的には「こころとこころをつなぐ科学」、「脳に学ぶ情報ネットワーク技術」、「こころを機械に伝える技術」及び「脳機能計測基盤技術」です。

柳田センター長の下、本学、NICT、ATR等の研究者が緊密に連携し、脳科学、工学、心理学、認知科学などの融合を図りつつ研究を推進していくこととしています。すなわち、「研究組織間の融合」と「研究分野間の融合」により大きな飛躍を目指すものです。

なお、センター運営の重要事項については、センターの運営協議会にて審議を行い、事務は大型教育研究プロジェクト支援事務局が行うこととしています。



脳情報通信融合研究に関する関係機関との契約・協定

脳情報通信分野における融合研究を将来に向かって強力に推進していくため、平成23年6月29日、本学はNICTとの間で「脳情報通信融合分野における共同研究に係る実験棟の管理運営に関する基本契約」を、また、NICT、ATRとの間で「脳情報通信融合分野における共同研究に関する協定」を締結しました。これらは、平成21年1月にNICTとの間で包括的に締結された「脳情報通信分野における融合研究に関する基本協定」に基づくものです。

基本契約書では、吹田キャンパス内に平成25年2月竣工予定の脳情報通信融合研究実験棟について、本学とNICTの両者が土地・建物を提供し合うことや建物の管理運営を協力して行うこと等を定めています。

共同研究に関する協定書では、脳情報通信融合研究の目的達成に向けて本学、NICT及びATRの三者が協力すること、本学とNICTにより選任された研究統括の下で全体研究計画を策定し実施すること等を定めています。これにより、脳情報通信融合研究は、これまでの早期着手課題の研究から、本格研究へと移行することとなりました。

今後の展望

今回の「脳情報通信融合研究センターの設置」及び「脳情報通信融合研究に関する基本契約書・協定書の締結」により、脳情報通信融合分野の研究は、これまで準備段階として実施してきた早期着手課題研究から、平成25年春の実験棟運用開始を見据えた本格研究段階へとステージが上がったことになります。新たな実験棟では、ヒトの脳機能計測用としては世界最高水準の7テスラのfMRI、脳磁場計測のためのMEGなども設置されることから、ヒトの脳活動が従来に比べてより細かいレベルまで調べられるようになります。

「脳」と「情報通信」の融合研究は、従来にはなかった新しい試みであり、柳田センター長のリーダーシップの下、本学、NICT及びATR等関係機関が連携協力し、未知の領域の探求が本格的に行われていくことになります。

今後、大阪大学吹田キャンパスの地が、大きな可能性を秘めた「脳情報通信融合研究」に関する一大研究拠点として、世界的に大きく発展していくことが期待されることです。

注) fMRI: functional Magnetic Resonance Imaging
MEG: MagnetoEncephaloGraphy



写真中央 鷲田総長、柳田センター長、宮原NICT理事長（センター発足式にて）

総合図書館シラバス指定図書コーナーの設置及び閲覧席の増設

平成23年3月1日に、総合図書館のラーニング・コモンズに隣接したスペースに「シラバス指定図書コーナー」の書架を設置しました。常時一冊はシラバス指定図書が図書館内にあるように閲覧のみの運用で利用に供しています。



同時に閲覧用テーブル3台、椅子18脚を増設したため、ラーニング・コモンズの座席数は78席から96席に増加しました。



(附属図書館)

文学研究科 大学院生・若手研究者向け科研等応募セミナー開催

文学研究科研究推進室では、科研費や学振特別研究員への応募のためのセミナーを毎年複数回開催しています。『阪大NOW』前号では3月17日(木)午後で開催した大学院生・若手研究者向けのセミナーについて報告したところですが、このたび4月8日(金)午後文学部大会議室にて同じ趣旨・目的の「平成23年度科研研究活動スタート支援・平成24年度学振特別研究員 応募セミナー」を開催しました。

昨年度までは大学院生・若手研究者向けのセミナーは3月に開催していましたが、大学院新入生や新任の若手教員などにも情報を提供できるよう、本年度から、開催時期を新学期の4月に変更しました。これにより、例えば入学直

後の博士前期課程・修士課程の大学院生もセミナーに出席し、1年後の学振特別研究員DC1への応募を視野に入れた研究生を送ることが可能になります。

学振特別研究員に採択されることのメリットや重要性を大学院新入生ガイダンスで説明してセミナーへの参加を勧めたこともあってか、前回のセミナーからわずか3週間後の開催であったにもかかわらず、前回に近い40余名の参加者がありました。博士前期課程1年の学生も多数含まれ、参加者たちは皆真剣な表情で話に聞き入っていました。参加者へのアンケートでも「申請書の書き方や面接の際の手法など説明が具体的で非常に参考になった」「2時間半という長さを感じさせないほど充実した内容だった」「学振のことをまだ意識していない後輩にも伝えたい」などの感想が寄せられました。

セミナーのプログラムは前回とほぼ同様ですが、今回は元文学研究科教授、前同研究推進室長である荒木浩国際日本文化研究センター教授を招いて講師を務めていただきました。

文学研究科では、本年度より、優秀な若手研究者を招へい研究員として受け入れ、科研費への応募を可能にするための制度を整備しました。今後もさらに工夫を重ね、大学院生・若手研究者の研究支援をいっそう充実させたいと考えています。



応募書類の方法や注意点を熱く語る
荒木浩国際日本文化研究センター教授

(文学研究科・文学部)

平成23年度 文学部「第1回 就活サポート講座」開催

文学部では、部内教育支援室・同窓会共催の「第1回就活サポート講座」を、教育支援室就職支援部門チーフ北原准教授の司会により、5月19日(木)に豊中総合学館において開催しました。当日は、文学部3年生を中心に、他学年さらには他学部からも参加があり、予想をはるかに超える約80名が集まりました。今年度から就職活動の日程が激変することと、地震の影響などから参加者が増加したと考えられます。



冒頭の片山文学研究科長および和田同窓会事務局長による開催の挨拶では、これから就職活動をはじめめる学生に向けて励ましの言葉がありました。今回の就活サポート講座では、毎日コミュニケーションズの保坂環氏を講師としてお迎えし、「2時間で分かる就活の流れ」と題したご講演をいただきました。今年の就職活動から、各企業の広報開始が10月から12月へ変更する一方で、選考開始は従来どおり翌年4月と変わりません。これまでと比べ、エントリー

期間や会社説明会の時期が短期間となったことが最大の変更点であり、自己分析や業界・企業研究をじっくりと行い、12月以降は効率的に各種セミナーや合同企業説明会に参加すべきとのアドバイスがありました。

講演後は、多くの学生から様々な質問があり、2時間半にわたる第1回目の講座は大盛況のうちに終わりました。今後は10月に第2回、12月に第3回の就活サポート講座を開催いたします。また、この講座以外にも文学部では様々なイベントを開催して学生の就職活動をサポートしていきます。

(文学研究科・文学部)

歯学部附属病院にて看護フェア開催

去る5月20日(金)歯学部附属病院玄関待合ホールにて看護の日にちなみ、「身体測定して健康アップ」「よく噛んで元気になろう」をテーマに看護フェアを開催しました。

「身体測定して健康アップ」では、身体測定(身長・体重・血圧測定・視力検査)とBMI測定をし、測定値を記載したカードを配布、看護相談・指導をおこないました。また、「よく噛んで元気になろう」では、咀嚼の効用(唾液分泌や肥満予防、脳の活性化等)を図や絵を使用してわかりやすく掲示すると共に、よく噛むための10カ条を掲載したパンフレットを説明指導しながら配布し、ドライマウス等の看護相談にも応じました。

参加した患者さんからは、「日頃チェックできていない身体測定ができてよかった」「定期的にこのような企画をやってほしい」「次回の開催日を教えてほしい」等の意見をいただきました。予定時間を過ぎても大勢の患者が詰め



掛け、盛況のうちに終了しました。

(歯学部附属病院)

薬学部・薬学研究科 外国人留学生等歓迎パーティー開催

平成 23 年度薬学部・薬学研究科外国人留学生等歓迎パーティーが、5月24日(火)午後5時30分より薬学研究科2号館セミナー室において、約80名の参加を得て開催されました。

パーティーは小林資正薬学研究科長の開会挨拶、田中徹



明教授の発声による乾杯で始められ、外国人留学生、外国人研究員に加えて、多くの教員、学生が加わり、留学生間の交歓に加え、留学生にとって日頃接する機会の少ない他分野の教員、学生と懇談する良い機会となりました。

外国人留学生・研究員の出身国は、中国、マレーシア、韓国、ドイツ、タイ、エジプト等と様々でしたが、自己紹介の際には流暢な日本語で、学業・研究に対する抱負を語り、拍手喝采が送られました。終始、楽しい雰囲気の中で懇親を深め、国際交流委員長の岡田直貴准教授による開会挨拶の後に名残を惜しみつつ散会となりました。

(薬学研究科・薬学部)

医学系研究科保健学専攻・がんプロ主催 ドキュメンタリー映画会「大丈夫。 - 小児科医・細谷亮太のコトバ - 」完成試写会開催

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻及び文部科学省がんプロフェッショナル養成プランでは、関西初公開となるドキュメンタリー映画「大丈夫。 - 小児科医・細谷亮太のコトバ - 」の完成試写会を5月26日(木)に大阪大学中之島センターで、一般市民、学生、教職員を対象として開



催しました。

この映画は、映画作家の伊勢真一氏が、聖路加国際病院副院長(小児科医)の細谷亮太医師が40年来、小児がん治療の最前線で子どもたちの「いのち」と向き合った日々を綴った細谷嚙々(俳号)の2冊の句集をめくりながら創ろう、という思いで完成させたものです。

タイトルにもなっている「大丈夫。」は、細谷医師が診察を終えた病気の子どもたち一人ひとりに必ず添える一言であるとともに、細谷医師の「いのち」を見つめるコトバでもあり、さらには映画を観た人たちへの励ましの一言となり、多くの人に勇気と感動を与える作品となっています。

また、上映のあとは、伊勢監督、細谷医師、鷲田総長によるトークライブも行われ、細谷監督からは、「この映画を小児ガンで亡くなる子たちの記憶としていきたい」とお話があり、参加者からは盛大な拍手が送られました。

(医学系研究科・医学部)

学生支援ステーション StationCafe(第1回)開催

学生支援ステーションでは、大学の正課活動や課外活動以外に様々な学生が交流できる機会や場づくりを積極的に行っています。

本年度第1回として、5月27日(金)に、ネズミとパンダの着ぐるみがトラブルに見舞われつつも性格を改心していく『ゆずれない事』、壮大な自然を背景にネズミとパンダの着ぐるみの出会いを描いた『正しい方向』の映画鑑賞会を、学生支援コミュニティスペース(学生交流棟2階)において開催しました。

上映後にカフェタイムを設け、参加者の感想を話し合う機会を設け、自分の感想以外にも、興味のあることについて学生生活相談員をまじえながら参加者同士で意見交換することによって、新しい発見や交流のきっかけを築くことができたようでした。

今後も、定期的に StationCafe を開催していく予定です。



Caféの様子

皆様の参加をお待ちしています。

(学生支援ステーション/学生・キャリア支援課)

平成23年度 医学部御遺骨返還式実施

去る6月1日(水)午後1時30分から医学部共通棟3階大会議室において、御遺骨返還式がしめやかに執り行われました。

この式典は、毎年行われているものであり、系統解剖のために篤志団体である大阪大学白菊会から献体をいただき、医学部学生が平成22年度中に解剖させていただいた方々の御遺骨を御遺族にお返しする行事で、今回で第89回を迎えました。

当日は、雨曇りの中、約80名の御遺族が出席され、医学部からは米田悦啓学部長はじめ、解剖学教室の関係教員、八幡親明白菊会会長等が出席されました。

式典は、まず献体者の方々の御霊に対して参列者全員が



黙祷を捧げた後、米田学部長から献体者の尊い御意志と御遺族の深い御理解に対して深く感謝を申し上げる旨の挨拶がありました。続いて、32名分の御遺骨が米田学部長から御遺族一人ひとりに返還され、併せて八幡白菊会会長から御供物が手渡されました。最後に、解剖学教室を代表して、神経機能形態学講座の遠山正彌教授からお礼の言葉が述べられ、滞りなく御遺骨返還式は終了しました。

なお、式典終了後、御遺族及び医学部関係教職員がそって吹田キャンパス内にある「大阪大学医学部・歯学部献体慰霊碑」に献花を行い、献体者の御冥福をお祈りして、午後2時30分に散会しました。

(医学系研究科・医学部)

学生向け特別セミナー

ヨーロッパ統合と欧州議会: - 平和と成長の50年、そして未来 -

6月1日(水)に、豊中キャンパス大学教育実践センター学生チューデントコモンズにおいて「ヨーロッパ統合と欧州議会: - 平和と成長の50年、そして未来 -」“The European Parliament in a United Europe: 50 years of peace and growth”と題したセミナーが開催されました。セミナーには大阪大学のみならず神戸大学の学生、そして外国人留学生を含めた約40名の学生が参加しました。

このセミナーはG30ネットワーク事業の本格稼働に向けて、大学国際化ネットワーク事業事務室の支援の下で大阪大学国際企画推進本部が主催し、神戸大学国際交流推進本部とEUインスティテュート関西(EUIJ)の共催で行われたものです。

セミナーの冒頭では、神戸大学ブリュッセルオフィス奥西孝至所長より「関西の大学がこのような協力して、学生の国際化のための企画を共同に行うことは非常に有意義な試みである」と挨拶をいただきました。セミナーの講師には欧州議会(ブリュッセル)コミュニケーション総局、オー



参加者の質問に答える Enrico D'Ambrgio 講師

ディオ・ビジュアルWeb編集担当の Enrico D'Ambrgio 氏をお招きしました。同氏は、欧州連合(EU)創設の歴史を振り返りながら、欧州統合の最新動向と、規模や多文化性において世界に類をみない欧州議会がいかに地域の平和と民主主義の安定のために貢献してきたかについて、また23の公式言語で運営される議会とその組織について講演されました。セミナー終了後には参加者から活発な質疑が行われ、それぞれの学ぶ欧州言語で学生が講師に質問する場面も見られました。

閉会に際しては、大阪大学国際企画推進本部・文学研究科の竹中亨教授が「このように欧州連合を理解することは現代の社会、政治を考える上で不可欠である、今後もこのような機会をもうけたい」と挨拶を述べ、その後、講師と参加者の交流会が行われ、EUが抱える問題や将来への展望について更なる意見交換が行われました。

(国際企画推進本部、大学国際化ネットワーク事業事務室)



奥西孝至神戸大学ブリュッセルオフィス所長によるはじめの挨拶

洪庵忌 - 適塾の夕べ - 開催

適塾を開いた緒方洪庵の命日(6月10日)に、洪庵の遺業を偲ぶ催し「洪庵忌 - 適塾の夕べ -」が本年も6月6日(月)適塾1階客座敷において開催されました。



日野信行教授



の場梁次教授

今回は、役員、各部局長、名誉教授、適塾記念センター教職員など関係者約20名の出席があり、当時の塾生が学んだ時と同じような雰囲気の中、日野信行言語文化研究科

教授が「適塾の蘭語教授法から今日の英語教授法へ」、また、的場梁次医学系研究科教授が「薬物依存、特に覚せい剤中毒について」と題してそれぞれ講演を行いました。

(適塾記念センター)

基礎工学部創立50周年記念 レリーフ贈呈式・講演会・交流会開催

基礎工学部は、昭和36年に創立され、平成23年4月をもって50周年を迎えました。本学部は「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発 それにより人類の真の文化を創造する学部」という創立理念のもと、常に学際領域を切り拓き、時代の要請に応える新しい学問領域を創り出すとともに、理学と工学のセンスと国際性を身につけた研究者・技術者を多数輩出し、学界・産業界に貢献してきました。このたび、創立50周年を記念して、6月4日(土)にレリーフ贈呈式、記念講演会及び交流会を開催しました。基礎工学部同窓会では、創立50周年を記念し正田建次郎



金田基礎工学部同窓会会長の挨拶

初代学部長(第6代大阪大学総長)の肖像レリーフ並びに基礎工学部・基礎工学研究科の沿革を表した銘板及び基礎工学部のシンボルであるシグママークの由来を表した銘板を基礎工学部に寄贈する事業を進めてこられ、肖像レリーフ、沿革銘板は基礎工学研究科正面玄関に、シグママーク由来銘板は基礎工学国際棟に設置されました。

レリーフ贈呈式は、正田先生のご子息正田紘様のご臨席のもと基礎工学研究科正面玄関にて執り行われ、金田清臣基礎工学部同窓会会長から戸部義人基礎工学部長への目録の贈呈とレリーフ除幕の後、正田紘様からご挨拶をいただ



正田初代学部長のレリーフ



戸部学部長の挨拶



岩橋良雄氏の講演

き、最後に正田紘様、戸部学部長、金田同窓会会長を囲んで同窓会役員等参列者一同で記念撮影を行いました。

また、基礎工学国際棟において開催した講演会には、学内外の来賓及び関係者約190名が出席し、戸部学部長の開会挨拶、続いて鷺田清一総長の挨拶の後、北山辰樹教授による50年の歩みの紹介がありました。創立当時の懐かしい写真が次々と紹介され会場がどっと沸く場面もありました。その後、岩橋良雄 日鉄日立システムエンジニアリング株式会社代表取締役社長による講演「ある基礎工卒業生 - システムエンジニア 管理者 そして経営者へ - 」及び北岡良雄教授による講演「科学と技術の協奏 - 超伝導に魅せられて - 」が行われ参加者は興味深そうに聴き入っていました。

講演会終了後、豊中キャンパスのレストラン宙(sora)で開かれた交流会では、160名近くの出席者のもと戸部学部長、宮原秀夫前総長、金田同窓会会長による挨拶があり、出席者は終始和やかな雰囲気の中旧交を温め歓談しました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)

第16回 環境月間講演会開催

6月2日(金)に理工学図書館ホールにおいて第16回「環境月間講演会」を開催致しました。今回は北海道大学大学院理学研究院化学部門教授・北海道大学安全衛生本部・副部長の澤村正也(さわむら まさや)先生を講師にお招きして、「環境にやさしい有機ホウ素化合物の合成法」の演題で講演して頂きました。

ノーベル化学賞「鈴木カップリング」に代表されるように、有機合成化学における有機ホウ素化合物の有用性は日々増大しています。有機ホウ素化合物は反応性が穏やかであ



講演中の澤村正也先生



り、目的分子を作る際に、思いどおりの場所で反応し、環境にやさしい方法になります。講演では、環境に配慮した合成化学的課題に対して、固相担持ホスフィン Silica-SMAP に基づく触媒設計とこれを用いた高効率ホウ素化反応を紹介していただきました。

多数の教職員の参加により、活気溢れた講演会となり、講演終了後も熱心な聴講生からの活発な質問にも丁寧にお答え頂きました。

(環境安全研究管理センター)

平成23年度 大阪大学主任研修(新任)実施

平成23年度大阪大学主任研修(新任)が、6月15日(水)から17日(金)までの3日間にわたりコンベンションセンターで行われました。

本研修は、本学において新たに主任の職になった者41名を対象とし、「その立場と役割を再認識させるとともに、マネジメントに関する理解を深め、職務に対する応用を図る。また、自己啓発の指針を確立させることにより職員の資質の向上を図る」ことを目的として、実施されたものです。



尾山真之助理事・副学長による開講式挨拶の後、専門講師による講義・演習により研修が進められました。

受講生は、主任について求められる、後輩指導力や新人育成の考え方を確認し、具体的な育成の進め方について理解を深めました。また、業務に潜む問題を発見し、解決に導くための様々な手法・方策を学び、実践的なケーススタディについて、活発な意見交換を行いました。

受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。



(総務企画部人事課)

第8回 大学教育セミナー

6月17日(金) 第8回大学教育セミナー(兼・教育実践公開研究会)をステューデント・コモンズ2階・セミナー室において開催し、京都大学の溝上慎一准教授に「単位制度の実質化と学生の学びと成長」という題でご講演を頂きました。

専門の青年心理学の立場から、学生の成長につながる単位制度の実質化ならびに大学教育のあり方を軸に話が展開されました。最初に単位制度の歴史や現行の法制度、一般的な取り組みなどについて簡単に整理された後、具体的なデータを示しながら、日米の学生の学習時間の違いが紹介されました。続いて、学生の学習を「授業学習」「授業外学習」「自主学习」に分けて分析すると、学生は4タイプ(



授業学習中心、全てに消極的、全てに積極的、授業と自主学习中心)に分かれることが示されました。そして、将来見通しがあり、今必要なことを理解し実行している学生(「理解実行」)はタイプ・に多く、将来の見通しを日常生活に繋げられる学生は、授業や諸活動にも積極的であること、1年次に「理解実行」の学生はアクティブラーニング型の授業も積極的に履修していること、したがって、1年次の態度が4年間の成果を大きく規定するので、初年次からのキャリア教育が重要であることが述べられました。また、授業の中だけで学生を鼓舞するのは難しく、課外も含めて考える必要性も示されました。

講演に引き続いて行われた質疑応答では、この問題の学生への提示、学生に時間外学習をさせるようにする方途、積極的な学生の大学院進学への促進などが話題となりました。特に最初の点については、学生を納得させるために具体的なデータを用いて示すこと、そのためのデータを整備する必要性を感じました。限られた時間ではありましたが非常に活発なやり取りがなされ、定刻を過ぎて閉会しました。終了後も参加者からの質問等が多くなされていました。

今回のセミナーは、単位制度の実質化をもとに学生の成長・学びやキャリア教育にまで関わる内容であり、本学の教育のいっそうの充実に有益な示唆を与えるものであったと考えています。

(大学教育実践センター)

平成23年度 外国人留学生見学旅行

6月18日(土)~19日(日)の1泊2日の日程で、三重県方面へ、伊勢・鳥羽を目的地として実施しました。参加者は、学生48名(内訳:チューター7名、留学生学部1年次40名、2年次1名)、教職員6名の計54名でした。

今回の見学旅行では、伊賀上野の伝統工芸である組紐の台組を体験し、また忍者資料館や忍者ショーを見学しまし

た。また、鳥羽二見浦(夫婦岩) 伊勢神宮(内宮) 東海道の関宿歴史資料館を散策しました。

両日共、小雨の降り続く悪天候ではありましたが、予定通りの行程を無事に終えることができ、参加した留学生のみなさんも大変楽しく2日間を過ごしていました。



伝統工芸組紐・台組を体験する留学生



伊賀忍者の伝統忍術ショーを見学



伊勢神宮(内宮)前での記念撮影

(大学教育実践センター)

第1回 大阪大学欧州同窓会開催

6月18日、第1回大阪大学欧州同窓会をドイツ・ベルリンにて開催しました。本同窓会は、在欧州の大阪大学と旧大阪外国語大学同窓生が結成した組織です。当日は、会員45名、本学関係者8名、同伴者18名の合計71名の参加があり賑やかな同窓会となりました。

第1部はホテル・マリティームにて同窓会設立総会および特別講演会が行われました。辻毅一郎理事・副学

長の開会の挨拶に始まり、池辺公智氏（三菱重工業株式会社・工学部1977年卒業）進行のもと総会が執り行われ、同窓会の会則ほか、今後の同窓会運営および地域活動、役員選出方法などが承認され、参加会員の活発な意見交換も行われました。第1部の後半は、鷲田清一総長による「原点へ・未来へー大阪大学創立80周年について」、および神余隆博在ドイツ特命全権大使による「震災と外交」の特別講演が行われました。

第2部は、ホテル・マリティームより徒歩10分の在ドイツ日本国大使館に会場を移し、前述の神余隆博大使ご夫妻の案内のもと、公邸での見学会が行われました。同大使の挨拶に始まり、宮原秀夫大阪大学前総長の乾杯の挨拶の後、鷲田清一総長より同大使ご夫妻に対し今回の同窓会開催にあたりご協力いただいた御礼として花束、記念品が贈



られました。

第3部は、バスでオペラ宮（Opernpalais）へと移動し、総長と同窓生との交流会が行われました。鷲田清一総長の挨拶に始まり、欧州同窓生を代表して咲耶会（大阪外国語大学同窓会）より片岡惇氏（大阪外国語大学スペイン語1956年卒業）、大阪大学卒業生からは鈴木憲氏（Queen Mary University of London・大阪大学大学院医学系研究科1997年修了）両氏より挨拶いただきました。その後、橋本日出男大阪大学前理事ご発声による乾杯の後、食事会および歓談が行われました。途中抽選会も行われ、非常にアットホームな雰囲気の中、弘津禎彦グローニンゲン教育研究センター長の閉会の挨拶で締めくくられました。

来年以降に開催される欧州同窓会に対しても、同窓会事務局として可能な限りサポートしていきます。



（グローニンゲン教育研究センター）

平成23年度 第1回共通教育科目別FD実施責任者会議開催

6月21日(火)、大学教育実践センター中会議室において、平成23年度第1回共通教育科目別FD実施責任者会議を開催しました。

共通教育科目別FDは、FDの義務化を受け、より実効性のある活動を目指して平成20年度より実施しています。今回の会議では、今年度の実施方法等について議論を行いました。最初に科目別FD実施の趣旨について説明が行われた後、科目FDの実施内容・方法について説明がなされました。実施体制については、授業評価アンケートの「くくり」を基本として部会を構成し、そこを単位として何らかのFDを実施し、報告書の提出を求めるという昨年度までの方式を基本にして実行することとしました。実施内容については過去3年の「共通教育科目別FD実施報告書」などを参照して各部会で実情に応じて決めることとしました。

今年度は重点項目として、FD推進部門より、TAの活用方法が提案されました。これは全学のTA制度改革を視野に入れたもので、TA活用における工夫等の情報収集とともに、活用にあたっての課題等についても議論いただくことをお願いしました。科目別FDの実施方法等については、例年通り2月末までに各部会で何らかのFDを実施して実施報告を提出し、3月に実施報告集の簡易版を、5月に完

成版を刊行すること、簡略版をホームページに掲載することとしました。次回会議は3月に予定し、その間に各部会でFD活動を進め、報告・情報交換を行うこととしました。



今回の会議では積極的な意見も多く出されました。第1に、部会だけでは解決できない問題に関する点で、この点については新たにフォーマットに設けた要望欄にて問題提起をしていただき、センターの然るべき部署で検討することとしました。第2に、留学生、特に日本語能力が十分でない留学生への対応について問題提起があり、各部会での議題の1つとして考慮いただくこととしました。また、フォーマットに概要欄を設ける提案があり、提案に従ってフォーマットを修正しました。

実施4年目になり、マンネリ化も懸念される時期ではあるが、会議参加者からの積極的な提案により、いっそう充実した科目別FDの実施が期待できるように思われました。

(大学教育実践センター)

低炭素キャンパス及び節電への取組

温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化が深刻化していることに対し、本学から排出される温室効果ガスの削減に向けて平成23年6月1日に環境・エネルギー管理部が設置されました。同部では、低炭素キャンパスを実現させるための取組みや、エネルギーの使用の合理化を総合的に進めるための全学的な省エネルギー方策の検討を行っています。

その一つとして、電力の可視化システムを導入し、キャンパスにおける使用電力量をリアルタイムで、学内のパソコンから閲覧できるようにしました。このシステムを活用し、本学の構成員全員が、節電意識を高め省エネルギー方



策のフォローアップを効果的に実施できるようになると考えております。

また今年度は、全国的に電力需要が逼迫する中、「平成23年夏季における大阪大学節電・省エネ計画」 阪大節電スタイルにも取り組んでいます。各キャンパスにおいて、7月から9月の間、最大使用電力と使用電力量について、昨年比それぞれ15%減、12%減の数値目標を設定し、教職員だけでなく、学生に対しても教育の一環として、節電・省エネルギー活動を実践させることにしました。

6月21日には、省エネルギー推進会議を開催しました。各部局より省エネルギー担当者へ出席していただき、前述の取組みに対する説明や電力管理に関するお願い等を行いました。今後は、各部局で省エネルギー推進体制を明確化し、全学的に省エネルギーに対する取組みを強化することになりました。

(環境・エネルギー管理部)



前期1年生クラス代表懇談会報告

6月21日(火)の昼休みを利用して、1年生の前期クラス代表懇談会が大学教育実践センター、ステューデント・コモンズ2階セミナー室1で開催されました。この懇談会は、センター教職員と学生のクラス代表とが、授業・カリキュラムや学習環境など、当センターが関係する問題全般について話し合うために開催されています。今回は、本部から、情報推進部情報基盤課の脇坂道久氏、学生部学生キャリア支援課の岡本安生氏、学生支援ステーションの太刀掛俊之准教授をお招きしました。1年生のクラス代表は81名が、教員は18名、事務職員は7名が参加しました。

懇談会は、まず工藤センター長から、大学をより良い学びの場と変えていくために忌憚のない意見をどしどし出して欲しいとの言葉がありました。続いて脇坂氏から、11月から新しいKOANに切り替わるお話があり、新しい機能について紹介がありました。当センターの服部准教授から



からはバンキョー革命についてのお話があり、授業の改善に向けて積極的な活動を促すお話がありました。井上教授からは、

7月28日開催予定の「総長お薦め講義」(鷲田総長からの学生への最後のメッセージ)への参加の呼び掛けがありました。



堀准教授からは学習支援サイトの紹介がありました。窪田教授からは、ガイダンス室での学習相談ならびに多言語カフェの紹介がありました。

続いて、学生が常日頃感じている諸問題についての自由な発言が行われました。食堂は、日曜日にも開業して欲しい、狭隘なスペースはなんとかならないか等、様々な要望が出されました。またウォーター・クーラーを設置して欲しいという意見も出ました。箕面でのクラブ活動の際の学内バスの運用についても要望が出ました。また阪大はグローバル化に力を入れているのだから、英語も第2外国語も授業時間数を増やして欲しいし、英語についてはネイティブの教員の数を増やして欲しいという要望も述べられました。

事前アンケートで出た要望・意見と、それに対する回答は、当センターのウェブ・ページに掲載する予定です。

(大学教育実践センター)

平成23年度 海外留学オリエンテーション実施

国際教育交流センターでは、国際交流オフィス学生交流推進課の協力を得て、海外留学オリエンテーションを実施しています。今年度は4月19日と21日に豊中キャンパスで2回(昼休みと放課後)実施し計320名以上の学生の参加がありました。主として新生に入学当初の段階で海外への興味関心を喚起し、在学中の交換留学制度や夏や春休み中の短期の語学研修プログラムについて紹介し、昨年度



の研修プログラム参加学生の体験を語ってもらいました。また交換留学生と本学の一般学生が共に受講する英語で行われる国際交流科目についてや、教員や留学経験学生による個別の留学相談システムなどを情報提供することで入学段階において計画的に交換留学へ向けた準備を始めるよう促しました。また6月には、各キャンパスで計4回オリエンテーションを実施し、こちらでは大学間交換留学制度の詳しい説明と申し込みに関する諸注意点や協定大学ごとの派遣枠などの最新情報を提供するとともに、改訂した「阪大生のための海外留学ガイドブック」その他の資料を配布しました。その他、留学前から留学中の就職支援サイトの情報提供なども行った。それから交換留学制度で派遣し帰国した学生4名に体験談を語ってもらいました。参加者は、女子学生206名、男子学生113名の計319名が参加しました。学部別では、外国語学部が約半数を占め、次いで法学部が41名であったのに対し、理系学部は合わせて約50名でした。女子学生と文系学の学部生の参加が多く見られました。

(国際教育交流センター・国際交流オフィス学生交流推進課)

理学研究科・理学部 「ハラスメントに関する研修会」を実施

理学研究科・理学部では、教育研究活動で十分な成果を上げ、社会的使命を果たしていくために、男女、教職員と学生、職種の区別なく、全ての者が互いに尊敬し合い、対等にコミュニケーションを行い、平等に能力を発揮し、協力し合う環境の整備が必要と考えています。この環境整備の一環として、ハラスメントの防止等に関する規程を設け、理学研究科等ハラスメント対策委員会並びに部局相談員を置き、ハラスメントの防止に研究科・学部を挙げて取り組むとともに、平成12年から毎年、新任教職員並びに新しく研究室に配属となる学部生及び大学院生を対象として研修会を行ってきました。

本年度は、大阪大学ハラスメント相談室長の医学系研究科・大和谷厚教授を講師としてお招きし、「ハラスメントのない大学を目指して」と題して、平成23年6月6日(月)、6月22日(水)の2日に渡り、理学部D501講義室においてご講演をいただきました。

研修会当日は、東島清理理学研究科長・理学部長(6月22日は理学研究科等ハラスメント対策委員会の篠原厚委員長)による挨拶のあと、大和谷相談室長から、図表等を交えつつ、学内におけるハラスメントの現状、大阪大学のハラスメント予防・相談体制、ハラスメントをしないための心構



ハラスメント研修会

え、被害にあった時あるいは見かけた時の対処方法など、セクシュアル・ハラスメント、パワー・ハラスメント、アカデミック・ハラスメントについて多岐にわたるご講演をいただきました。

研修会には、6日・22日の両日で例年を上回る約300名が参加しました。会場では非常に熱心に聴講する姿が多数見受けられ、ハラスメントの防止に対する意識を高める機会となりました。

(理学研究科・理学部)

平成23年度 ハラスメント相談員研修会実施

平成23年度ハラスメント相談員研修会が6月23日(木)に文・法・経中庭会議室及び27日(月)に銀杏会館会議室Bにおいて、両日を含め49名の参加者のもと実施されました。

本研修は、昨年度からセクシュアル・ハラスメントに加え、アカデミック・ハラスメント及びパワー・ハラスメントの問題に対処するため、全学相談員、部局相談員を対象としたもので、相談を受けるに当たっての対応や心構えについてロールプレーを取り入れた講義を通じ、ハラスメント相談員として必要な知識の理解を深めることを目的に開催されました。



大和谷相談室長

研修会では、大和谷厚ハラスメント相談室長の挨拶の後、ハラスメント相談体制について、飯國洋二副室長(豊中地区)及び有川友子副室長(吹田地区)から説明が行われました。引き続き、セクシュアル・ハラスメント



相談室の中野冬美、青木あさ代、濱田綾専門相談員による、「セクシュアル・ハラスメント相談を受けるために」、またアカデミック・パワー等ハラスメント相談室の座古勝専門相談員による事例を用いた説明がありました。

受講者は、相談員の立場や、相談者としてのロールプレーに熱心取り組むとともに、活発な質疑応答などが行われ、好評のうちに終了しました。

(総務企画部 ハラスメント対策事務室)

歯学部附属病院敷地内は全面禁煙になりました!

歯学部附属病院では、健康増進法の主旨に則り、受動喫煙の防止を目的として、平成23年8月1日から病院敷地内を全面禁煙としました。

たばこの煙には有害な成分が多く含まれていますが、喫煙者が吸うたばこの煙(主流煙)より、たばこを吸わない人がたばこから出る煙(副流煙)を吸う方が発がん性物質が多く有害であることが指摘されています。医学部附属病院では、既に4月1日から病院敷地内全面禁煙が実施されていましたが、歯学部附属病院においても病院の患者さんだけでなく、患者さんのご家族、お見舞いに来られた方、病院で働く職員の健康を守るため、全面禁煙に踏み切りました。

敷地内全面禁煙に先立ち、6月1日から院内外に予告の掲示を行い、来院者に理解を求めてきました。また、啓発活動の一環として6月24日からは隔日で禁煙パトロールを実施しています。パトロールは、病院長、副病院長を筆

頭に、看護部、薬剤部、事務部の職員が各回4名で巡回し、指定場所以外での喫煙者に対し指導を行うとともに、敷地内でポイ捨てされた吸い殻の清掃を行っています。

森崎病院長は「たばこは、吸う人自身だけでなく、たばこから出た煙を吸う周りの人にも健康被害を及ぼします。また、喫煙は歯周病を悪化させるとの報告もあります。たばこを吸う人の健康はもとより、たばこを吸わない人の健康を守るためにも敷地内全面禁煙は不可欠です。歯学部附属病院では、禁煙指導も行っていますので、たばこをやめたい方はぜひご相談ください。職員に対しては、医療に携わる者として、国民の健康を守るため率先して禁煙に取り組むよう厳しく指導していきたいと考えています。」と話しています。

なお、敷地内全面禁煙に伴い、敷地内に駐車中の車内における喫煙も禁止します。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。



森崎病院長



西尾看護部長



(歯学部附属病院)

歯学部附属病院SD(Staff Development)講習会実施



歯学部附属病院では、7月4日(月)に、病院で働くスタッフを対象に「ともに学ぼう!!歯病フォーラム2011」と題し、今年度1回目のSD講習会を実施しました。

今回は、8月1日からの歯学部附属病院敷地内全面禁煙に先立ち、大阪大学保健センター副センター長の瀧原圭子教授に「強化される職場と公共機関の受動喫煙防止対策」についてお話いただきました。

当日は、100名を超える教職員や学生が参加し、喫煙に対する意識改革のための良い機会となりました。

(歯学部附属病院)

大阪大学が社団法人発明協会、一般社団法人大阪発明協会との連携協力に関する包括協定を締結

大阪大学では「地域に生き世界に伸びる」の基本理念のもと、地域・社会との緊密な連携を推進しており、この度、社団法人発明協会、一般社団法人大阪発明協会と連携協力に関する包括協定を締結することとなりました。

社団法人発明協会は、1904年の設立以来100年以上にわたり、一貫して発明の奨励・産業財産権制度の普及に努め、我が国科学技術の進歩・発展に貢献してきた団体であり、



調印後、倉内大阪発明協会長（左）
川田発明協会理事長（中央）と握手する鷲田総長

また、一般社団法人大阪発明協会は、平成23年4月より、大阪大学中之島センターに入居し、大阪優秀発明大賞等の発明奨励事業などを実施し、大阪府における知的財産権に関する課題をワンストップで解決する「知財総合支援窓口」を担っています。

大阪大学は、知的財産法に関する専門的な知識・理解を身につけ、知的財産の分野で活躍できる人材を養成することを目的とした、知的財産センターを平成22年4月に設置し、大阪大学内だけでなく、社団法人発明協会や一般社団法人大阪発明協会と密接に連携し、教育活動を行っていました。

今回の包括協定締結を機に、教育、研究、知的財産の活用及び社会貢献等の各分野で協力関係が強化され、産学連携・社学連携の推進、地域社会の発展、人材の育成に寄与することが期待されます。

調印式は、6月27日（水）大阪大学中之島センターにおいて、大阪大学からは鷲田清一総長のほか関係理事が、社団法人発明協会からは川田洋輝理事長及び関係役職員が、一般社団法人大阪発明協会からは倉内憲孝会長及び関係役職員が出席して行われました。

（広報・社学連携オフィス広報・社学連携事務局）

大阪大学が尼崎市との連携協力に関する包括協定を締結

大阪大学では「地域に生き世界に伸びる」の基本理念のもと、地域・社会との緊密な連携を推進しており、平成16年10月の吹田市との包括協定締結以降、平成19年度には豊中市、箕面市、茨木市、大阪市、池田市、堺市、平成20年度には摂津市と同様の協定を締結してきました。

そして、この度、本学の包括協定締結自治体としては9市目、大阪府外の自治体としては初めて尼崎市と包括協定を締結することとなりました。これまで同市とは大学院工学研究科附属サスティナビリティ・デザイン・オンサイト研究センターを中心に、ライフスタイルと産業技術を視点に、次世代に向けた研究開発を進め、産業界や地域社会との連携を図りながら持続可能な社会（低炭素型、循環型、自然共生型）の形成を目指して活動してきました。

今回の包括協定締結を機に、今後、環境、産業、まちづくり、教育・文化、健康の分野において、連携がさらに深まっていくことが期待されます。



調印後、稲村市長（右）と握手する鷲田総長

調印式は、6月29日（水）大阪大学において、大阪大学からは鷲田清一総長のほか関係理事が、尼崎市からは稲村和美市長及び関係役職員が出席して行われました。

（広報・社学連携オフィス広報・社学連携事務局）

大阪大学テクノアライアンス棟竣工披露式典を開催

大阪大学産学連携本部は、テクノアライアンス棟の竣工を記念し、平成23年6月28日(火)に大阪大学テクノアライアンス棟竣工披露式典を開催しました。

当日は、梅雨時期にもかかわらず晴天に恵まれ、100名を超える大学内外の関係者にご出席いただきました。

式典では鷲田清一総長らによるテープカットの後、テクノアライアンス棟アライアンスホールにおいて 鷲田清一総長、岡誠一文部科学省大臣官房文教施設企画部技術参事官、およびテクノアライアンス棟に協働研究所・共同研究講座を設置する企業の代表者らによる挨拶がありました。引き続き馬場章夫工学研究科長より「テクノアライアンス棟での研究活動・テクノアライアンス棟の活用」についての記念講演、石田雄三文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 大学技術移転推進室 室長補佐より「先進的な産学官連携活動への期待」と題しての記念講

演をそれぞれ行いました。

式典後は、施設見学が行われ、テクノアライアンス棟を利用する各協働研究所、共同研究講座、協働ユニットの研究活動の説明や企業紹介、さらに8階を利用する Hitz バイオマス開発共同研究講座の実験室などの見学を行いました。

施設見学の後は交流会が催され、多数の式典出席者が参加し、今後の産学連携活動についての活発な意見交換が行われ盛況の中、閉会となりました。(関連記事は12ページをご覧ください。)



テープカット

左から、西尾章治郎理事・副学長、岡誠一文部科学省大臣官房文教施設企画部技術参事官、鷲田清一総長、馬場章夫工学研究科長



竣工披露式典 鷲田清一総長の挨拶

(研究推進部産学連携課)

名誉教授招待懇談会開催

6月30日(木)に本年度の名誉教授招待懇談会が74名の名誉教授出席のもと大阪大学会館で開催されました。

懇談会に先立ち開催された施設見学会では、本年5月に竣工した同会館(旧イ号館)の見学が行われました。

懇談会は、鷲田清一総長の挨拶で始まり、昨年秋の例会以降に逝去された名誉教授の追悼、新名誉教授の紹介の後、春の叙勲で瑞宝中綬章を受章された鈴木胖先生(工)からご挨拶いただきました。

次いで、鷲田総長からの本学の教育、研究、社会学連携事業等について近況報告が行われました。

続いて開催された懇親会では、各部局長等も加わり、菊川眞先生(工)の発声により乾杯が行われ、出席者は互いに近況を報告されるなど旧交を温めつつ、終始和やかな雰囲気の中、閉会となりました。



乾杯の発声を行う
菊川眞名誉教授(工)



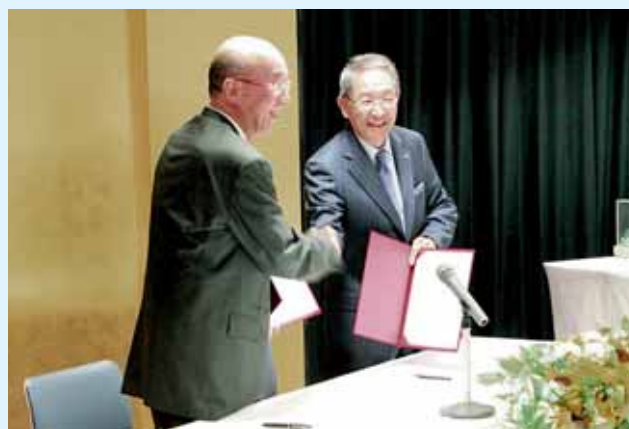
瑞宝中綬章受章の
鈴木胖名誉教授(工)

(総務企画部総長秘書室)

「脳情報通信融合研究センター」の発足式・看板除幕式を開催

6月29日(水)、吹田キャンパスの大学院生命機能研究科ナノバイオロジー棟エントランスにおいて「脳情報通信融合研究センター」の発足式・看板除幕式が、またナノバイオロジー棟隣接地において脳情報通信融合研究実験棟建設の安全祈願祭が、本学鷲田総長、(独)情報通信研究機構(NICT)宮原理事長など関係者のご出席のもと執り行われました。

また、これらに先立ち、「脳情報通信融合分野における共同研究に係る実験棟の管理運営に関する基本契約書(大



阪大学 - NICT)、「脳情報通信融合分野における共同研究に関する協定書」(大阪大学 - NICT - ㈩国際電気通信基礎技術研究所(ATR))の署名式が行われました。

「脳」と「情報通信」の融合研究は、従来にはなかった新しい試みであり、柳田敏雄 脳情報通信融合研究センター長のリーダーシップの下、本学、NICT 及び ATR 等関係機関が連携協力し、未知の領域の探求が本格的に行われていくこととなります。関連記事は38ページをご覧ください。

(研究推進部大型教育研究プロジェクト支援事務室)

「核物理研究センター放射線・安全衛生講習会」を開催

7月7日(木)13時30分より、核物理研究センター講義室において、H23年度核物理研究センター放射線・安全衛生講習会を開催しました。本講習会は、本センターの教職員・



学生・委託業者だけでなく、加速器施設を利用する全国の共同利用実験者なども対象とし、安全な研究・教育環境作りと安全意識の高揚などを目的として開催しています。今回は、多数の新人を含む約50名の参加者を得て盛況に行われました。放射線業務従事者の教育訓練も兼ねた放射線安全講習会では、本センターの特任研究員である豊田亘博氏により、「放射線が教えてくれたもの - サイクロトロンと非密封RI取扱の経験より - 」と題して、様々な現場で放射線に関わってきた46年間の豊富な経験と知識に基づく放射線管理の苦労話が披露され、参加者は興味深く耳を傾けていました。また、後半の安全衛生講習会では、緊急時の留意事項や6年ぶりに改訂された安全ガイドブックの内容などについて説明があり、参加者は熱心に話を聞いていました。

(核物理研究センター)

平成23年度 海外留学帰国者スピーチコンテスト

近年、本学から交換留学制度を利用し1学期間以上の海外留学を果たした学生が毎年100名を超えるようになってきています。国際教育交流センターでは、国際交流オフィス学生交流推進課の協力を得て、昨年度より留学帰国者スピーチコンテストを実施しています。去る2011年7月12日(火)豊中キャンパス共通教育棟A-102にて、今年度の



スピーチ出場学生

コンテストが開催されました。7名の留学経験者に「海外留学から私が出たもの」という共通テーマのもとで、副題をつけて各々留学で得た貴重な経験と、そこからどのような新たな自分を発見し成長できたかを日本語及び現地の勉学に使用した言語でスピーチして頂きました。審査委員には国際教育交流センターの教員7名とゲスト審査委員として高橋明世界言語研究センター長を招き、審議した結果、次の4名の学生が入賞しました。最優秀賞には、フィンランド・オーボアカデミー大学に留学した国際公共政策研究科修士1年の神坂仁美さんの『My unforgettable time in Finland』が、優秀賞には米国ウェズリアンカレッジに留学した外国語学部4年の平松志穂さんの『自信』が、特別賞には中国北京大学に留学した外国語学部4年の伊藤美加さんの『「関係(クアンシー)」と「自分から動き、考えること」』と韓国ソウル大学に留学した外国語学部4年の泉谷龍成君の『井の中の蛙、大海で漂流中!?!』が、それぞれ入賞しました。会場には約50名が聞きにきてスピーチ後に活発な質疑応答もなされました。

(国際教育交流センター・国際交流オフィス学生交流推進課)

第12回(平成23年度) 課外研究奨励費伝達式

第12回(平成23年度)課外研究奨励費の伝達式が、鷲田総長、小泉副学長、宮崎学生生活委員会委員長等の出席のもと、7月14日(木)に本部事務機構301会議室において行われました。

課外研究奨励費は、「学部学生の研究意識の向上」を目的とし、個人又はグループ単位の学生自身による正課以外の研究テーマを公募し、独創的かつ意欲的であると認められたテーマに対して授与されるものであり、今年度は17



件の研究テーマの応募のうち9件が採択されました。

伝達式では、初めに宮崎委員長から選考経過について説明があり、続いて鷲田総長から受賞者に対して賞状授与と講話が行われました。その後、各受賞者から研究の抱負等が述べられ、終始和やかな雰囲気の中終了しました。

今年度採択されたテーマ

- ・翼精度の向上による必要出力の軽減を中心とした無尾翼人力飛行機の開発
- ・大阪府立博物館と提携した南河内の古墳群のフィールド調査
- ・NHK大学ロボコン優勝を目指して
- ・レーシングカー高効率開発プロセスの研究及びそれに伴う学生フォーミュラ車両の開発
- ・国際舞台における交渉学の学問的、実践的研究
～ International Negotiation Competition 2011～
- ・小学校教育と人的資本の形成 ～法律と経済から考えるより良い教育のあり方～
- ・実践を通じた交渉術・法的思考能力の習得
- ・国際法模擬裁判大会への取り組みを通じた国際法の研究
- ・榎本武揚と日本外交 ～世界に挑んだ明治の気骨～

(学生部学務課)

平成23年度 大阪大学安全衛生講演会の開催

7月20日(水)大阪大学会館・講堂において、平成23年度大阪大学安全衛生講演会を開催しました。本講演会は、全国安全週間(7/1~7/7)にあわせて毎年開催しているものです。

今年度は、東北大学の猪股宏教授(環境・安全委員会安全管理専門委員会委員長)をお招きして、「東日本大震災における状況と課題 - 東北大学の事例から - 」と題して、未曾有の被害が生じた東日本大震災の現状と課題等について同大学の事例を踏まえご講演いただきました。

当日は、東北大学における被害状況のほか、震災発生後の安否確認や日頃の防災教育訓練の状況等について具体的な説明があり、講演後の質疑応答では活発な意見交換が行われました。参加者は約90名でした。



猪股 宏・東北大学工学研究科教授

(安全衛生管理部)

障害者雇用促進に関する講演会を開催

多様な人材活用推進本部は7月22日(金)、コンベンションセンターにおいて、「障害者雇用促進に関する講演会」を開催しました。



障害者雇用に関する講演会としては初めての開催となる今回は、大阪労働局職業安定部職業対策課障害者雇用担当官の尾崎哲一氏と(独)高齢・障害者雇用支援機構大阪障害者職業センター次長の高坂 修氏をお招きし、それぞれ「障害者雇用施策の概況」、「大阪大学での障害者雇用に向けて」と題し、障害者雇用の理念、法律の趣旨や制度の解説及び事務系職務における発達障害者等の雇用の可能性についてご講演いただきました。

また、高坂氏の講演には、実際に発達障害のある方の体験談が盛り込まれ、そのお話は大変興味深く、約80名の参加者は最後まで熱心に聴講しました。

当日実施したアンケートによると参加者には好評を博しており、障害者雇用に関する認識を高める有意義な講演会となりました。

(多様な人材活用推進本部)

大阪大学特別講義

平成21年度から開始した「大阪大学特別講義」は、学部・大学院や学年を問わず、全学のどのような分野の学生も受講すべき講義を、学外のさまざまな分野のリーダーの方々をお願いしているものです。

今年度は以下のとおり、6月20日(月)に建築家の安藤忠雄先生、6月27日(月)にノーベル物理学賞受賞者の南部陽

一郎先生をお招きして実施しました。両講義とも、会場に入りきれない多数の受講者がありました。なお安藤忠雄先生の講義と大阪大学学生との討議は収録され、「若者よ！君たちにニッポンを任せられるのか」という番組として、7月18日(月)15:05 - 16:00にNHK総合テレビで放映されました。

参加自由
学生の皆さんの参加を期待しています。

講義テーマ
「若者よ！たちあがれ」

講師
安藤 忠雄先生 (建築家)

参加対象
本学学生(教職員も可)
※開場16時30分まで、コンベンションセンターMOホール(1階)でMOホール入場整理券(1人1枚)を配付します。定員(500名)に達した場合は、別会場へ申込状況による繰越となりますので、あらかじめご了承ください。

日時
平成23年6月20日(月)
16時30分～20時(開場16時)
※開場前に各種案内サインを行います。

場所
大阪大学コンベンションセンターMOホール
(吹田キャンパス)

お問い合わせ先
大阪大学学生部学務課総務
E-mail: gakusei-gakumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp
Tel: 06-6679-7083
■主催: 大阪大学 教務・情報室

大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

大阪大学特別講義

講義テーマ
物理学者の肖像

講師
2008年ノーベル物理学賞
南部 陽一郎先生
シカゴ大学名誉教授・大阪大学特別荣誉教授

参加対象
本学学生(教職員も可) ※事前申込不要

日時
平成23年6月27日(月)
16時30分～18時 (開場16時)

場所
大阪大学会館(豊中キャンパス)

お問い合わせ先
大阪大学学生部学務課総務
E-mail: gakusei-gakumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp
Tel: 06-6679-7083
■主催: 大阪大学 教務・情報室



講義を行う南部陽一郎先生



会場に集まった学生・教職員

(学生部学務課)

免疫学フロンティア研究センター研究棟竣工式開催

大阪大学免疫学フロンティア研究センター（WPI-IFReC）は新しい研究棟の竣工記念式典を、7月12日（火）に開催しました。

大阪大学の免疫学研究は輝かしい歴史を持ちますが、現在は拠点長である審良静男教授とIFReCの研究者が中心になり、本学の免疫学研究を世界トップに押し上げています。

平成21年度第一次補正予算でWPI各拠点の研究環境の整備のため20億円が措置されたことから、IFReCは専用研究棟の建設に着手し、本年3月に完成しました。IFReC



審良拠点長の式辞

研究棟には、微生物病研究所と共有する中央実験室があり、数々の高スペックの装置（RI実験ステーション、電子顕微鏡、細胞選別機、DNAマイクロアレイ・シ

ステムなど）を運用しています。今後、この研究棟の完成により、ハード面でも体制が整ったことから、世界に冠たる「目に見える免疫学の研究拠点」として発展することが期待されています。



施設を見学する来賓の方々

竣工式典では学内外から約150名の出席者があり、審良静男拠点長と鷲田清一大阪大学総長の挨拶に続き、倉持隆雄文部科学省研究振興局長、井村裕夫WPIプログラム委員長、黒木登志夫WPIプログラムディレクター各氏の祝辞を頂きました。式典後には新研究棟の見学会が行われ、審良拠点長をはじめとするIFReCの研究者が来客をご案内しました。

（免疫学フロンティア研究センター）

第5回 パンキョー革命(学生・教職員懇談会)開催

7月14日（金）、マッチング型セミナー室（学生・コモンズ2階）にて「第5回 パンキョー革命（学生・教職員懇談会）」を開催しました。このイベントは、共通教育のよりよい在り方を学生と教職員が対話をしながら、共に考えていくために企画されています。参加者は42名を数えました。山成数明大学教育実践センター教育実践研究部長の挨拶の後、パンキョー革命推進チームの上回生から「試験をどう乗り越えるか」「パンキョーをどう受けるか」についてのプレゼンテーションがあり、「生徒」から「学生」へと学習スタイルや自覚を変えていくことの必要性が示されました。続いて、オフィスアワー、ラーニング・アドバイザー、図書館、学習支援サイトなど、主体的学習に活用できる学内資源について紹介があり、グループ毎にクエスチョンタイムを設けて、主に1回生の質問に上回生・教職員が答えました。

後半のグループワークでは、前半のプレゼンテーションやクエスチョンタイムの議論を踏まえ、学内資源の「活用」をテーマに話し合いをしてもらいました。各グループからの報告では、「自主的に学ぼうとする姿勢が重要である」、「授業の面白さ／つまらなさは個人の意識によるところが大きいのではないか」、「学生同士のネットワークや共同の機会が必要である」といった意見が出されました。

イベントの終盤では、学外参加者の梅村修教授（追手門学院大学・教育研究所長）から「大学は違えど思いは同じ。これからも連携・協力していきたい」との言葉をいただきました。また、閉会の挨拶では、工藤真由美大学教育実践センター長が、議論での学生の意見を引用しながら、教員も自信を持って教育に取り組み、より良い共通教育を作り上げていきたいと締めくくられました。



（大学教育実践センター）

ハラスメント防止等に関する研修会開催

ハラスメント防止等に関する研修会が、人権問題委員会とハラスメント相談室との共催で7月25日(月)に大阪大学会館において開催されました。この研修会はセクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント及びパワー・



ハラスメントに関する理解を深めることを目的に企画されたもので、教職員・学生、特に新任の部局長、教授、事務系管理職員等及び新規採用職員に参加願い、問題意識の向上を図ることとしたものです。

当日は110名を超える参加者があり、本学教職員等のハラスメント問題に関する関心の深さが表れておりました。

研修会は、有川セクシュアル・ハラスメント小委員会委員長(ハラスメント相談室副室長)の司会により、八木人権問題委員会委員長からの挨拶の後、広島大学 ハラスメント相談室室長の横山美栄子教授による「ハラスメントのないキャンパスのために - 大学におけるハラスメント対策の課題 - 」と題して講演が行われ、参加した受講者は最後まで熱心に聴講し、ハラスメント防止に対する意識を高めることができました。

(総務企画部総務課・ハラスメント対策事務局)

医学系研究科 環境保全講習会の開催

7月26日(火)医学部講義棟・A講堂において、医学系研究科環境保全講習会が開催されました。本講習会は、廃棄物の適正な分別の徹底を推進するため、医学系研究科と安全衛生管理部が協力して、過去の問題事例の紹介や関係法令の解説、医学系研究科内のルールの説明等が行われました。

医学系研究科長からの挨拶、医学系環境保全委員会委員長からの講習会の趣旨説明に続き、安全衛生管理部・富田賢吾准教授から「危険・有害物の取り扱いのプロとしての自覚とモラル～“ゴミ”を軽んずべからず～」と題した講演があり、廃棄物分別のルールとその根拠、起こり得る事故、大学人として取り組む姿勢等の説明がありました。その後、医学部契約係から「医学系研究科における廃棄物排出時のルールについて」と題し、具体的な廃棄方法のルールと注意事項の説明が行われました。

「ゴミは分別しよう」は常日頃から言われ続けていることながら、その背景や起こり得る事故、具体的な注意事項

まとめ

大学として安全、そして安心な環境であるために

薬品類や特殊な(危険を伴う)危機を使用できるのは大学が特殊な研究機関として認定されているから

※自分の家では薬品の使用などは簡単にはできない
※コンビニでは機器、試薬は買えない

世間的に求められること: 研究成果 + **安全な使用**

プロフェッショナルとして: 規定や法律を守るのは当たり前
それ以上の法律を超えた使用や管理をすること

「廃棄を、ごみを軽んずべからず」

廃棄の段階では大学という管理枠の中から出るところ
危険がない状況にまで気を配ることがプロとしての社会的責任

購入、保管、使用、廃棄において守るべきもの、責任をもつべきもの
廃棄物処理に関わらず安全関係全般に目を向け、責任ある対応を

を改めて熟考する機会となる講習会であり、聴衆からは質疑・応答時に多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。

(医学系研究科・医学部、安全衛生管理部)

総長への表敬訪問

ドイツ・ビーレフェルト大学長アシスタントが表敬訪問

4月28日(木)大学間協定を締結しているドイツ・ビーレフェルト大学の学長アシスタント Dr. Laura de Ruiter が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、竹中亨文学研究科教授、長井志江工学研究科特任准教授、平田公明学生交流推進課長が同席し、交換留学や奨学金取得の促進など、今後の両大学間における学生交流の発展に向けた意見交換が行われました。その後、本学に在籍しているドイツ人留学生との懇談では、留学生の学生生活や本学での授業内容についての懇談が行われ、両大学の交流にとって大変有意義なものとなりました。



Dr. Laura de Ruiterから記念品を受け取る
辻毅一郎理事・副学長

上海交通大学 呉旦副学長ご一行が訪問

6月10日(金) 本学と親交の深い中国・上海交通大学から呉旦副学長他7名が鷲田清一総長を訪問されました。

懇談の冒頭では、呉副学長より東日本大震災に対するお見舞いの言葉をいただき、鷲田総長からは大阪大学が行っている支援についての説明がありました。また上海セミナーをはじめとするこれまでの両大学間の長年にわたる交流に対して呉副学長が感謝の意を表するとともに、これからも両大学が協力していくことを確認し合う場となりました。

また、表敬訪問の後には医学部銀杏会館セミナー室において本学の施設部、財務部の職員らと意見交換会が行われ、施設整備に関すること等活発な議論がなされました。

意見交換終了後、ご一行は国立民族学博物館を訪問され、その後医学部銀杏クラブにおいて開催された懇談会では、辻毅一郎理事・副学長、山内直人国際公共政策研究科教授、掛下知行工学研究科教授らとさらなる交流の促進について闊達な意見が交わされました。



前列中央：鷲田清一総長
右：呉旦上海交通大学副学長



施設部・財務部との懇談風景

駐日スウェーデン大使ご夫妻が表敬訪問

6月25日(土)ステファン・ノレーン駐日スウェーデン大使とグラジーナ・ノレーン大使夫人が、鷲田清一総長を表敬訪問されました。本学からは、辻毅一郎理事・副学長、清水育男世界言語研究センター教授、向井弘志国際交流課長が同席し、日本の国立大学として唯一開講しているスウェーデン語教育の現状や今後の取り組みなどについて、報告と意見交換が行われました。



前列中央右：ステファン・ノレーン駐日スウェーデン大使
左：グラジーナ・ノレーン大使夫人
前列 右端：鷲田清一総長
左端：辻毅一郎理事・副学長

駐日欧州連合大使が表敬訪問

7月1日(金) Hans Dietmar Schweisgut 駐日欧州連合(EU)大使が、辻毅一郎理事・副学長を表敬訪問されました。本学からは、エラスムス・ムンドゥス(EM)やITPなどEU-JAPAN間の人的交流プログラムに携わる星野俊也国際公共政策研究科長、北山研一工学研究科教授、藤田喜久雄同研究科教授、石川真由美国際企画推進本部教授及び向井弘志国際交流課長が同席しました。懇談では、本学の国際化に向けた取り組みや海外との交流実績についての報告があり、また、EMやITPを利用する学生・研究者の交流促進や同プログラムの課題についての意見交換が行われました。



前列左：辻毅一郎理事・副学長
右：Li Fei 武漢大学副学長

「研究支援員制度」利用者、研究支援員インタビュー

大阪大学は、平成19年11月より「研究支援員制度」を開始しました。この制度は、出産・育児・介護等で研究時間が確保できにくくなっている研究者の研究面での支援を行うため、大学院修了者を「支援研究者」として、院生、学部の卒業生・学生を「研究補助員」として、採用・配置するものです。本制度は、平成22年度から男性の研究者も利用できるようになっています。

また本制度は、支援を行う大学院修了者・院生、学部の卒業生・学生に対して、ロールモデルと接することにより、キャリア形成を促すこともねらいとしています。

今回は、本制度の利用者と研究支援員として、医学部附属病院未来医療センターの野田博之特任講師と、李媛英研究補助員にお話を伺いました。

(インタビュアー)

野田先生は男性の研究者ですが、研究支援員制度を利用していただき、いかがでしょうか。

(野田特任講師)

大阪府が主体となって行なっている医療費適正化に向けた事業に関わらせて頂いているのですが、その一環としての行政研究に本支援制度を活用させて頂いています。具体的には、府の医療費や健診に関する膨大なデータの管理・分析が必要となりますので、この大量のデータを管理・分析する仕事を李さんをお願いしています。



李さんにとっても、大規模なデータを扱う経験をする事で、実際のデータの使い方につ

いてより深く習得することができると思います。李さんは博士課程ですが、データ処理の技術だけでなくその背景にある考え方を学んで、レベルアップしてもらいたいと思っています。



いてより深く習得することができると思います。李さんは博士課程ですが、データ処理の技術だけでなくその背景にある考え方を学んで、レベルアップしてもらいたいと思っています。

家庭の面では、配偶者も本学医学研究科の研究者で

あり、二人の小さい子供がいますが、夫婦で家事・育児を分担しています。料理は自分がすることが多いです。保育園の送り迎えは、状況に応じて分担してやっています。

(李研究補助員)

これまでに行なってきた研究では、主にクリーニング済みのデータを分析していましたが、今の仕事はクリーニングが行われる前の膨大な量のデータを扱うものですので、データ全体を見渡して、どのような考えや論理でデータを分析・整理すべきかについて学ぶことができ、大変得るものがあると思います。

(野田特任講師)

この制度は、利用者と研究支援員にWIN-WINの関係を実現する制度だと思います。利用者にとっては専門的・創造的な部分に費やす研究時間の確保ができ、研究支援員にとってはデータベース管理能力などの能力向上につながり、双方にとって意義のある良い制度だと思います。

(インタビュアー)

野田先生に研究支援員制度を利用いただき、男性、女性を問わず、育児等で研究時間の確保が大変な研究者に対して、本制度が大変お役に立っていることが改めて分かりました。本日は大変ありがとうございました。

最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択された研究者の紹介

阪大 NOW4 月号でお知らせしたとおり、「最先端・次世代研究開発支援プログラム」(内閣府、独立行政法人日本学術振興会)について採択課題が決定し、本学から 25 名が採択されました。

このプログラムは、世界をリードすることが期待される潜在的可能性を持った研究者に対する研究支援制度であり、「新成長戦略(基本方針)」(2009 年 12 月 30 日閣議決定)において掲げられたグリーン・イノベーション又はライフ・イノベーションの推進を図ることが目的のひとつとなっています。

本号ではグリーン・イノベーションで採択された 11 名

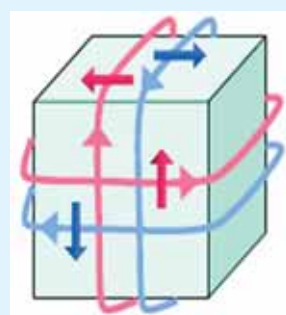
について、研究者のプロフィールと研究課題の概略をお知らせします。グリーン・イノベーションには、地球温暖化を克服し、持続的発展が可能な社会の実現を目指した、幅広い多様な科学・技術革新及び社会革新が含まれ、環境・資源・エネルギー・食料等の分野にこだわることなく、斬新な発想で課題解決に挑戦することが期待されています。

研究課題の概略は、大阪大学ホームページでもご覧いただけます。(トップページ>教育・研究活動>最先端・次世代研究開発支援プログラム)



トポロジカル絶縁体による革新的デバイスの創出 産業科学研究所 教授・安藤陽一

数年前に、トポロジカル絶縁体という新しい物質が発見された。内部は絶縁体だがその表面は低損失で電気が流れる性質を持っている。低消費電力で動く電子部品への応用などが期待できる。しかし、これまでに発見されたトポロジカル絶縁体物質は、内部の絶縁性が低いなど、実用上の問題点を抱えている。本研究では物質特性の改善に挑み、得られる知見を革新的デバイスの創出につなげる。これを利用した次世代の超低消費電力トランジスタなどが実現すれば、大幅な省エネルギーが期待できる。



電子のスピンの向きと運動方向が絡み合ったトポロジカル表面状態

あんどう・よういち

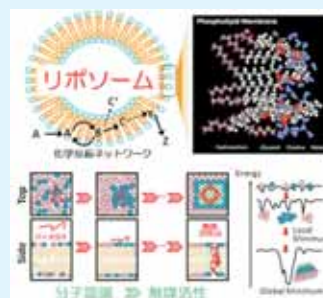
略歴：東京大学理学系研究科修士課程修了。博士(理学)。(財)電力中央研究所研究員、(財)国際超電導産業技術研究センター超電導工学研究所研究員、米国 AT&T ベル研究所客員研究員、東京理科大学理学研究科客員助教授、(財)電力中央研究所上席研究員、同材料物性・創製領域リーダーを経て 2007 年より現職。

プロフィール



Membranomeに基づく革新的バイオテクノロジーの創成 基礎工学研究科 准教授・馬越 大

「遺伝子」や「タンパク質」を基盤とするバイオテクノロジーでは、バイオ分子の不安定性等が工業利用の足かせとなっており、光合成膜のような、複数バイオ分子が高度集積化された「生体膜」が注目されている。「モデル生体膜(リポソーム)」は、バイオ分子を集積化して物質生産に必要な分子認識点や触媒活性点を創出できる特長がある。本研究は、リポソーム膜上での化学反応を制御して、最小のエネルギーと資源でモノをつくる、革新的バイオテクノロジーの創成を目指している。



リポソーム膜上でのモノづくり

うまこし・ひろし

略歴：大阪大学基礎工学研究科化学系専攻博士後期課程修了。博士(工学)。日本学術振興会特別研究員 PD、スウェーデン Lund 大学 Chemical Center 博士研究員、大阪大学基礎工学研究科助手、同講師、同助教授を経て 2007 年現職。同研究科未来ラボシステム Membranomics ラボ長(兼任)。

プロフィール

最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択された研究者の紹介



オイル中の有害物質を効率的に完全除去・回収できる革新的植物性吸着剤の開発
工学研究科 准教授・木田敏之

過去に多用されたものの、毒性が明らかになって製造や利用が禁じられた化学物質のひとつに、PCBがある。毒性除去処理が難しく、国内で50万トンとも言われる量が、処理技術の確立を待って保管されている。本研究の代表者である木田敏之は、オイル中に混入したPCBを効果的に除去できる植物性吸着剤の開発に世界で初めて成功した。本研究は、この革新的技術をもとに、これまで不可能とされてきた汚染オイル中からの有害物質の完全除去・回収を実現できる吸着剤の設計と開発を目標としている。



デンプン由来の環状オリゴ糖 シクロデキストリン[®]に着目し、汚染オイル中に混入した有害物質を効率的に除去・回収できるシクロデキストリン吸着剤を開発する。

きだ・としゆき

プロフィール

略歴：大阪大学工学研究科博士前期課程修了。博士（工学）。大阪大学工学研究科助手、同講師、同助教授を経て2007年より現職。



全元素の超伝導化
極限量子科学研究センター 教授・清水克哉

超伝導は低温で物質の電気抵抗がゼロになる究極の物理現象で、新たな超伝導体の発見は学術・産業の双方に大きなインパクトを与えてきた。しかし、どのような物質が超伝導になるのか、室温で実用できる超伝導体が存在するのかが、今なお明らかでない。本研究の代表者である清水克哉は、高圧力技術によって個々の物質の新たな性質を探求してきた。本研究では、未踏の高圧力状態をつくり出す技術を使って、物質を構成する基本単位である元素を対象に、超伝導の普遍性と可能性を追求する。



元素の超伝導から超伝導の本質に迫る

しみず・かつや

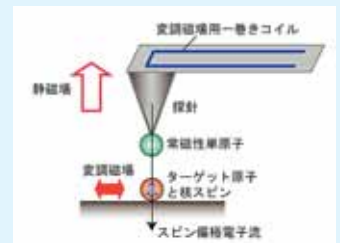
プロフィール

略歴：大阪大学基礎工学研究科物理系専攻博士後期課程修了。博士（理学）。日本学術振興会特別研究員、大阪大学基礎工学部助手、大阪大学基礎工学研究科助手、同講師を経て2006年より現職。



走査型磁気共鳴顕微鏡を用いた単原子の元素同定法の開発
工学研究科 准教授・杉本宜昭

物質表面の単一原子の元素を同定（識別）する手法は、ナノテクノロジーなどで必要とされる重要な技術である。本研究では、原子サイズの分解能を持つ顕微鏡と核磁気共鳴法（NMR）の技術を組み合わせた装置を開発し、核磁気モーメントの検出によって元素を同定する手法の確立をめざす。この手法は、室温環境下や、大気中・液中での元素同定へと応用できると考えられている。元素同定の簡易化はそれ自体が新たな用途を生み、多方面の課題解決につながるブレークスルーになると期待されている。



世の中には約100種類の原子が存在する。その種類（元素）を区別する技術を開拓する。

すぎもと・よしあき

プロフィール

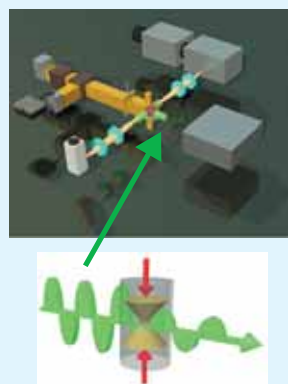
略歴：大阪大学理学研究科物理学専攻博士前期課程ならびに大阪大学工学研究科電子工学専攻博士後期課程修了。博士（工学）。大阪大学工学研究科原子分子イオン制御工学センター特任助手、同研究科フロンティア研究センターグローバル若手研究者フロンティア研究拠点特任講師を経て2011年より現職。

最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択された研究者の紹介



全有機分子サイリスタ・ソレノイドのデザインと実証
工学研究科 教授・関 修平

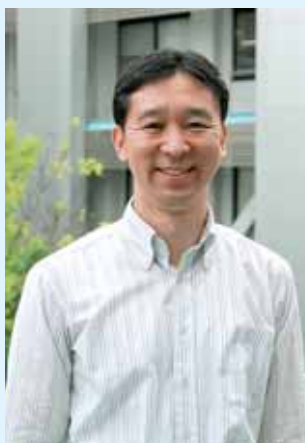
中国が日本向けの輸出を停止したことで注目されたレアメタルとは、リチウムなどの希少金属を総称しており、供給が止まればモーターや充電機などが製造不能になる。本研究は、電気をもっとも流しやすい有機分子（プラスチック）の構造と積み上げ方を明らかにする方法の確立をめざす。この研究成果をもとに開発される有機材料は、多くの電子材料を低コスト・環境負荷の小さな有機材料に置き換えるばかりでなく、レアメタルを全く使わない磁性材料への活路も拓くことが期待されている。



せき・しゅうへい

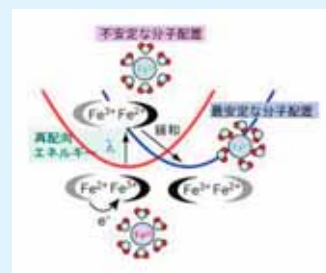
プロフィール

略歴：東京大学工学系研究科システム量子工学専攻修士課程修了。博士（工学）日本学術振興会特別研究員、米国アルゴンヌ国立研究所研究員、大阪大学産業科学研究所助手、オランダデルフト工科大学・文部科学省短期在外派遣研究員、大阪大学産業科学研究所附属産業科学ナノテクノロジーセンター助手、同助教授、同研究所助教授、大阪大学工学研究科准教授を経て2009年より現職。



エネルギー変換場としての界面電気二重層の分子論的描像の解明とその応用展開
基礎工学研究科 教授・福井賢一

エネルギー問題を解決して持続可能な社会を構築するグリーン・イノベーションの推進のために、電気エネルギーを可能な限り損失なく蓄積する技術の重要性が高まっている。電極反応の効率を高めるには、電気二重層の起源である電極と溶液の界面におけるイオンの局所的な分布を知る必要があるが、現在のところ、これを知る有効な方法は存在しない。本研究では、界面の電気二重層の局所的な構造や電子状態を観測する手法の開発をめざす。ここで開発された手法によって分子論的な描像を得て、さらなる応用への展開も目標としている。



溶液中で分子が電子移動反応を起こすときのエネルギー変化の概念図

ふくい・けんいち

プロフィール

略歴：東京大学理学系研究科化学専攻博士課程修了。博士（理学）東京大学理学系研究科助手、同講師、東京工業大学理工学研究科助教授、2006年科学技術振興機構個人研究者（兼務）東京工業大学理工学研究科准教授を経て2008年より現職。2008年東京工業大学理工学研究科連携教授（兼任）。



自己組織化酸化ナノワイヤを用いた極微デバイスによるグリーン・イノベーション
産業科学研究所 准教授・柳田 剛

携帯電話やパソコンなどの身近な電子機器は、トランジスタなどの電子部品で構成されている。これらの部品は小型化が進み、現在ではついに、1部品を1分子サイズに収める段階に至っている。本研究は、こうした究極の小型化において素子の役割を担う「ナノワイヤ」を扱う。構造がひとりでに組みあがる「自己組織化」に基づいた新たな作製手法を導入することにより、均一な大きさ・特性・機能を有するナノワイヤ構造体を実現し、ナノワイヤを用いた低消費電力デバイス群の創出を目的とする。



自己組織化メカニズムに立脚して構造サイズ・物性・機能の統計分散を制御

やなぎだ・たけし

プロフィール

略歴：英国ティーサイド大学博士課程修了。PhD。松下電工（株）中央研究所、英国 ECSC リサーチアソシエイト、日本学術振興会特別研究員 PD、大阪大学産業科学研究所助手、同助教を経て2010年1月より現職。2008年 JST さきがけ研究員。

最先端・次世代研究開発支援プログラムに採択された研究者の紹介



水から水素発生するラン藻モデル細胞創成に必要な光合成レドックス代謝ネットワークの完全理解 / 蛋白質研究所 教授・栗栖源嗣

エネルギー需要の増加にともない、次世代エネルギー源として太陽光の利用が注目されている。光合成生物を利用して太陽光で水素ガスを生産しようとした場合、細胞内の蛋白質を目的に合わせて人工設計する必要が生じる。しかし、生体内では複数の蛋白質が協調して働いているため、細胞の中の化学反応を自在に操れるレベルにまで基本原理の理解が進んでいない。本研究では、ラン藻細胞がもつ蛋白質のうち、光合成レドックス代謝を担う三つの蛋白質に焦点を絞って立体構造を解析し、基本原理の解明を目指す。



ラン藻細胞にある光合成レドックス代謝のモデル

くりす・げんじ

プロフィール

略歴：大阪大学工学研究科博士後期課程修了。博士（工学）。大阪大学蛋白質研究所助手、米国インディアナ州パデュー大学客員研究員、東京大学総合文化研究科助教、同准教授を経て2009年より現職。



プリント技術によるバイオナノファイバーを用いた低環境負荷・低温エレクトロニクス製造技術の開発 / 産業科学研究所 助教・能木雅也

多くの電子機器においてはガラス基板の上に部品が搭載されており、通常こうした機器の製造には熱エネルギーや化学薬品などの消費を伴う。本研究の代表者は、木材から取り出したナノファイバーを漉きあげることで、白く不透明だった紙を透明に変えた。ガラスのように透明でありながら、軽さや折り曲げられる点など、紙の持つ優れた特長を備えている。本研究では、この透明な紙の上に、印刷技術によって電子部品を搭載する技術の確立をめざし、軽くてしなやかな電子デバイスの試作を目標としている。



ナノファイバーでつくった透明な紙

のぎ・まさや

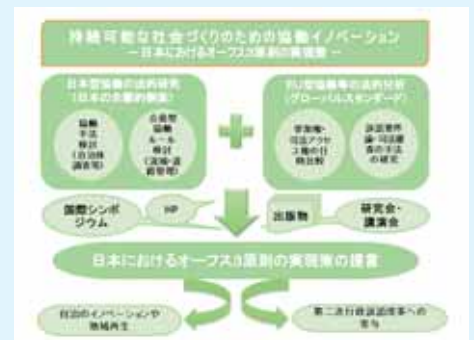
プロフィール

略歴：名古屋大学生命農学研究科博士課程（後期課程）修了。博士（農学）。産業技術総合研究所基礎素材研究部門非常勤研究員、京都大学国際融合創造センター産学官連携研究員、日本学術振興会特別研究員PD（京都大学生存圏研究所）を経て2009年より現職。

持続可能な社会づくりのための協働イノベーション - 日本におけるオース3原則の実現策

法学研究科 教授・大久保規子

あらゆる主体の参加と協働は、持続可能な社会づくりに不可欠であるが、世界各国で「協働疲れ」ともいべき状況が生じている。日本は市民や事業者の自主的取組みが一定の功を奏した数少ない国であり、協働イノベーションの処方箋を国際社会に発信することが期待されている。日本の事例の歴史的意義を踏まえつつ、環境分野の参加・協働条約であるオース条約の基準をも満たすような改革が重要であるという認識に立って、流域管理と交通分野に焦点を当て、日本型の協働モデルを提示する。



おおくぼ・のりこ

プロフィール

略歴：一橋大学法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。群馬大学社会情報学部専任講師、同助教授、甲南大学法学部教授を経て2005年より現職。

平成23年春の褒章・叙勲受章者一覧

褒章

大阪大学大学院工学研究科教授

森田清三

紫綬褒章

叙勲

大阪大学名誉教授（元工学部教授）

幸塚善作

瑞宝中綬章

大阪大学名誉教授（元工学部教授）

榎木亨

瑞宝中綬章

大阪大学名誉教授（元言語文化学部教授）

大高順雄

瑞宝中綬章

大阪外国語大学名誉教授

梅津和郎

瑞宝中綬章

元大阪大学事務局長

糟谷正彦

瑞宝中綬章

元大阪大学施設部整備課電話交換手

吉田伶子

瑞宝単光章

以上

なお、上記は本学より申請した者に限りますので、ご了承願います。

（総務部人事課）

塚原保徳特任准教授、吉野巖招へい准教授 「Global Entrepreneurship Competition」で3位入賞

工学研究科マイクロ波化学共同研究講座の塚原保徳特任准教授と吉野巖招へい准教授（マイクロ波環境化学株式会社代表取締役社長）がスペインのバルセロナで6月16日に開催されたBizBarcelonaのGlobal Entrepreneurship Competitionで3位入賞をしました。

本大会は、創立4年以内の世界のベンチャー企業が、事業性、世の中に与えるインパクト、技術の革新性を競うもので、世界各地から推薦された75社のベンチャー企業のうち、予選で絞られた24社が本戦のバルセロナでトップ3を争いました。

今回の入賞は、マイクロ波化学共同研究講座とマイクロ波環境化学株式会社が共同開発している独自のハイブリッド触媒を用いたマイクロ波化学プロセスが、世の中の化学プロセスを大きく変革させる可能性があるという高い評価を受けたものです。マイクロ波環境化学株式会社は、過去5年間大阪大学と共同研究を行い、2010年からマイクロ波化学共同研究講座を共同開設しています。



写真左：各務茂夫 東京大学教授 産学連携本部 事業化推進部長
写真中：吉野巖 大阪大学大学院工学研究科 招へい准教授
マイクロ波環境化学株式会社
代表取締役社長
写真右：塚原保徳 工学研究科マイクロ波化学共同研究講座
特任准教授

（工学部・工学研究科）

鎌田敏郎教授が「平成22年度日本材料学会論文賞」受賞

工学研究科地球総合工学専攻社会基盤工学講座の鎌田敏郎教授が「平成22年度日本材料学会論文賞」を受賞しました。

受賞対象となった論文は、「弾性波の入力方法がインパクトエコー法によるコンクリート版厚推定に与える影響」(内田慎哉氏、前裕史氏、山本健太氏との共著)で、インパクトエコー法の従来の課題を克服し、実構造物での評価における信頼性の向上を目的として実施した基礎研究の成果をまとめたものです。本論文には、コンクリートの非破壊試

験に関する技術的課題を克服する上での新規性の高い貴重な知見が示されるとともに、実務面で利用価値の高い画期的な提案が含まれており、工学的有用性の観点からも高い評価を受けました。

表彰式は、平成23年5月25日(水)に大阪大学コンベンションセンターで開催された日本材料学会第60期通常総会の席上で行われました。



左が鎌田敏郎教授(右は内田氏)

(工学研究科・工学部)

井上佳久教授「フンボルト賞」受賞

工学研究科応用化学専攻分子創成化学コースの井上佳久教授に、ドイツのAlexander von Humboldt財団からフンボルト賞(Humboldt-Forschungspreis)が授与されました。フンボルト財団は、国際的な研究協力を目的としてドイツ連邦共和国が全額出資して1953年に設置した公益財団で、毎年、人文、社会、自然科学の全分野において、基本的な発見もしくは新しい理論によって後世に残る重要な業績を挙げ、今後も学問の最先端で活躍すると期待される国際的に著名な研究者に対してフンボルト賞を授与し、ドイツおよびヨーロッパでの6~12ヶ月の滞在を義務づけ、関連研究者との共同研究の促進をはかっています。

今回の賞は、井上教授の姫路工業大学ならびに大阪大学での長年にわたる「光による分子キラリティーの創成と制御」に関する研究への卓越した貢献に対して与えられたものです。授賞式は、前日のメルケル首相のレセプションに始まり、当日のウルフ大統領のレセプションのあと、大統領官邸であるベルリンのシャルロッテンブルグ宮殿におい



て6月28日に行われ、世界各国からの受賞者24名とともに財団理事長のHelmut Schwarz博士から賞状が授与されました。

(工学研究科・工学部)

西岡辰哉さん「第3回MWP優秀学生論文賞」受賞

本年3月に大学院基礎工学研究科 博士前期課程 システム創成専攻 電子光科学領域を修了した西岡辰哉さん（現在、株式会社NTTドコモ勤務）が、「第3回MWP優秀学生論文賞」を受賞しました。



この賞は、電子情報通信学会のマイクロ波・ミリ波フォトニクス研究会において最も優れた論文を発表した学生に対して授与されるものです。授賞式は、2011年4月28日に本年度の第1回研究会において、東京・港区の機械振興会館にて行われました。

受賞対象となった研究論文は「InP HEMTを用いたMMICミリ波発振器の光制御」(平成22年1月27日発表)です。この論文は、InP HEMTを用いて構成されたミリ波モノリシック集積回路の光制御とその応用に関する報告で

す。化合物半導体における光・電子相互作用を利用してミリ波発振信号の制御を行うことにより、小型で高性能な光信号-ミリ波信号変換回路を追求して、光・ミリ波融合通信ネットワークへ応用することを検討したものです。これまでの研究成果を元に、発振周波数を安定化させた60GHz帯ミリ波信号の光による制御に挑戦するものであり、今後の発展性が高く評価されました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



す。化合物半導体における光・電子相互作用を利用してミリ波発振信号の制御を行うことにより、小型で高性能な光信号-ミリ波信号変換回路を追求して、光・ミリ波融合通信ネットワークへ応用することを検討したものです。これまでの研究成果を元に、発振周波数を安定化させた60GHz帯ミリ波信号の光による制御に挑戦するものであり、今後の発展性が高く評価されました。

阿部裕名誉教授「第1回腎臓学会上田賞」受賞

6月15日の日本腎臓学会にて、阿部裕名誉教授が、第1回腎臓学会上田賞を受賞されました。腎臓学会上田賞は、東京慈恵会医科大学故上田泰名誉教授の芳志によるもので、腎臓学会の発展に多大な貢献をされた先生に送られるものです。阿部裕先生は、昭和20年大阪帝国大学医学部を卒業された後、昭和40年から大阪大学医学部教授（第一内科）として指導に当たられるとともに、昭和48年3月から2年間大阪大学医学部附属病院院長も兼務されています。昭和33年日本腎臓学会創立時のメンバーで、昭和35年第3回大阪大学における学術総会（故吉田常雄名誉教授会頭）の事務局長をされるとともに、腎臓学会西部事務局を旧第一内科（現老年・腎臓内科学教室）に置き、運営に努力し、門下より腎臓内科関連の教授を多数育成されました。昭和42年～63年まで26年間にわたり腎臓学会の理事を務められるとともに、昭和60年～63年までは腎臓学会理事長をされ、その間に第18回腎臓学会学術総会 会長、第11回国際腎臓病学会 副会長をされています。日本腎臓学会の



発展、後進の指導、コメディカル教育、患者啓蒙の社会貢献が評価され、第1回腎臓学会上田賞の受賞に浴されました。

(医学系研究科・医学部)

長谷川晃名誉教授と三間囿興名誉教授がアルフベン賞を受賞

6月27日(月)第38回ヨーロッパ物理学会プラズマ物理部会において、本学の長谷川晃名誉教授、三間囿興名誉教授(光産業創成大学院大学特任教授)がアルフベン賞(Hannes Alfvén Prize)を受賞しました。アルフベン賞はプラズマ物理のノーベル賞受賞者 Hannes Alfvén を記念して2000年に創設されたもので、プラズマ物理学に顕著な貢献をした研究者に毎年贈られるものです。



Carlos Hidalgo, EPS 会長より三間教授へメダルを授与

今回の受賞は、「層状流の自己組織化とシア流による揺らぎのコヒーレンスの破壊に関する理論とシミュレーションの基盤を確立し、近代プラズマ乱流理論の構築に貢献」に対し、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校の P. Diamond 教授と共に3名が受賞しました。創設以来12回目で、我が国に取って最初の受賞となりました。



長谷川名誉教授授賞スピーチ

(工学研究科・工学部、レーザーエネルギー学研究センター)

木下真一君「日本コンクリート工学会第33回コンクリート工学年次論文奨励賞」受賞

工学研究科地球総合工学専攻社会基盤工学コース博士前期課程2年の木下真一君が、平成23年7月12日～14日に大阪国際会議場で開催された日本コンクリート工学会コンクリート工学年次大会2011(大阪)において、年次論文奨励賞を受賞しました。



受賞対象となった論文タイトルは、「飛沫帯にあるRC部材の曲げ耐力に関する劣化予測手法」です。この研究では、塩害によるRC部材の劣化進行過程を、確率過程を含む数値モデルとして構築し、RC部材が設置されている塩害環境条件および部材設計諸元からモンテカルロシミュレーション解析により、部材の力学的性能を予測する画期的な手法を提案しました。さらに、飛沫帯で供用されていたRC部材に本手法を適用し、実構造物への有効性も明らかにしました。コンクリート構造物の戦略的かつ合理的な維持管理の



実現に資する強力なツールとなり得る点が、特に高く評価されました。なお、本研究は、文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B)「NDTと統計的手法の融合によるコンクリート部材の性能評価と劣化予測の高精度定量化」(研究代表者：鎌田敏郎教授、平成21年度～平成23年度)のもとで推進されました。

(工学研究科・工学部)

大阪大学功績賞表彰

大阪大学功績賞は、教育、研究、社会・国際貢献及び管理運営上の功績が特に顕著であると認められた本学教員を顕彰し、大学における教育、研究、社会・国際貢献及び管理運営の一層の発展を期することを目的として実施するものです。

今年度は、67名に功績賞を授与し、功績が極めて顕著である者に授与する「特別賞」を、岸本忠三寄附講座教授

に授与しました。表彰式は去る8月1日(月)にコンベンションセンターにおいて執り行われ、鷲田総長から出席者全員に賞状が授与された後、祝辞が述べられ、続いて、受賞者を代表して情報科学研究科の肥後芳樹助教が謝辞を述べ、閉式しました。

(関連記事は29ページをご覧ください。)

大阪大学功績賞受賞者一覧

功績賞特別賞			
所 属	職 名	氏 名	功 績 名
生命機能研究科	寄附講座教授	岸 本 忠 三	インターロイキン6の発見

功績賞(教育部門)					
所 属	職 名	氏 名	所 属	職 名	氏 名
工学研究科	准教授	中 野 元 博	基礎工学研究科	教 授	大 垣 一 成
情報科学研究科	教 授	藤 原 融	大学教育実践センター	准教授	服 部 憲 児
功績賞(研究部門)					
文学研究科	教 授	小 林 茂	人間科学研究科	教 授	河 森 正 人
人間科学研究科	准教授	吉 川 徹	理学研究科	講 師	石 水 毅
理学研究科	教 授	大 鹿 健 一	理学研究科	准教授	川 口 周
理学研究科	助 教	北 河 康 隆	理学研究科	教 授	原 田 明
理学研究科	准教授	森 田 靖	医学系研究科	教 授	熊ノ郷 淳
医学系研究科	教 授	森 正 樹	歯学研究科	助 教	江 草 宏
歯学研究科	教 授	恵比須 繁之	歯学研究科	教 授	阪 井 丘 芳
歯学部附属病院	講 師	池 邊 一 典	薬学研究科	准教授	近 藤 昌 夫
薬学研究科	教 授	堤 康 央	薬学研究科	教 授	水 口 裕 之
工学研究科	准教授	井 藤 幹 夫	工学研究科	教 授	菊 地 和 也
工学研究科	教 授	林 高 史	工学研究科	教 授	廣 瀬 明 夫
工学研究科	教 授	藤 原 康 文	工学研究科	助 教	松 崎 典 弥
工学研究科	教 授	南 二 三 吉	工学研究科	准教授	森 浩 亮
工学研究科	教 授	森 田 清 三	工学研究科	教 授	渡 部 平 司
基礎工学研究科	教 授	新 井 健 生	基礎工学研究科	教 授	木 村 剛
基礎工学研究科	助 教	新 宅 博 文	基礎工学研究科	教 授	杉 本 信 正
基礎工学研究科	教 授	長 井 英 生	基礎工学研究科	教 授	真 島 和 志
基礎工学研究科	准教授	椋 田 秀 和	情報科学研究科	教 授	東 野 輝 夫
情報科学研究科	助 教	肥 後 芳 樹	情報科学研究科	教 授	四 方 哲 也
産業科学研究所	教 授	朝 日 一	産業科学研究所	准教授	谷 口 正 輝
産業科学研究所	准教授	西 野 邦 彦	産業科学研究所	助 教	能 木 雅 也
蛋白質研究所	教 授	相 本 三 郎	接合科学研究所	教 授	近 藤 勝 義
接合科学研究所	教 授	藤 井 英 俊	超高压電子顕微鏡センター	准教授	荒 河 一 渡
世界言語研究センター	准教授	高 橋 美 恵 子	世界言語研究センター	准教授	古 谷 大 輔
功績賞(社会・国際貢献部門)					
ウェブデザインユニット	准教授	伊 藤 雄 一	文学研究科	教 授	湯 淺 邦 弘
法学研究科	教 授	大久保 規 子	理学研究科	教 授	荻 原 哲
基礎工学研究科	講 師	熊 谷 悦 生	言語文化研究科	教 授	成 田 一
生命機能研究科	教 授	藤 田 一 郎			
功績賞(管理運営部門)					
安全衛生管理部	教 授	山 本 仁	法学研究科	元教授	植 松 利 夫
医学部附属病院	教 授	朝 野 和 典	工学研究科	教 授	原 島 俊
高等司法研究科	教 授	青 江 秀 史	産業科学研究所	教 授	菅 沼 克 昭
大学教育実践センター	教 授	山 成 数 明			

受賞者の並びは部局別、五十音順

新部局長紹介

東 島 清 (ひがしじま きよし)

附属図書館長



【略歴】

理事・副学長からの挨拶(6ページ)を参照

平23.8 大阪大学附属図書館長

二 神 孝 一 (ふたがみ こういち)

大学院経済学研究科長・経済学部長



【略歴】

昭57.3 京都大学理学部卒業

59.3 神戸大学大学院経済学研究科博士前期課程修了

62.3 神戸大学大学院経済学研究科博士後期課程単位修得退学

62.4 松山商科大学経済学部講師

平元.4 松山大学(旧松山商科大学)経済学部助教授

3.4 立命館大学経済学部助教授

9.4 大阪大学助教授経済学部

10.4 大阪大学助教授大学院経済学研究科

12.6 大阪大学教授大学院経済学研究科

18.8 大阪大学研究推進室員(平20.3まで)

23.8 大阪大学大学院経済学研究科長・経済学部長

(平25.8まで)

篠 原 厚 (しのはら あつし)

大学院理学研究科長・理学部長



【略歴】

昭53.3 大阪大学理学部化学科卒業

55.3 大阪大学大学院理学研究科博士課程前期修了

60.3 大阪大学大学院理学研究科博士課程後期修了

60.3 理学博士(大阪大学)

60.10 日本学術振興会奨励研究員(昭62.3まで)

62.6 名古屋大学助手理学部

平 8.4 名古屋大学助手大学院理学研究科

10.4 京都大学助教授原子炉実験所

11.10 大阪大学教授大学院理学研究科

22.4 国立大学法人大阪大学教育研究評議員

23.8 大阪大学大学院理学研究科長・理学部長(平25.8まで)

新部長紹介

掛下知行 (かけした ともゆき)

大学院工学研究科長・工学部長



【略歴】

- 昭51. 3 北海道大学理学部物理学卒業
- 53. 3 北海道大学大学院理学研究科物理学専攻修士課程修了
- 54. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系博士後期課程退学
- 54. 4 大阪大学産業科学研究所技官
- 58. 4 大阪大学助手産業科学研究所
- 62.12 理学博士(大阪大学)
- 平 5. 7 大阪大学助教授工学部
- 7.10 核融合科学研究所助教授大型ヘリカル研究部装置技術研究系併任(平9.3まで)
- 10. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 12. 4 大阪大学教授大学院工学研究科
- 13. 4 大阪大学工学部材料物性工学部長(平14.3まで)
- 20. 4 大阪大学大学院工学研究科附属構造・機能先進材料デザイン教育研究センター長(平24.3まで)
- 22. 4 大阪大学教育研究評議員(平23.8まで)
- 23. 4 大阪大学低温センター長(平25.3まで)
- 23. 4 大阪大学大学院工学研究科附属高度人材育成センター長(平25.3まで)
- 23. 8 大阪大学大学院工学研究科長・工学部長(平25.8まで)

岡村康行 (おかむら やすゆき)

大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長



【略歴】

- 昭48. 3 大阪大学基礎工学部電気工学科卒業
- 50. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科修士課程物理系専攻修了
- 53. 3 同上博士後期課程物理系専攻修了
- 53. 3 工学博士(大阪大学)
- 53. 4 国際電信電話株式会社研究所
- 56. 7 大阪大学助手基礎工学部
- 62.10 大阪大学助教授基礎工学部
- 平 8. 4 和歌山大学教授システム工学部
- 13. 4 和歌山大学評議員(平15.3まで)
- 15. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 19. 8 国立大学法人大阪大学教育研究評議員
- 23. 8 大阪大学大学院基礎工学研究科長・基礎工学部長(平25.8まで)

井上克郎 (いのうえ かつろう)

情報科学研究科長



【略歴】

- 昭54. 3 大阪大学基礎工学部情報工学科卒業
- 56. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻前期課程修了
- 59. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻後期課程修了
- 59. 3 工学博士(大阪大学)
- 59. 4 大阪大学助手基礎工学部
- 平元. 5 大阪大学講師基礎工学部
- 3.11 大阪大学助教授基礎工学部
- 7.12 大阪大学教授基礎工学部
- 9. 4 大阪大学教授大学院基礎工学研究科
- 14. 4 大阪大学教授大学院情報科学研究科
- 18. 4 大阪大学総合計画室員(平24.3まで)
- 19. 8 大阪大学教育研究評議員(平24.3まで)
- 23. 8 大阪大学大学院情報科学研究科長(平25.8まで)

新部局長紹介

南 田 みどり (みなみだ みどり)

世界言語研究センター長



【略歴】

- 昭45. 3 大阪外国語大学外国語学部ビルマ語学科卒業
- 51. 3 大阪外国語大学大学院外国語学研究科修士課程
(南アジア語学専攻) 修了
- 53. 4 大阪外国語大学講師外国語学部
- 58. 4 大阪外国語大学大学院外国語学研究科担当
- 58.10 大阪外国語大学助教授外国語学部
- 平 6. 1 大阪外国語大学教授外国語学部
- 9. 4 大阪外国語大学大学院言語社会研究科担当
- 15. 3 大阪外国語大学副学長併任(平19.9まで)
- 19.10 大阪大学教授世界言語研究センター、外国語学部副学
部長
- 23. 8 大阪大学世界言語研究センター長(平25.3まで)

中 野 博 隆 (なかの ひろたか)

サイバーメディアセンター長



【略歴】

- 昭47. 4 東京大学工学部電気工学科卒業
- 49. 3 東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
- 52. 3 東京大学大学院工学系研究科博士課程修了
- 52. 3 工学博士(東京大学)
- 52. 4 日本電信電話公社武蔵野電気通信研究所研究員
- 60. 4 日本電信電話株式会社横須賀電気通信研究所研究専門
調査役
- 62. 4 日本電信電話株式会社画像・通信事業部システム開発
部総括担当部長
- 平元. 2 日本電信電話株式会社情報通信処理研究所主幹研究員
- 元.10 日本電信電話株式会社情報通信処理研究所研究グループリーダー
- 7. 7 日本電信電話株式会社応用システム研究部研究部長
- 11. 1 NTT移動通信網株式会社(現NTTドコモ)マルチメディア研究所所長
- 16. 4 大阪大学教授サイバーメディアセンター
- 19. 8 大阪大学サイバーメディアセンター副センター長(平23.8まで)
- 23. 8 大阪大学サイバーメディアセンター長(平25.3まで)

橋 爪 節 也 (はしづめ せつや)

総合学術博物館長



【略歴】

- 昭57. 3 東京芸術大学美術学部芸術学科卒業
- 59. 3 東京芸術大学大学院美術研究科日本・東洋美術史専攻
修士課程修了
- 59. 4 東京芸術大学美術学部芸術学科非常勤講師
- 60. 4 東京芸術大学助手美術学部
- 平 2. 4 大阪市教育委員会事務局社会教育部文化財保護課学芸員
- 10. 4 同上主任学芸員
- 14. 4 同上生涯学習部文化財保護課主任学芸員
- 19. 4 大阪市ゆとりとみどり振興局文化部主任学芸員
- 20. 4 大阪大学教授総合学術博物館
- 23. 8 大阪大学総合学術博物館長(平25.8まで)

新施設長紹介

岡本 登 (おかもと のぼる)

大学院法学研究科附属法政実務連携センター長



【略歴】

- 平元. 3 東京大学経済学部卒業
- 元. 4 大蔵省入省(関税局国際第一課)
- 2. 7 大蔵省国際機関課
- 3. 4 大蔵省大臣官房調査企画課(財政金融研究所研究部併任)(平3.7~平3.12、広島国税局調査査察部統括国税調査官(調査第一部門担当)(付国税調査官併任))
- 4. 7 大蔵省銀行局特別金融課特別銀行係長
- 6. 7 広島国税局米沢税務署長
- 7. 7 大蔵省大臣官房付(平7.9~平8.1 外務省研修所において研修)
- (平8.2~平8.5 大蔵省大臣官房文書課)
- 8. 5 外務省在ベルリン日本国総領事館副領事
- 8. 7 外務省在ベルリン日本国総領事館領事
- 11. 7 大蔵省大臣官房調査企画課課長補佐
- 12. 4 大蔵省大臣官房総合政策課課長補佐
- 13. 7 財務省主税局調査課課長補佐
- 14. 7 財務省主税局税制第一課課長補佐
- 15.10 内閣官房行政改革推進事務局行政委託型公益法人等改革推進室企画官
- 17. 7 財務省大臣官房政策金融課課長補佐
- 18. 7 財務省大臣官房企画官(平18.7~平19.7 内閣官房行政改革推進室室員併任)(平19.7~平20.7 財務省大臣官房地方課)
- 20. 7 東京国税局調査第一部長
- 22. 7 財務省主税局総務課主税企画官(兼主税局税制第一課、税制第三課)
- 23. 7 財務省大臣官房企画官(兼大臣官房信用機構課)
- 23. 8 大阪大学教授大学院法学研究科
- 大阪大学大学院法学研究科附属法政実務連携センター長(平24.3まで)

新教授紹介

古澤 孝弘 (こざわ たかひろ)

産業科学研究所



【略歴】

- 平 2. 3 東京大学工学部原子力工学科卒業
- 4. 3 東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻修士課程修了
- 5. 3 東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻博士課程中退
- 5. 4 東京大学助手工学部
- 8. 6 大阪大学助手産業科学研究所
- 15. 4 大阪大学助教授産業科学研究所
- 19. 4 大阪大学准教授産業科学研究所
- 23. 6 大阪大学教授産業科学研究所

所 属：産業科学研究所量子ビーム物質科学研究分野
 専門分野：応用ビーム工学

若宮 直紀 (わかみや なおき)

大学院情報科学研究科



【略歴】

- 平 6. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻修士課程修了
- 8. 3 大阪大学大学院基礎工学研究科物理系専攻博士後期課程修了
- 8. 4 大阪大学助手基礎工学部
- 9. 4 大阪大学助手情報処理教育センター
- 11. 4 大阪大学講師大学院基礎工学研究科
- 14. 4 大阪大学助教授大学院情報科学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院情報科学研究科
- 23. 7 大阪大学教授大学院情報科学研究科

所 属：大学院情報科学研究科バイオ情報工学
 専攻バイオシステム解析学講座
 専門分野：バイオ情報通信工学

新教授紹介

北 澤 茂 (きたざわ しげる)

大学院生命機能研究科



【略歴】

- 昭62. 3 東京大学医学部医学科卒業
- 平 3. 3 東京大学大学院医学系研究科第一基礎医学専攻修了
- 3. 4 日本学術振興会特別研究員
- 5. 1 東京大学助手医学部脳研究施設
- 6. 4 工業技術院電子技術総合研究所情報科学部研究員
- 7. 4 工業技術院電子技術総合研究所情報科学部主任研究官
- 13. 4 産業技術総合研究所脳神経情報研究部門主任研究員
- 15. 4 順天堂大学医学部生理学第一講座主任教授
- 23. 7 大阪大学教授大学院生命機能研究科

所 属：大学院生命機能研究科生命機能専攻
脳神経工学講座
専門分野：神経生理学

岡 本 登 (おかもと のぼる)

大学院法学研究科

【略歴】

- 新施設長紹介(71ページ)を参照
- 平23. 8 大阪大学教授大学院法学研究科

所 属：大学院法学研究科
専門分野：立法論・税法

訃報

宮田敬一教授(人間科学研究科)逝去



本学教授宮田敬一先生は、平成23年2月10日に右上葉肺癌のためご逝去されました。享年は60歳でした。

先生は、昭和50年に九州大学大学院教育学研究科修士課程を修了し、昭和52年6月に同大学大学院教育学研究科博士課程を退学後、直ちに新潟大学教育学部助手に採用され、同大学講師、同大学助教授を経て、平成7年同大学

教授に昇任し、平成17年4月に大阪大学大学院人間科学研究科教授として着任されました。

宮田先生は、ブリーフサイコセラピーの日本への導入と発展に尽力され、心理療法の短期化や効率化に貢献されてきました。特にミルトン・エリクソンの理論と技法を日本に紹介したことは、日本の心理臨床に新しい息吹を与えることとなりました。

学外の活動としては、日本ブリーフサイコセラピー学会会長、日本催眠医学心理学会理事長、日本心理臨床学会理事、日本リハビリテーション心理学会理事などを務められ学会の発展に尽力されました。それらの貢献により「日本ブリーフサイコセラピー学会賞」「日本リハビリテーション心理学会賞」を受賞されています。

学内においては附属心理教育相談室副室長として、大学院生学生の臨床心理実践と研究の指導に貢献されました。ここに謹んで宮田敬一先生のご冥福をお祈り申し上げるとともに、哀悼の意を表します。

(人間科学研究科・人間科学部)

中馬一郎名誉教授(医学部)逝去



大阪大学医学部第一生理の名誉教授中馬一郎先生は去る平成23年3月4日肺炎にて逝去されました。満86才寸前でした。中馬先生は大正14年生れで、戦中に旧制尼崎中学・松山高校を飛び級と短縮で終えられ、阪大医学部を昭和22年10月に22才半で卒業されました。引き続き医師実地修練の後、学生時代から教室研究生として出入りされていた久保秀雄先生の第一生理に大学院第一期特別研究生として入られました。昭和25年奈良県立医専助教授・同27年奈良医科大学生理学助教授、続いて昭和35年奈良医大に新設の第二生理学講座教授に昇任されました、時に35才でした。昭和41年に大阪大学医学部第一生理学講座教授として戻られ、生理学の教育・研究だけでなく、学外では日本生理学会や環境学会の諸業務を引き受けられ、学内では医学部長を勤められました。なお昭和63年停年退官の後にも藍野学園短期大学学長、次いで福田学園リハビリテーション専門学校校長として医療人養成に関係されました。中馬先生のご業績はおよそ三つの範疇に分けられます。

第一に研究・教育面、第二に学問領域を越えた協同作業、第三に教育機関の管理運営、それぞれに優れた能力を發揮されました。第一に研究業績です。先生は学生時代から第一生理の久保教授のもとで研究を開始され、ヘモグロビン研究が一生のテーマでした。特に昭和40年アメリカ・コロムビア大学留学中にご自分でおやりになったご研究、これはヘモグロビンを壊さないでと鎖に分離したお仕事で今なお高く評価されています。これに引き続き、阪大では教室員を率いてこの蛋白質が一個だけで働く時と四つ纏まって働く時との違いとそのメカニズムの探求という方向で研究を進められました。第二の業績としては環境科学研究があります。環境科学は医学だけでなく学際的な協同作業が必要です。中馬先生は日本の環境科学会の立ち上げに参画され、さらにその能力を見込まれて平成5年には社団法人・環境科学会の初代会長を務められました。第三の重要な仕事は大学の管理運営でした。昭和42年以降、阪大医学部でも多少の紛争がありましたが、山村学部長の時に中馬先生は教授会の中の「八人委員会」の委員長に指名され、医学部内の世代間抗争に直面されました。山村方針は「麻疹の流行だから、今の事は今、後の事は後で」でした。(さらに私たち教連は「犠牲者を出さない」ように間に入りました)。さて、昭和48年から二年間の中馬医学部長時代の重要なことは、全国に先駆けて学士入学を制度化した事でした。これには環境科学研究を通じて医学部にも幅広く人材を取り込む必要性、および学生増募に当って教養部の負荷最少という点が考慮されました。学士入学学生の内から阪大医学部教授となった方々がすでに何人かあります。

中馬先生はこのように長年に亘って研究・教育ならびに管理・運営にその能力を十全に發揮されました。

長い間のご指導・ご鞭撻に心から感謝し、謹んで哀悼の意を表します。

志賀 健(昭和32)
(医学系研究科・医学部)

宮本健作名誉教授(人間科学研究科)逝去



本学名誉教授、宮本健作先生は、平成23年3月7日肺炎のため逝去されました。享年79歳でした。

先生は、昭和6年大阪市に生まれ、昭和33年関西学院大学文学部心理学科を卒業し、昭和35年同大学院文学研究科心理学専攻修士課程を修了されました。その後、大阪大学医学部副手、同助手、同講師、獨協医科大学助教授、同大学教授を経て、昭和51年3月大阪大学人間科学部助教授に着任、昭和53年2月同教授に昇任されました。平成7年に定年にて退職され、名誉教授の称号を授与されました。

先生の研究活動は、大阪大学医学部在籍中の、条件反射

性行動発現時の神経メカニズムを解明するための脳液的研究に始まり、人間科学部着任後は、鳥類の聴覚発声系の実験的研究へと発展して行きました。先生はその成果を踏まえて、ヒトのこばを巧みにまねて性差、年齢、方言を表現する九官鳥の発声器官の機構にヒントを得て、従来型の人工喉頭とはまったく異なる新型の「人工発声器」を開発されました。喉頭がんのため喉頭を全摘出した患者(喉摘者)を対象に行った発声テストでは、この新型人工発声器には、喉摘者が著しく明瞭な話し言葉を取り戻して話す喜びを回復するという効果のあることが実証され、広く実用化されようになりました。

このように先生は、心理学的・大脳生理学的・音声分析的手法を基礎に、幅広い視点から学際的領域における独自の的方法論を展開され、学部学生ならびに大学院学生の指導育成にも弛まぬ熱意を傾注されました。絶えず新たな学問領域を切り拓くバイオニア的研究に邁進され、とくに喉摘者のリハビリテーションに多大の貢献をなさいました。

大阪大学退官後は、九州看護福祉大学、姫路獨協大学で教鞭をとられるかたわら、発達初期における母子相互作用の重要性について、さまざまな社会的啓発活動にも尽力されました。

宮本健作先生の在りし日のお姿を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。

(人間科学研究科・人間科学部)

原富之名誉教授(理学部)逝去



本学名誉教授原富之先生は、平成23年6月15日、享年86歳でご逝去されました。

先生は昭和23年3月京都大学理学部動物学科をご卒業になられ、昭和25年3月大阪大学理学部に文部教官として採用され、昭和27年12月同講師、昭和33年4月奈良県立医科大学助教授、昭和33年11月同教授を経て、昭和49年4月大阪大学理学部教授となられ、昭和63年3月停年と同時に、大阪大学名誉教授の称号を授与されました。また、退官後は、平成元年4月から平成7年3月まで近畿大学教養部教授として生物学を講義され、平成6年4月には奈良県立医科大学からも名誉教授の称号を授与されました。

先生は、昭和25年に、いち早く網膜への³²Pの取り込み実験を試みられ、動物学分野への放射性同位元素の導入という先導的な役割を果たされました。国立大学で初めて大阪大学に放射線生物学が開講されたのもこのようなご功績によるものです。先生のご研究として世界の研究者から注

目を浴びた研究は、レチノクロームの発見です。レチノクロームはスルメイカで発見され、11-シスレチナールを生成する働きがある蛋白質です。網膜に存在して光検出を担う視物質は11-シスレチナールを含み、その11-シスレチナールは光検出のために消費されてしまうので新たに供給する必要があります。先生は、レチノクロームには視物質に11-シスレチナールを供給する働きがあると考えられました。11-シスレチナールは不安定であるのでどのように供給されるかは当時不明だったのですが、この発見により、供給メカニズムの一つが明らかになりました。先生のお考えをさらに確実にしたのは、これらレチノイドを運搬する働きのあるレチノイド結合蛋白質を発見されたことです。この結果、レチノクロームと視物質との関連性が確立されました。先生はこれらのご研究を黎子夫人と共に進めてこられ、ご夫妻のお名前は世界中のこの分野の研究者の広く知るところとなっています。

先生はこれらのご業績に加え、我が国の光生物学研究や若手の育成、研究者層の広がりにも心を砕かれ、特定研究「光生理学の初期過程」の組織や国際学会の開催に尽力されました。

これらのご業績に対して、昭和42年に松永賞、昭和49年に日本動物学会賞が授与され、平成6年4月には紫綬褒章、平成11年に勲三等旭日中綬賞が授与されました。

先生の長年のご功績を偲び、ならびに、多くの研究者を温かい目で育成頂いたことを感謝し、ご冥福をお祈り致します。

(理学研究科・理学部)

土岐哲名誉教授(文学研究科)逝去



本学名誉教授土岐哲先生は、病氣療養中のところ、平成23年6月23日(木)逝去されました。享年65歳でした。

先生は、昭和21年3月3日に青森県に生まれ、昭和45年3月早稲田大学第二文学部日本文学科を卒業されました。財団法人国際学友会専任講師、アメリカ・カナダ11大学

連合日本研究センター専任講師、プリンストン大学客員講師、東海大学講師、同大学助教授、名古屋大学総合言語センター助教授を経て、平成2年4月大阪大学文学部助教授に転任されました。平成8年3月教授に昇任、平成21年3月に定年退職し、大阪大学名誉教授の称号を授与されました。引き続き同年4月より、京都外国語大学教授に就任し、平成22年4月からは日本語学科長を務めておられました。

先生は長年にわたって日本語教育学および音声学に関する教育と研究に従事し、その発展に貢献されました。特に、自然談話の音声的特徴を超分節的側面に着目して分析する研究では、従来の日本語音声学の定説を覆し、その後の日本語教育における音声指導にも大きな影響を与えられました。また、日本語教育学会常任理事、日本音声学会理事、言語文化教育学会理事、日本學術振興会専門委員などを多数お務めになり、学協会の発展に努められました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(文学研究科・文学部)

石谷清幹名誉教授(工学部)逝去



本学名誉教授石谷清幹先生は、去る平成23年5月26日、病氣療養中のところ腎不全のため逝去されました。享年93歳でした。

先生は、昭和15年3月東京帝国大学工学部機械工学科を卒業し、同年4月川崎重工業株式会社に入社、昭和22年9月同社退職後、直ちに大阪帝国大学工学部講師に採用され、昭和23年1月大阪大学工学部助教授を経て、昭和37年8月同教授に就任され、機械工学科機械工学第5講座(蒸気工学)を主宰されました。先生は、ボイラーに関しては早くから分析的な熱工学的研究と総合的な技術論的研究を並行して行い、両領域とも注目すべき業績を数多くあげられました。熱工学的研究の中でも沸騰を伴う流動と伝

熱の研究は、この方面の戦後における国際的高揚の最前線に位置するもので、国内外において高く評価され、当該領域で指導的役割を果たされました。また、学内においては、学生生活委員会委員、学生相談室運営委員会委員、教養部教科課程委員会委員、評議員等を歴任され、産業機械工学科の新設、工学部の移転など、大阪大学の発展にご尽力されました。

学外においては、昭和42年3月資源調査会専門委員、昭和48年7月文部省大学設置審議会専門委員および昭和49年2月学術審議会専門委員(科学研究費分科会)などを歴任され、特に、日本学術会議においては、第10期以来、3期にわたって会員に任ぜられ、我が国の科学技術の水準向上に貢献されております。

昭和56年4月定年退官された後も、特に安全問題に力を傾注され、安全確保には第三者検査が非常に有効であるとの立場から、第三者認証機構として(財)品質管理システム審査登録認定協会を発足させ、当該分野の発展に大いに寄与されました。これら安全問題や技術史など、熱工学を中心とする広い学術領域におけるご功績に対し、平成3年、勲三等旭日中綬章を授与されております。

長年にわたり広い視野と高邁な見識で学生の教育、研究ならびに後進の指導育成にご尽力された石谷清幹先生のお姿を偲び、ここに謹んで哀悼の意を表します。

(ご案内)

石谷先生のご功績を偲び、石谷清幹先生メモリアルシンポジウムおよびメモリアルパーティーを下記のとおり開催します。参加いただいた方には講演論文集「水と炎の日々(第3集)~石谷清幹メモリアルシンポジウム論文集」を配布いたします。

日 時：平成23年12月4日(日)13時~19時

場 所：神戸大学海事科学部コンファレンスホール(神戸市東灘区深江南町5-1-1)

申し込み・問い合わせ先：石谷清幹先生メモリアルシンポジウム実行委員会幹事 小澤 守 ozawa@kansai-u.ac.jp

または同委員会委員 長谷川和彦 hase@naoe.eng.osaka-u.ac.jp

Tel : (06) 6879 - 7588 Fax : (06) 6879 - 7594 まで

(工学研究科・工学部)

附属図書館の開館時間の延長について

豊中キャンパスの総合図書館において、昨年12月1日から授業期間中の平日について8時40分開館を試行していましたが、試験期には9時までの20分間に入館者が100名を超えることも多く、4月より開館時間を1時間繰り上げ、正式に8時開館を実施しています。参考調査と相互利用以外の全ての窓口サービスを8時から開始しています。

箕面キャンパスの外国学図書館では、これまで休館していた休業期間中の土・日曜日について、4月より10時から17時までの開館を実施しています。また、吹田キャンパスの生命科学図書館では今年度から2月の祝日開館を行います。

平成23年4月からの附属図書館各館の利用時間は下記のとおりです。皆さまからのご要望にお応えし開館時間を延長しましたので、是非ご活用ください。

区 分	月曜日～金曜日		土曜日・日曜日		祝日	
	授業期	休業期	授業期	休業期	授業期	休業期
総合図書館	8時～22時	9時～19時	10時～19時	10時～17時	10時～17時	休館
生命科学図書館	9時～21時	9時～21時	10時～17時		(ただし、2月のみ 10時～17時)	
理工学図書館	9時～22時	9時～17時	10時～19時		10時～17時	
外国学図書館	9時～21時		10時～17時		休館	

(附属図書館)

豊中キャンパスに保育施設を設置

大阪大学では、男女共同参画社会の形成への取り組みの一環として、研究や仕事と子育て、学業と子育ての両立を支援することを目的に、平成20年4月から、吹田キャンパス内に学内保育施設として『まきば保育園』と『たけのこ保育園』を設置しました。

この取り組み活動をさらに充実させるため、豊中キャンパス内においても、保育施設を設置すべく保育施設運営委員会において検討してきましたが、このたび、同保育施設の名称・概要等が以下のとおり決定しましたので、お知らせします。

今後、来年6月末の建物竣工を目指して実施設計作業等を行い、順調に計画が進めば来年秋頃に開園する予定です。

なお、豊中地区保育施設『まちかね保育園』の入園児募集の案内については、あらためて、詳細が決まり次第保育園HP等でお知らせします。

名 称：『まちかね保育園』

定員規模：0～5歳児 各年齢につき10名 計60名

建設場所：国際交流会館西側（現在のテニスコート及び隣接する空き地）

建物概要：木造平屋建て 延べ面積634㎡

(総務企画部企画推進課)

第27回湯川記念講演会

日 時：2011年10月9日(日) 13:00 - 17:00
 場 所：大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール
 大阪市北区中之島 4-3-53、中之島センター HP: <http://www.onc.osaka-u.ac.jp/others/map/index.php>
 対 象：高校生以上の学生及び一般の方々
 定 員：先着 190名
 受 講 料：無料
 主 催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室
 共 催：日本物理学会大阪支部
 後 援：日本物理教育学会近畿支部



高校生、一般の方を対象に、最前線の物理を紹介します。
 13:00 - 14:30 「巨大加速器 LHC で見る素粒子の世界」
 小林富雄 (東京大学素粒子物理国際研究センター教授)
 15:00 - 16:30 「『はやぶさ』の見たもの、採ってきたもの」
 土山 明 (大阪大学大学院理学研究科教授)

申込方法：郵送、E-mail または FAX で、氏名(ふりがな) 住所、郵便番号、電話番号、年齢、性別、職業をご連絡下さい。
 (ご連絡いただいた個人情報は、他に利用するものではありません。)
 電話によるお申し込みは不可とさせていただきます。定員に余裕のある場合は、当日会場でも受け付けます。
 〒560-0043 豊中市待兼山町 1-1 大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係
 E-mail: yukawa7@het.phys.sci.osaka-u.ac.jp (件名は「2011.10.9 参加申込」をお願いします。)
 FAX : 06 - 6850 - 5341

問い合わせ先 大阪大学大学院理学研究科内 湯川記念講演会係 TEL : 06 - 6850 - 5341 (月～金 10:00～17:00)
 大阪大学総合学術博物館湯川記念室ホームページ <http://www-yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/>
 (総合学術博物館湯川記念室)

11月7日に「新しい学務情報システム」が稼働します

新学務情報システムは、第2学期の授業開始直後は履修登録等の申請手続を行う必要があることなどを考慮した結果、本年11月7日(月)から稼働します。新学務情報システム(以下「KOAN」という)では、情報提供機能の強化と利便性の向上を目指し、これまでの「お知らせ」画面に代わり、「個人ポータル」画面となり「お知らせ」・「新着掲示(学生のみ)」・「今週の時間割(学生のみ)」・「今週の担当講義(教員のみ)」等の画面を表示するなどの機能強化を図りました。更に KOAN からの各種通知メールの送信先として、全学生に配付されているサイバーメディアセンターの情報教育システム Web メールアドレスに変更することにより、確実に学生宛に届くように改善しました。また、KOAN のロゴについては、この分野での専門家と造詣が深いコミュニケーションデザイン・センターの久保田徹特任准教授に作成をお願いし、現行のロゴをベースに、カラーリングや利用サイズについては利用媒体に合わせて色・サイズを自由に設定できるようにし、更に「矢印記号」を新たに付加することにより、ナビゲーターとしての「KOAN」の役割を強調しました。(下記参照)

KOAN のロゴ (略語無し)



KOAN のロゴ (略語有り)



なお、新しい学務情報システムに関する情報を集約した WEB ページ(新学務情報システム(KOAN)特設ページ(下記 URL を参照))を開設するとともに、学生及び教職員に対して主な変更内容を記載した「チラシ」の配付も行う予定としています。
 (新学務情報システム(KOAN)特設ページ(教職員向け))

<http://www.cmc.osaka-u.ac.jp/PORTAL/koan/new/instructor/index.html>

(新学務情報システム(KOAN)特設ページ(学生向け))

<http://www.cmc.osaka-u.ac.jp/PORTAL/koan/new/student/index.html>

(情報推進部情報基盤課)

大阪大学フォーラム2011(上海)

研究者の優れた研究活動を広く海外に発信するとともに国際的な教育研究ネットワークを構築する場として、毎年、「大阪大学フォーラム」を開催しています。

第11回を迎える今年度は、2010年2月に新たに海外拠点を開設した上海にて開催いたします。

開催日程：10月27日(木)～28日(金)

開催場所：ホテル日航上海(中国・上海)

Hotel Nikko Shanghai

テーマ：防災・減災・災害復興と国際協力 日中の経験に学ぶ

Disaster Prevention, Post-Disaster Reconstruction and International Cooperation

プログラム：

2011年10月27日(木)

10：00～11：30 主催者(大阪大学総長)あいさつ

フォーラムの趣旨説明、分科会の論点紹介など

13：00～15：00 分科会 A1 災害復興・防災における市民社会・ソーシャルキャピタルの役割

分科会 A2 地震被害の軽減を目指した最新の建築耐震技術

15：30～17：30 分科会 B 土木構築物の地震被害と対策を考える

18：30～20：30 招待レセプション

2011年10月28日(金)

09：30～11：30 分科会 C1 国境を越えてつながる災害支援

分科会 C2 原子力エネルギー：安全、リスク、人材教育

13：00～14：20 基調講演(日中同時通訳)

14：40～17：00 パネル討論「防災・減災・災害復興と国際協力」(日中同時通訳)

18：00～19：30 大阪大学カフェ～教授と話そう

主催：大阪大学

後援：在上海日本国総領事館

日本学術振興会北京研究連絡センター

実行委員長：山内 直人(国際公共政策研究科教授)

ホームページ：<http://www.osipp.osaka-u.ac.jp/shanghai/index.html>

お問い合わせ：国際交流オフィス国際交流課

E-mail：kokusai-koryu-suisin@office.osaka-u.ac.jp

(国際交流オフィス国際交流課)

最先端の物理を高校生に
Saturday Afternoon Physics 2011

- 日 時：平成23年10月15日、22日、29日、11月5日、12日、19日、午後3時～6時
 場 所：大阪大学理学部大講義室（豊中キャンパス）他
 主 催：大阪大学総合学術博物館湯川記念室
 共 催：大阪大学大学院理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科、大学教育実践センター、
 核物理研究センター、レーザーエネルギー学研究センター
 後 援：大阪府教育委員会、京都府教育委員会、奈良県教育委員会、兵庫県教育委員会、
 京都市教育委員会、日本物理教育学会近畿支部、大阪府高等学校理化教育研究会、
 朝日新聞社、大阪大学大学院工学研究科附属フロンティア研究センター



最新の自然観を知ってほしい。そのような願いを込め、今年も「最先端の物理を高校生に Saturday Afternoon Physics 2011 - 宇宙からの極微の世界まで - 」を開催します。一線で活躍する研究者による最先端の物理の分かり易い講義に様々な実験デモや展示もとりいれ、自然の謎を解き明かす物理を探索します。また、科学の知識と技術が私たちの社会にどのように生かされているかについても解説します。土曜の午後に6週間続く、内容ゆたかな、とても楽しい学校を目指します。好奇心旺盛な方々の参加をお待ちしています！

【授業構成】

授業は毎回3時間で、次の三部構成で行います。

- (1) 基幹講義：自然界の様々な世界を訪ねます
- (2) コーヒーブレイク：展示、交流、Q & A
- (3) 実践講義：ハイテクにおける物理、ゲーム、クイズ

10 / 29 は、レーザーエネルギー学研究センター、核物理研究センター、工学研究科の最先端研究施設を見学します。

【募集対象】高校生（教職員、保護者のオブザーバー参加も可能です。）

【募集人数】180名

【参加費】無料

【申し込み】事前の申し込みが必要です。郵便・FAX・E-mail 又は Web サイトでの申し込みが可能です。

氏名（フリガナ）、学校名、学年、住所と郵便番号、申し込みの動機、メールアドレス（FAX 番号）をお知らせ下さい。
 詳しくはホームページ <http://www.yukawa.phys.sci.osaka-u.ac.jp/SAP/> をご覧ください。

【申し込み締め切り】9月24日（土）必着

問い合わせ先 大阪大学理学研究科内 湯川記念室（〒560-0043 豊中市待兼山町1-1）
 FAX：06 - 6850 - 5341
 E-mail：sap2011@phys.sci.osaka-u.ac.jp
 件名：SAP2011 申し込み

（総合学術博物館湯川記念室）

学生支援ステーションの取り組み状況について

教育・情報室 学生支援ステーションは、大学教育の一環として学生生活における個別の相談支援や課外の社会活動支援を実施することで、学生の人間形成を総合的に支えるための活動を行っています。2010年1月から学生生活相談ユニット、障害学生支援ユニット、進路相談ユニットの3つのユニットが連携して活動を行っており、今年5月からは新しく進路相談ユニットに近藤久美子准教授を迎えて、専任教員3名と担当職員の支援体制となりました。また、2010年度の活動報告書がこのたび発行され、活動報告書は学生支援ステーションのホームページで公開されています。

相談支援の面からは個別の対応に加えて、ピア・サポートの役割を担う学生生活相談員によるニューズレターの発行や、Station Cafe を定期的実施することで、学生に対するコミュニティの提供や各々の相談につなげる活動を試んでいます。また、社会活動支援の面からは、通期の手話講習会、震災ボランティア活動に関する報告・意見交換会の実施、「市民社会におけるリーダーシップ養成支援（文部科学省学生支援 GP：Good Practice）」の後継プログラム実施など、学生ならびに教職員の連携のもと、より質の高い学生支援の機会提供に努めています。取り組み状況の詳細については、学生支援ステーションのホームページにアクセス下さい。

URL:http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/support_st



学生支援ステーションの運営に携わる教員・職員・学生生活相談員によるミーティングの様子



近藤久美子 准教授

2011年5月より、学生支援ステーションに着任しました近藤久美子です。これまで5年間教員として、多様なバックグラウンドを持つ留学生や学部生・大学院生と接する機会に恵まれました。彼らからのメッセージは、「もっと学んだことを生かせるような仕事に就きたいが、採用枠の厳しさや、周囲の学生と比較してしまうことで焦り、業種を選ばず応募してしまう」というものでした。また、企業が発信するメッセージの意図とそれを受け止める学生の間に大きなギャップが存在していることも実感しました。阪大生の皆さんの仕事に対する視野が広がるような取り組みの充実に努め、企業と学生間のコミュニケーションを円滑にするお手伝いできればと思っています。私の研究は、環境・資源経済学の実証分析が中心でしたが、今後はCSR（企業の社会的責任）等の研究にも従事したいと考えています。

（教育・情報室 学生支援ステーション）

第43回21世紀懐徳堂講座を開講します

大阪大学は、1968年に国立大学で最初に一般社会の方々に向けた公開講座を実施しました。当初は、「大阪大学開放講座」の名称で開講してきましたが、2004年からは「大阪大学中之島講座」と名称を改め、中之島センターを会場として実施してきました。

創立80周年を迎えた本年、社会学連携事業の中心的な講座として「21世紀懐徳堂講座」と改称し、連綿と続く社会貢献の伝統を引き継ぐことにいたしました。

今年の共通テーマは、「ここから拓く未来」とし、「(A)震災と原発 - 安心を築く」、「(B)復興の知 - 暮らしと心」の二つのサブテーマを設定し、甚大な被害の「東日本大震災」に対し、大学の知を市民の方々とともに考える内容で9月～12月にかけ全14回の講義(有料)を予定しています。

本学が誇る14名の講師陣により、様々な角度から諸問題を皆様とともに考えてゆきたいと思えます。

サブテーマA「震災と原発 - 安心を築く」

開催予定日	講師氏名	所属・職名	題目
9月14日(水)	廣野 哲朗	理学研究科・准教授	「東日本太平洋沖地震から何を学んだか？ 来る南海地震に備えて何をすべきか？」
9月16日(金)	宮本 裕司	工学研究科・教授	地震の揺れと建築の耐震
9月28日(水)	片岡 勲	工学研究科・教授	原子力発電のこれまでと今後 - 福島原発事故をうけて -
10月5日(水)	下田 吉之	工学研究科・教授	都市から今後のエネルギーシステムを考える
10月12日(水)	藤原 守	核物理研究センター・准教授	福島第一原子力発電所から出た放射性物質の分布
10月19日(水)	中島 裕夫	医学系研究科・助教	原発事故の生物に対する影響を正しく理解するために

サブテーマB「復興の知 - 暮らしと心」

開催予定日	講師氏名	所属・職名	題目
10月26日(水)	小浦 久子	工学研究科・准教授	震災復興と暮らしの風景
11月16日(水)	鎌方 安行	医学系研究科・准教授	大規模災害時の被災者医療への取り組み
11月17日(木)	中岡 成文	文学研究科・教授	「復興する」ために 臨床哲学から
11月25日(金)	林 敏彦	大阪大学名誉教授 同志社大学教授	大災害の経済被害と経済復興
11月30日(水)	渥美 公秀	人間科学研究科・教授	災害ボランティアの現状と展望
12月7日(水)	西田 正吾	基礎工学研究科・教授	災害時のコミュニケーション支援 - 危機管理における情報システムのあり方について -
12月14日(水)	稲場 圭信	人間科学研究科・准教授	心のケアから丸ごとのケアへ - 共感縁と無自覚の宗教性 -
12月16日(金)	釘原 直樹	人間科学研究科・教授	危機事態の行動と心理

その他詳細につきましては、21世紀懐徳堂のホームページでお知らせします。

アドレス <http://21c-kaitokudo.osaka-u.ac.jp/>

記念講義

部局（講座・部門等）	氏名	日時・場所	講義題目
言語文化研究科	岡田 信夫	平成23年9月15日(木) 15時30分～16時30分 場所:言語文化研究科棟 2階 大会議室	動的文法理論に基づく英文法研究と 学習英文法の再構築
理学研究科 (生物科学専攻・関連生物学 講座)	荻原 哲	平成23年9月29日(木) 15時～16時 (大阪大学会館講堂)	アゴラとしての大学：新しい学問と 教育、国際性、社会との交わりのため

訂正とお詫び

阪大NOW No.125(2011年6月号)掲載内容に一部誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともにお詫び申し上げます。

P.66 「新教授紹介」

谷崎久志教授略歴(追加)

平23.4 大阪大学教授大学院経済学研究科



INTERVIEW

みなと りょうこ
湊 涼子

アクティブに、
そして出会いを大切に

微生物病研究所庶務係

現在、微生物病研究所庶務係で主に人事関係の仕事を担当する湊さんは、採用部署の本部事務機構財務部から異動して2年目を迎えている。今回は「キャニオニング」に参加している職員がいるとの情報を入手し、新しいアクティビティに参加する職員にその魅力を尋ねようとお話を伺ったが、湊さんの行動力はそれだけにとどまらなかった。

キャニオニングに参加して



キャニオニングとは、渓谷でロープを使って下降したり、小さな滝を滑り降りたりするスポーツである。「去年の9月に新宮（和歌山県）で一度活動しただけなんです。すみません。（笑）ただ、キャニオニングに限らず色々挑戦してみたいという気持ちは持っていますね。」

何にでも挑戦してみたいとい

う湊さんに、そのきっかけや原動力について尋ねてみた。

きっかけ

高校2年生の修学旅行でモンゴルへ行き、雄大な自然に大きな衝撃を受けた。また、日本での生活とは全く違う人々の営みに今までの常識がくつがえされ、challenge spritが芽生えたという。モンゴルへの修学旅行は当時、日本初の試みだったようで、湊さんのアクティブさを見ると、その試みは大成功であったといえるだろう。

学生時代

修学旅行での自然体験の感動が忘れられず、大学1回生の夏に、友人と計画し、屋久島の縄文杉を目指した。「樹齢何千年とも言われる巨樹と対面しその存在感・歴史に圧倒されました。」

3回生のときにフランスへ語学留学し、4回生のときには夏に沖縄と北海道を一人旅した。異なる環境や世代の人との出会いが大きな収穫だったと振り返る。

卒業が迫った2月には、ベトナム、カンボジアへのスタディツアーに参加した。「単なる観光地めぐりではなく、貧しい暮らしを強いられる人々の暮らしを間近で見たりできたことは非常に貴重でした。」そのツアーには多くの阪大生が参加していた。みな目的意識が非常に高く、既に阪

大への就職が決まっていた湊さんがそこで彼らと出会い、共有した時間は単なる偶然ではなかったのかもしれない。今でもキャンパス内で会ったときに声をかけてくれる学生もいるそうだ。

大阪大学に就職して

学生の頃と異なり、自由な時間は減るものだ。それでも何とか参加したいと、いま、夢中になっているのは【野外ロックフェス】だという。

野外ロックフェスの魅力は音楽を楽しむだけでなく、全国から集まる様々な人との交流にあるという。

採用された年には北海道小樽市で開催されるオールナイト野外ロックフェスに参加した。石狩の広大な自然を感じることができ、北海道大学大学院に通う友人らのグループに参加した経験や、そこでの出会いは忘れられない。

翌年には茨城県ひたちなか市で開催されるイベントに参加した。WEBの掲示板で知り合った参加者の車に便乗し、現地へ向かった。また、いつかはキャンプで参加したいというからパワフルだ。

今年は、新潟県湯沢町と、ひたちなか市で開催されたイベントに参加したという。どんな出会いがあったのだろうか。

大事にしていること、これからの目標

「『とりあえず行動に移す』ということを大事にしています。人見知りをしない性格のおかげで、旅先での出会いが財産になっています。その時やりたい事を思い切り堪能する。そのためには日々の過ごし方が大事ですね。普段の仕事のコツコツと頑張っ、周りの人から信頼を得ることを大切にしていきたいですね。」



RISING SUN ROCK FESTIVAL
(北海道小樽市)にて
前列左から2番目が湊さん

欢迎大家来上海教育研究中心！

上海教育研究センター長

言語文化研究科教授 古川 裕

中国語の勉強していますか？ 中国へ留学に行きませんか？

上海教育研究センターから発信する海外拠点だよりでは、今まさに中国語を学んでいる人たち、中国語なら前に勉強したことがあるよ...という人たちは言うまでもなく、残念ながらまだ勉強したことがない...なんていう人々にも、中国語の生き生きとした面白さをお伝えしたいと考えています。

上海教育研究センターは、上海のみならず中国語圏の各地から優秀な留学生に来てもらうための受け入れ窓口になるほかに、本学からも多くの学生諸君に中国語圏の各地へ留学に出てもらうための送り出しをするのも大切なミッションだと考えています。

中国語に興味がわいてきたら、そして、中国語を使ってみたくなったら、ぜひ上海教育研究センターへ訪ねて来てください。歓迎、歓迎、熱烈歓迎！.....というわけで、この文章のタイトルは「みなさん上海教育研究センターへいらっしやい！」という、読者の皆さんへのアツいメッセージなのです。

まずは、上海教育研究センターへのアクセスから

上海教育研究センターへは地下鉄10号線の“交通大学”駅が最寄り駅で、下車したあと4番出口から地上に出てすぐそこ、というたいへん便利なアクセスです。



駅名表示で交通大学は Jiaotong University、上海図書館は Shanghai Library。

Jiaotong や Shanghai など中国語の発音をアルファベットで綴ったものをピンインと言います。実際のピンイン

表記では、音声の高さアクセントを示す声調記号を添えます。

また、同じ漢字でも現代中国語では「図書館」の3文字を簡体字で“图书馆”と書きます。

地下鉄の4番出口を出て、地上に上がって後ろを振り返ると、淮海西路に面して聳え立つ28階建ての



地下鉄10号線、交通大学駅4番出口。すぐ後ろに見えるオフィスビルの22階に本学の上海教育研究センターがある。

上海交通大学のメインキャンパスである徐匯キャンパスは、この駅から徒歩5分。

“申通信息広場”という名のオフィスビルが見えます。このビルの22階に上海教育研究センターのオフィスがあります。

現時点で上海にはあわせて12本の地下鉄路線が開通していますが、この10号線は上海万博の開催にあわせて昨年(2010年)4月に開通したばかりの新路線です。私たちの上海教育研究センターの開設後、間もなくしてこの路線も開通しました。現地のマスコミ評によれば、10号線は上海で最も清潔な地下鉄で、上海一の黄金路線なのだから。

たとえば、10号線の沿線上には上海のトップ3大学である上海交通大学、同済大学、復旦大学がライバル同士ながら同じ路線上に肩を並べています。この3大学はいずれも本学と大学間交流協定を結んでいる大事なパートナー校です。



上海交通大学の閔行(ミンハン)キャンパスの正門。

前身となる南洋公学が1896年に創立され、1959年に上海交通大学となる。西安交通大学や台湾国立交通大学など(両大学ともに本学の大学間交流協定校)と同源の関係にある。

また、今年(2011年)6月30日に予定日程を早めて全線開通をして色々話題になった北京~上海間の高速度鉄道(中国版新幹線)のターミナル駅である上海虹橋駅、国際空港でもある上海虹橋空港(東京羽田空港からは直行便が飛んでいて便利。関空から、できれば伊丹空港からも直行便が



同済大学の四平路キャンパスの正門、そして学内にある創立記念碑。
1907年にドイツ医学を学ぶ学堂として発足した。総合大学だが、特に土木建築分野では中国トップレベル。



復旦大学の正門と学内にある日本研究センター。復旦大学は1905年創立、2000年には上海医科大学と合併。名実ともに文理医がバランスよく揃った総合大学。

飛ばないかな)にも通じています。豫園や南京東路、新天地、上海動物園などの観光スポットや上海図書館も10号線がつかないでいます。というわけで、10号線こそ黄金路線という評価にも納得がいきますね。

オフィスビルの名前の謎

さて、私たちの上海教育研究センターが入居しているオフィスビルですが、このビルの名前“申通信息広場”(現代中国語の簡体字と発音で書けば“申通信息广场 Shēntōng xìnxī guǎngchǎng”)とは、いったいどう言う意味なのでしょう？

文字を一見ただけでは、あまりビルの名前らしく感じませんが、中国語を使ってこの謎を解いてみるとこうなります。まず、“申”は上海の別称としてよく使われる字です。次の字“通”は「交通」を示唆していて、この2文字を合わせれば「上海+交通」の組合せだと気がつきます。つまり、これは上海交通大学関係のビルだよ、という意味が隠れているのです。現にこのビルの中には上海交通大学に関するたくさんのベンチャー企業や、上海交通大学と交流がある名古屋大学、立命館大学などのオフィスも同居しています。それに続く“信息”は中国語で「情報 information」のこと、



28階建てツインビル、申通信息広場の遠景。

この住所は、上海市徐淮区淮海西路55号です。

なので“信息系统”なら「情報システム」、「信息科学」なら「情報科学」、「信息处理」なら「情報処理」...というわけです。ちなみに、中国語で“情报 qíngbào”というのは「(軍事的、政治的な)機密情報」というニュアンスを伴いがちなので要注意です。残る“广场”は日中同形語で「広場」のこと。というわけで、これらを総合すれば“申通信息広場”とはすなわち「上海交通大学に関する、情報プラザ」という名乗りなのでした。現に、ビルの正面には『信通信息廣場』という漢字表記とSUN TONG INFOPORT PLAZA という英文表記とが並列してあります。ここで、漢字が繁体字であり、発音が南方方言音であるのは、このビルに香港資本が投資しているからでしょう。

このように同じビルの名前を目にしても、中国語がわか



繁体字で『信通信息廣場』、英語ではSUN TONG INFOPORT PLAZAという表示。

っている場合とそうでない場合とでは、その隠れた意味の理解や印象に残るものうえで随分と大きな差があるはず。これからも、そんな視点から中国語の街かどで見かけた「生きた」中国語の姿を紹介してゆきたいと思います。

では、次回の上海だよりをお楽しみに。

シェフィールド大学

The University Of Sheffield.



イングランド北西部、南ヨークシャーに位置するシェフィールドは、イングランド第4位の都市ながら環境や治安が良く物価も手頃で学生に人気の街です。今回はこの地にあるシェフィールド大学の魅力について、同大学東アジア研究科で博士号を取り、コンタクト・パーソンでもある私をご紹介します。

素晴らしい環境

シェフィールド大学は市中心部から歩いて10分のところにあります。周囲には美しい公園や植物園がいくつもあり、壮大なピーク・ディストリクト国立公園へもバスでほんの少しの距離です。

充実した施設と学生生活

1300の自習スペースと500台のPCを備え24時間利用可能なインフォメーション・コモンスをはじめ学内施設が非常に充実しており、2010年の学生生活調査(Times Higher Education Student Experience Survey)では図書館、学生寮、キャンパス周辺環境、課外活動、学生会、学生生活の部門で全英第1位、総合でも第2位となりました。

幅広い研究分野

6学部(人文学部、工学部、医学部、歯学・健康学部、理学部、社会科学部)55学科あり、学部・大学院のレベルで様々なプログラムが提供されています。ギリシャのテッサロニキにもシティ・カレッジ国際学部があります。

優れた研究活動

システム工学、スマート工学、肝細胞テクノロジーの分野において世界をリードする研究が行われています。また薬学部も有名です。

2008年の大学の研究評価(Research Assessment Exercise (RAE))においてシェフィールド大学は英国のトップ研究大学20校のうち上位10校に入りました。2010年のQS世界大学ランキングでも69位につけています。また、5人のノーベル賞受賞者をはじめとして多くの著名な卒業生を輩



出しています。

高い教育レベル

英国の大学教育は政府のQuality Assurance Agency for Higher Education (QAA)によって厳しく評価されます。最新のQAAでシェフィールド大学は29の分野で最高評価を獲得しました。これは他大学に比べてもかなり優れた結果です。また学生の側からも、2009年の全英大学学生評価で6つの学科(アジア研究、コンピューター科学、遺伝学・分子生物学、ジャーナリズム、神学・宗教学)が教育満足度第1位をとったことから、シェフィールド大学がその教育において高い評価を受けていることがわかんと思います。

おわりに：シェフィールド大学への誘い

このようにシェフィールド大学は研究者、学生双方にとって魅力に溢れた大学です。研究面では協定締結を機にさらに研究交流をはかるべく、まずアジア研究の分野で相互の研究者のリスト作りが進んでいますし、学生の皆さんにはぜひ交換留学に挑戦して欲しいと思っています。シェフィールド大学との共同研究や留学について興味のある方は、ぜひ私にご相談下さい。

Website: <http://www.shef.ac.uk/>

(コンタクトパーソン・Beverley Anne Yamamoto 人間科学研究科准教授)

編集後記

今年も無事に夏まつり(33ページ)や天神祭(35ページ)など夏の行事が終わりました。

全国であらゆる節電の取り組みがなされながら、何とか暑さも峠を越えたといえるでしょうか。ただ、依然暑い日が続きますので、みなさん体調管理にはくれぐれもお気をつけいただきたいものです。

また、大阪大学は8月26日から平野総長での新体制がスタートします。役員の方々の顔ぶれも変わり、新たな4年間の始まりとなります。

私も「夢」を持って、頑張っていきたいと思います。

(柿木)

フェンシング部

今一番アツいスポーツ！！



大阪大学フェンシング部です。昨年、フェンシング部は、近年で最も優秀な成績を挙げることができ、課外活動総長賞特別賞を受賞することもできました。今年度は、去年の成績に甘んじることなく、去年を上回る成績を目標に、みんなで日々の練習に真剣に取り組んでいます。それではフェンシングについて紹介させていただきます。

フェンシングは、西洋の騎士たちの戦いをスポーツ化したもので、金属製の剣で互いに相手の定められた身体部位を突いたり、斬ったりして得点を競うものです。日本では北京五輪での太田選手の活躍もあり、ようやく注目を浴びるようになりましたが、欧米では昔から盛んに行われており、オリンピックではなんと1896年の第1回大会から現在に至るまで正式種目になっています。また、フェンシングには、太田選手が銀メダルを獲得したフルーレ、足のつま先から頭の上までどこを突いても点数になるエペ、相手を斬って攻撃することができるサーブルの三種目がありますが、どの種目も、スピード・パワー・技の正確性・駆け引きが要求され、それがフェンシングの一番の魅力といえ

ます。

いかがですか。私たちは、日々、充実した生活を送っています。そしてフェンシング部には大学からはじめた人ばかりで、体力に自信のない方も心配する必要は全くありません。少しでもフェンシングに興味があれば、是非体育館に足を運んでみてください。



主将 山田祐太郎(工3回生)

コメント

前回の七大戦は総合4位と、阪大の足を引っ張ってしまいました。今年は、七大戦、絶対に優勝します。



練習場所：豊中キャンパス第一体育館小体育室
練習日時：正規練：金17時00分～20時00分
自由練：火・木17時00分～20時00分
土11時30分～14時

部員数：10人(三回生2人、二回生1人、一回生7人)
連絡先：主務 岡崎祐磨(法3回生)united09@ezweb.ne.jp
ホームページ：

<http://osakaunivfencing.web.fc2.com/>

トピックス

大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会 「命の彼岸と此岸、そしてその先へ」

7月3日(日)、大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会が開催されました

本講演会は、大阪外国語大学の卒業生である作家の司馬遼太郎氏の業績を偲び、その遺産を継承するため、学生及び一般市民を対象として、比較文明的な視点から日本を論じる記念学術講演会として開催されてきたもので、大阪外国語大学が大阪大学と統合したことにより、本講演会については、そのまま大阪大学主催事業（共催 産経新聞社/関西2100委員会）として引き継がれ、名称も「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」として今年で第14回目の開催を迎えました。

本年は、「命の彼岸と此岸、そしてその先へ」をテーマに去年に引き続きサンケイホールブリーゼ（大阪市北区）を会場として、約900名の方々が来場されました。

冒頭に司馬作品「持衰」の朗読があった後、鷲田清一総長からの主催者挨拶があり、第1部の講演が始まりました。



対談の様子



柳田敏雄氏



山折哲雄氏

講演では、まず、柳田敏雄生命機能研究科特任教授が『『ゆらぎ』が創る宇宙と生命』と題して講演され、続いて、元国際日本文化研究センター所長で同名誉教授の山折哲雄氏が「ゼロ(0)の思想と現代」と題して講演されました。

第2部では、「生命(いのち)について」と題して両氏による対談が行われました。今回は初めて理系の講師をお迎えしたこともあり、科学と思想の対話は文理の枠を超えた宇宙論にも発展するなど、来場された参加者は、司馬作品の奥深さに魅了される時間を過ごされていました。

写真提供：産経新聞社
(広報・社会学連携オフィス広報・社会学連携事務室)